福岡市埋蔵文化財調査報告書　第246集

博　多　18

―博多遺跡群第43次発掘調査報告―

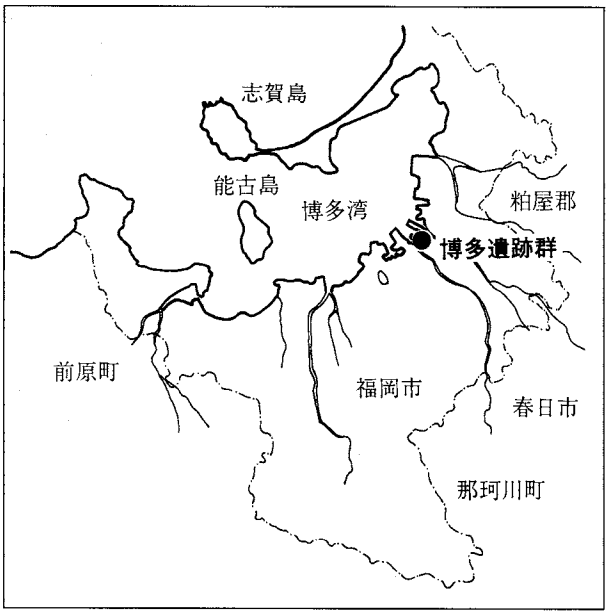
1991

福岡市教育委員会

博　多　18

— 博多遺跡群第43次発掘調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第246集



遺跡調査番号　8852
遺跡略号　HKT43

1 9 9 1

福 岡 市 教 育 委 員 会

序

博多遺跡群は、ＪＲ博多駅より博多湾にかけて広がる弥生時代から中・近世に亘る複合遺跡です。弥生時代以来、大陸文化流入の門戸として栄え、とりわけ中世の国際都市「博多」の繁栄を物語る多種多量の輸入陶磁器の出土は、多くの関心を集めるところとなっております。

近年、都心部の再開発が活発に進められ、それに伴って発掘件数も増加しています。

福岡市教育委員会では、工事によってやむを得ず消滅するこれら埋蔵文化財については、記録保存に努めているところであります。

本書は、昭和63年度に実施したビル建設工事に伴う第43次発掘調査の記録を収録したものです。本書が埋蔵文化財に対する市民の方々のご理解、さらには学術研究上役立つことができれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査から整理報告に至るまで三井不動産株式会社、清水建設株式会社をはじめ、多くの方々のご理解とご協力を賜わりましたことに対し、心より感謝の意を表します。

平成３年１月10日

福岡市教育委員会

教育長　井口雄哉

例　言

1．本書は、福岡市教育委員会が1989(平成１)年１月23日から４月17日にかけて発掘調査を実施した、ビル建設に伴う博多遺跡群第43次緊急発掘調査の報告書である。

2．遺構の呼称は記号化し、掘立柱建物→ＳＢ、井戸址→ＳＥ、土壙→ＳＫ、溝→ＳＤ、ピット→ＳＰとした。なお、遺構番号は第Ⅰ調査面から第Ⅳ調査面まで各調査面ごとに付し、種類に関係なく連番とした。ただし、ＳＰはＳＰだけで各調査面ごとに番号を付している。第Ⅰ調査面は100番台、第Ⅱ調査面は200番台、第Ⅲ調査面は300番台、第Ⅳ調査面は400番台となっている。

3．本書に記載した実測図のうち、土師器の坏や皿については底部調整痕を図右下に略して細かく表示している。巻上→粘土紐巻上げ、ヘラ→回転ヘラ切り、糸→回転糸切り、板→板目圧痕のことである。

4．本書に使用した遺構図は、下村　智・荒牧宏行・黒田和生・英　豪之・溝口武司・中神元志・松尾和浩・村山光喜・北山陽子が作成した。現場写真は下村が撮影した。遺物実測は下村と上方高弘が行なった。また、製図は下村の他、竹原りえが行なった。遺物写真は上方高弘の撮影による。

5．本書で用いる遺構図の方向は全て磁北である。

6．博多遺跡群第43次調査に係る遺物、記録類（図面、写真、スライドなど）は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・管理される予定である。

7．本書の執筆・編集は下村が行なった。

遺跡調査番号	8852	遺跡略号	ＨＫＴ43			
調査地地籍	博多区店屋町８，９番地		分布地図番号	049－Ａ－１		
開発面積	407㎡	調査対象面積	240㎡	調査実施面積	247㎡	
調査期間	1989(平成１)年１月23日～４月17日		事前審査番号	63－２－296		

本　文　目　次

序
Ⅰ　はじめに …… 1
　1　調査に至る経過と調査組織 …… 1
　2　遺跡の立地と環境 …… 1
Ⅱ　調査の記録 …… 3
　第Ⅰ調査面 …… 3
　第Ⅱ調査面 …… 4
　第Ⅲ調査面 …… 4
　第Ⅳ調査面 …… 8
　主 要 遺 構 …… 9
Ⅲ　おわりに …… 29

挿　図　目　次

Fig. 1　博多遺跡群位置図（1/25,000） …… 2
Fig. 2　第43次調査地点位置図（1/4,000） …… 2
Fig. 3　第43次調査区周辺図（1/1,000） …… 3
Fig. 4　調査区範囲図（1/300） …… 4
Fig. 5　第Ⅰ調査面遺構配置図（1/100） …… 5
Fig. 6　第Ⅱ調査面遺構配置図（1/100） …… 6
Fig. 7　第Ⅲ調査面遺構配置図（1/100） …… 7
Fig. 8　第Ⅳ調査面遺構配置図（1/100） …… 8
Fig. 9　出土遺物実測図　(1)　(1/3) …… 11
Fig.10　出土遺物実測図　(2)　(1/3,1/6) …… 12
Fig.11　出土遺物実測図　(3)　(1/3,1/6) …… 13
Fig.12　出土遺物実測図　(4)　(1/3) …… 14
Fig.13　出土遺物実測図　(5)　(1/3) …… 15
Fig.14　出土遺物実測図　(6)　(1/3) …… 16
Fig.15　出土遺物実測図　(7)　(1/3) …… 17
Fig.16　出土遺物実測図　(8)　(1/3) …… 18
Fig.17　出土遺物実測図　(9)　(1/3,1/6) …… 19

Fig.18　出土遺物実測図 ⑽　(1/3) …… 20
Fig.19　出土遺物実測図 ⑾　(1/3) …… 21
Fig.20　出土遺物実測図 ⑿　(1/3) …… 22
Fig.21　出土遺物実測図 ⒀　(1/3) …… 23
Fig.22　出土遺物実測図 ⒁　(1/3) …… 24
Fig.23　出土遺物実測図 ⒂　(1/3) …… 25
Fig.24　出土遺物実測図 ⒃　(1/3) …… 26
Fig.25　出土遺物実測図 ⒄　(1/3) …… 27
Fig.26　出土遺物実測図 ⒅　(1/3) …… 28

図　版　目　次

PL. 1　(1)　第Ⅰ調査面全景（東から）
　　(2)　ＳＤ121出土状況（西から）
PL. 2　(1)　ＳＫ103遺物出土状況（東から）
　　(2)　ＳＫ133～135・157出土状況（東から）
PL. 3　(1)　ＳＫ145出土状況（南から）
　　(2)　ＳＢ177出土状況（西から）
PL. 4　(1)　第Ⅱ調査面全景（西から）
　　(2)　ＳＫ201出土状況（東から）
PL. 5　(1)　ＳＫ202出土状況（北から）
　　(2)　ＳＫ204出土状況（南から）
PL. 6　(1)　ＳＫ205出土状況（西から）
　　(2)　ＳＫ228出土状況（南から）
PL. 7　(1)　ＳＫ234出土状況（東から）
　　(2)　ＳＫ245出土状況（南から）
PL. 8　(1)　第Ⅲ調査面全景（東から）
　　(2)　ＳＫ303下面出土状況（北から）
PL. 9　(1)　ＳＫ303上面出土状況（西から）
　　(2)　ＳＫ308出土状況（西から）
PL.10　(1)　ＳＫ318出土状況（南から）
　　(2)　ＳＫ331・332出土状況（南から）

PL.11　(1)　ＳＫ333出土状況（東から）
　　(2)　ＳＥ309出土状況（南から）
PL.12　(1)　ＳＥ311出土状況（西から）
　　(2)　ＳＥ327出土状況（東から）
PL.13　(1)　ＳＫ403出土状況（東から）
　　(2)　ＳＫ404出土状況（西から）
PL.14　出土遺物(1)
PL.15　出土遺物(2)
PL.16　出土遺物(3)
PL.17　出土遺物(4)
PL.18　出土遺物(5)
PL.19　出土遺物(6)
PL.20　出土遺物(7)
PL.21　出土遺物(8)
PL.22　出土遺物(9)
PL.23　出土遺物(10)
PL.24　出土遺物(11)
PL.25　出土遺物(12)
PL.26　出土遺物(13)
PL.27　出土遺物(14)
PL.28　出土遺物(15)
PL.29　出土遺物(16)
PL.30　出土遺物(17)
PL.31　出土遺物(18)
PL.32　出土遺物(19)
PL.33　出土遺物(20)
PL.34　出土遺物(21)
PL.35　出土遺物(22)
PL.36　出土遺物(23)

表　目　次

表1　近世陶磁器一覧表 …… 31
表2　出土銅銭一覧表 …… 32

Ⅰ はじめに

1　調査に至る経過と調査組織

1988（昭和63）年８月12日付で、大阪市西区の甲陽株式会社と同じく大阪市東区の芙蓉土地建物株式会社から連名で、博多区店屋町８番及び９番地内における事務所ビル建設に伴う埋蔵文化財の事前調査願が教育委員会埋蔵文化財課に提出された。埋蔵文化財課では、博多遺跡群の範囲内であり、これまで、南側及び北側の隣接地で埋蔵文化財の本調査を実施していることから、申請地は本調査が必要であると判断した。南側（第39次調査）は、古代から中世・近世にかけて、北側（第38次調査）は中・近世を中心とする良好な遺構・遺物群が検出されており、間に挟まれた申請地にも連続していることが容易に推測できた。したがって、これまでの成果をもとに本調査の協議をかさね、既設ビル地下室で破壊されている部分以外を調査対象として本調査を実施することになった。調査は三井不動産株式会社の受託調査として行なった。調査組織は以下のとおりである。

調査委託：三井不動産株式会社　福岡支店

調査主体：福岡市教育委員会　教育長　佐藤善郎

調査総括：埋蔵文化財課長　柳田純孝　埋蔵文化財第２係長　飛高憲雄

調査庶務：埋蔵文化財第１係長　折尾　学　松延好文

調査担当：埋蔵文化財第１係　下村　智　荒牧宏行

調査作業：山部増人、村山光喜、坂井　誠、武藤　健、松尾和浩、中神元志、神尾順次、三浦義隆、瀬戸啓治、黒田和生、英　豪之、溝口武司、北山陽子、嶋ヒサ子、山本后代、松浦ウメノ、小陣福子、橘　良子、清原ユリ子、佐藤テル子、徳永ノブヨ、萬スミヨ、高田　茂

整理作業：上方高弘、安野　良、松尾絹世、竹原りえ、島野素子、吉村知子

2　遺跡の立地と環境

博多遺跡群は、福岡平野の中央部を北西に流れる那珂川と江戸時代に開鑿された石堂川とにはさまれた砂丘上に位置している。北は博多湾に面し、南は石堂川開鑿以前に那珂川に流入していた旧比恵川によって画されている。博多遺跡群の本格的な調査は、地下鉄路線内祇園町工区から開始され、築港線拡幅工事に伴う事前の発掘調査に加え、民間開発に伴う発掘調査も既に70次近くになっている。これまで、弥生時代から中世・近世にかけての集落址や墓地が調査され、夥しい数の遺構・遺物が検出されている。

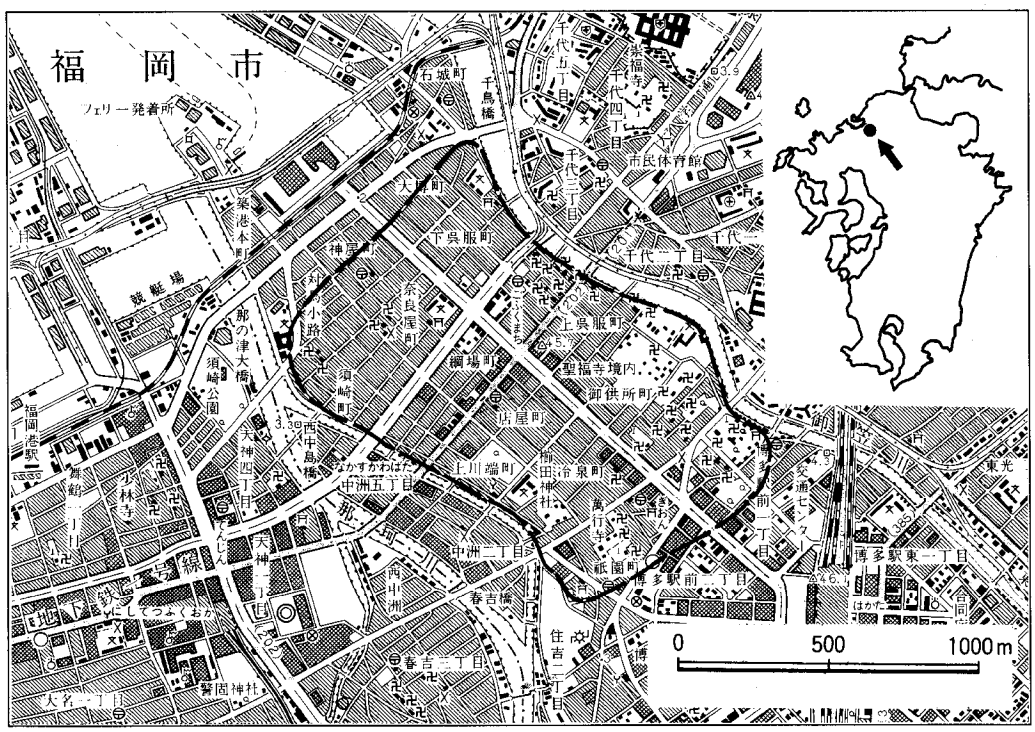


Fig. 1　博多遺跡群位置図（1/25,000）

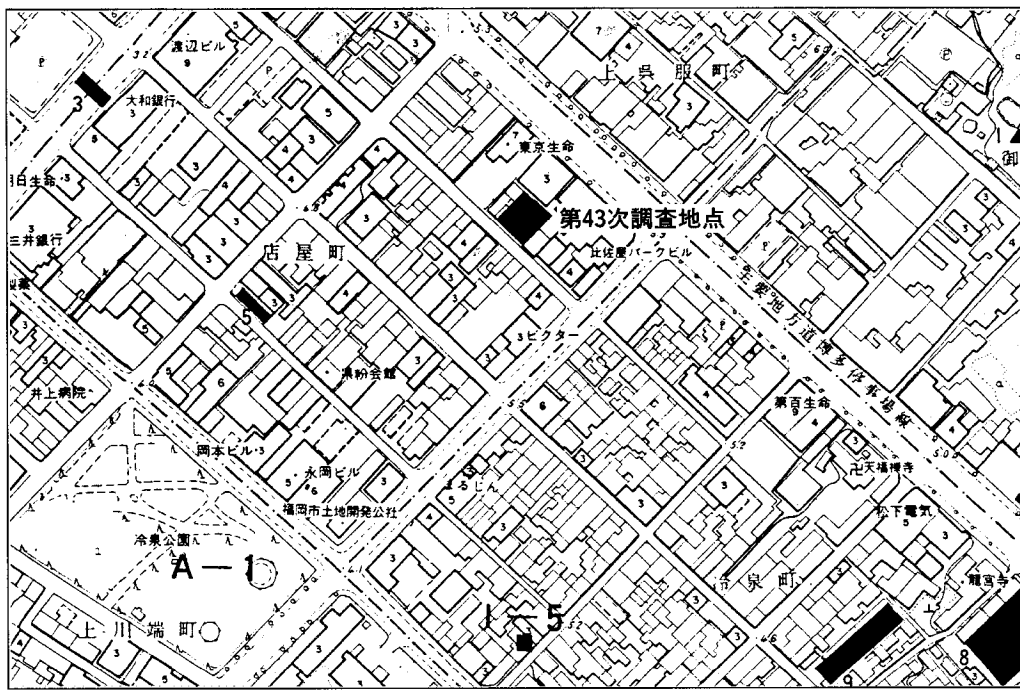


Fig. 2　第43次調査地点位置図（1/4,000）

Ⅱ 調 査 の 記 録

発掘調査は、旧建物の基礎除去後から開始し、既に現地表から－1.6m前後の攪乱層がスキ取られた状態からであった。博多遺跡群の場合、生活面が重層的に堆積しているので、余程の鍵層でもない限り同一時期の生活面を検出するのは難かしい。そこで任意の調査面を設けて掘り下げを行なった。調査面は第Ⅰ面から第Ⅳ面までの４面である。

第Ⅰ調査面（Fig. 5、PL. 1）

攪乱層除去後の面を第Ⅰ調査面としたが、部分的に深い攪乱が残存していた。標高3.6m前後である。検出遺構は、土壙69基、井戸址４基、溝３条、１間×１間の掘立柱建物１棟、ピット69個と単独に出土した瓦質及び常滑の大甕３個である。土壙は、近世の廃棄物処理遺構が多く調査区東側に集中している。18世紀を中心とした伊万里染付磁器や肥前系の陶器、在地系の陶器などが多量に出土している。第43次調査の出土遺物のうち半数以上がこの近世陶磁器である。近世陶磁器は近代になって廃棄処分されたものも含まれそうである。調査区西側は、近世遺構が少なくなり、レベルがやや低いところで12～13世紀の遺構が検出できる。井戸址は３基

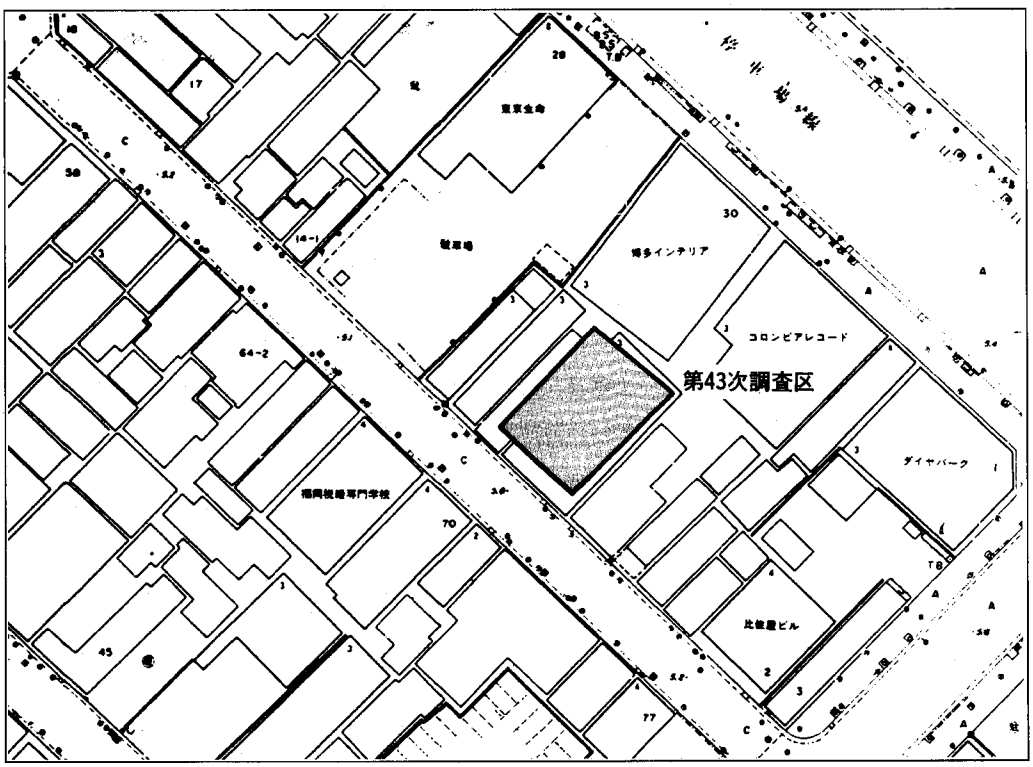


Fig. 3　第43次調査区周辺図（1/1,000）

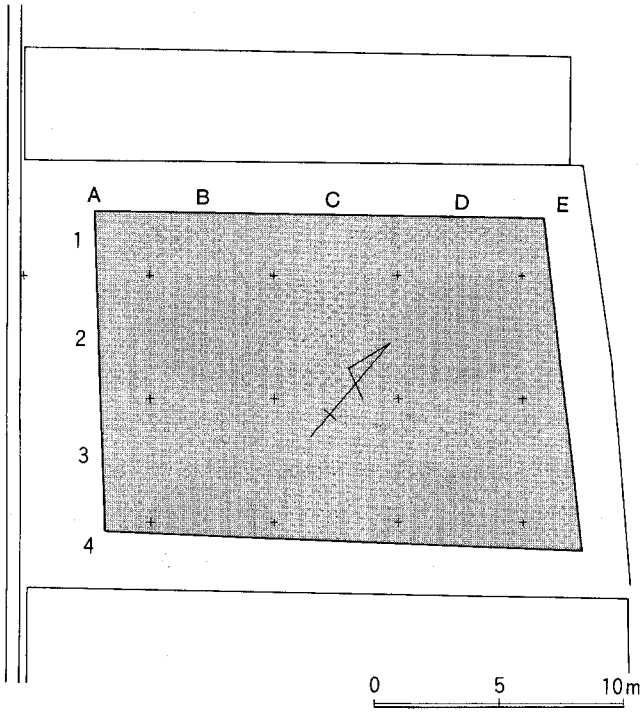


Fig. 4　調査区範囲図（1/300）

が近世のものである。

そのうち、2基は瓦組の井戸である。溝は3条検出され、SD121はN 44°Eをとる。これと直角方向にSD136と137が走る。3条とも淡褐色に焼土粒子の混入した覆土をもち、時期的には同一と考えられる。これらの溝は、部分的に深くなるところが見られ、礫も多く、水路などではなくて町割を区画する施設のひとつではないかとみられる。SB177はこれらの溝に方向を揃える1間×1間の建物である。柱穴には扁平礫をすえ礎板としている。桁行2.3m、梁行2.2mでほぼ正方形に近い。溝及び掘立柱建物は15～16世紀に属するものとみられる。土壙のうち長方形のものは、溝と方向を揃えるものが多い。

第Ⅱ調査面（Fig. 6、PL. 4）

第Ⅰ調査面から30～40cm掘り下げた面である。標高3.2m前後で遺構確認を行ったところ土壙48基、ピット40個が検出できた。土壙は、長方形、楕円形、円形、不定形などがあり、長方形のものは方向が揃っているものが多い。時期的には12～13世紀を中心とするが、14・15世紀のものもあり、中には上面の掘り残しもみられた。SK228・234・245などには遺物が集中して検出された。また、第Ⅰ面で確認したSK145の下半部にも白磁の四耳壺をはじめ多くの遺物が出土している。SK205の最下に白磁がかたまって出土したが、これは少し掘りすぎた感があり、下の遺構のものかも知れない。SK244からは壙底壁際に立った状態で鞘付の短刀が出土している。

第Ⅲ調査面（Fig. 7、PL. 8）

上面からさらに30～40cm掘り下げた遺構検出面である。標高は2.8m前後を測る。基盤の黄白色の砂が多く見られるようになり、遺構もこの黄白色の砂層に掘り込まれるものが多い。検

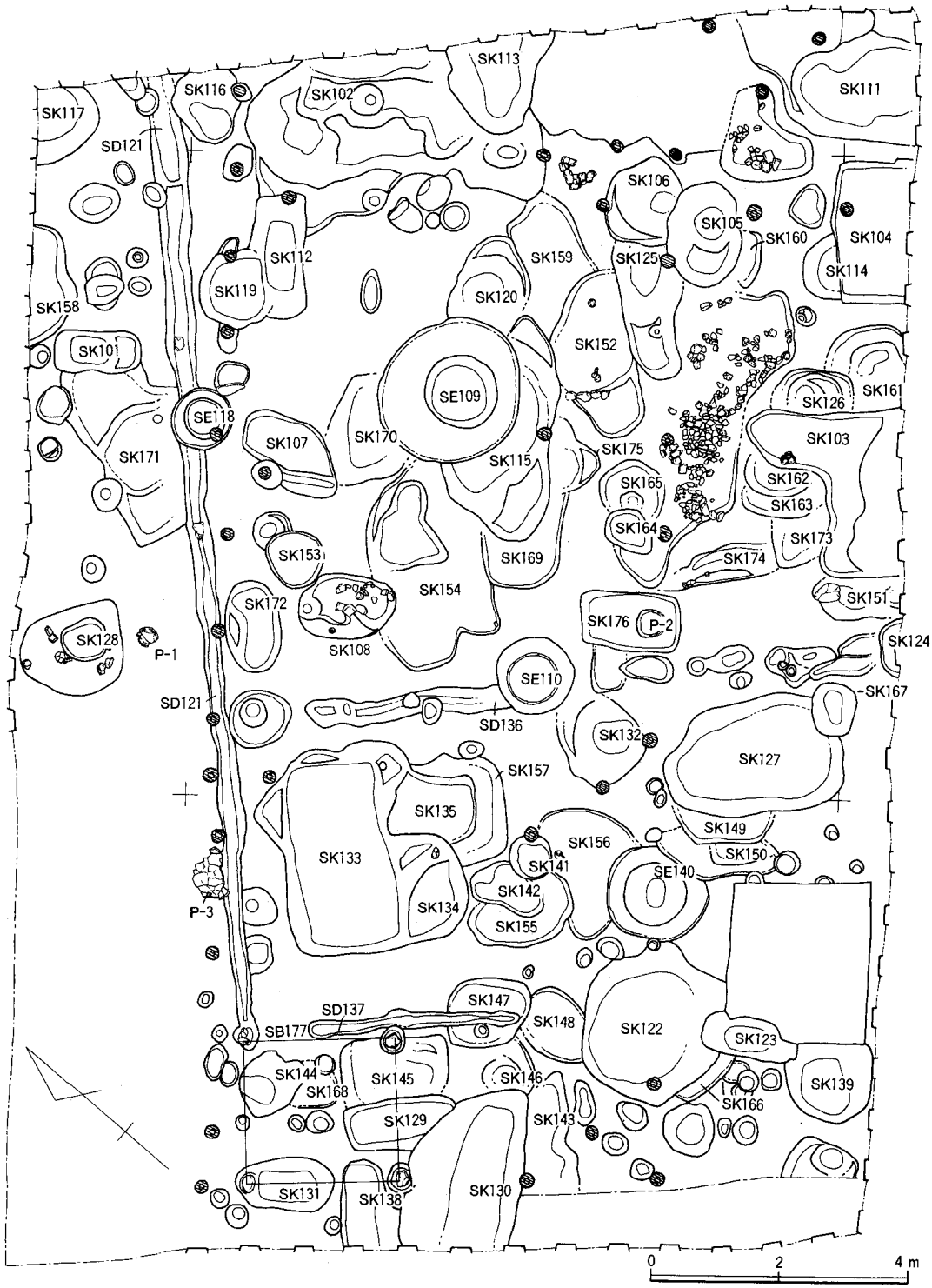


Fig. 5　第Ⅰ調査面遺構配置図（1/100）

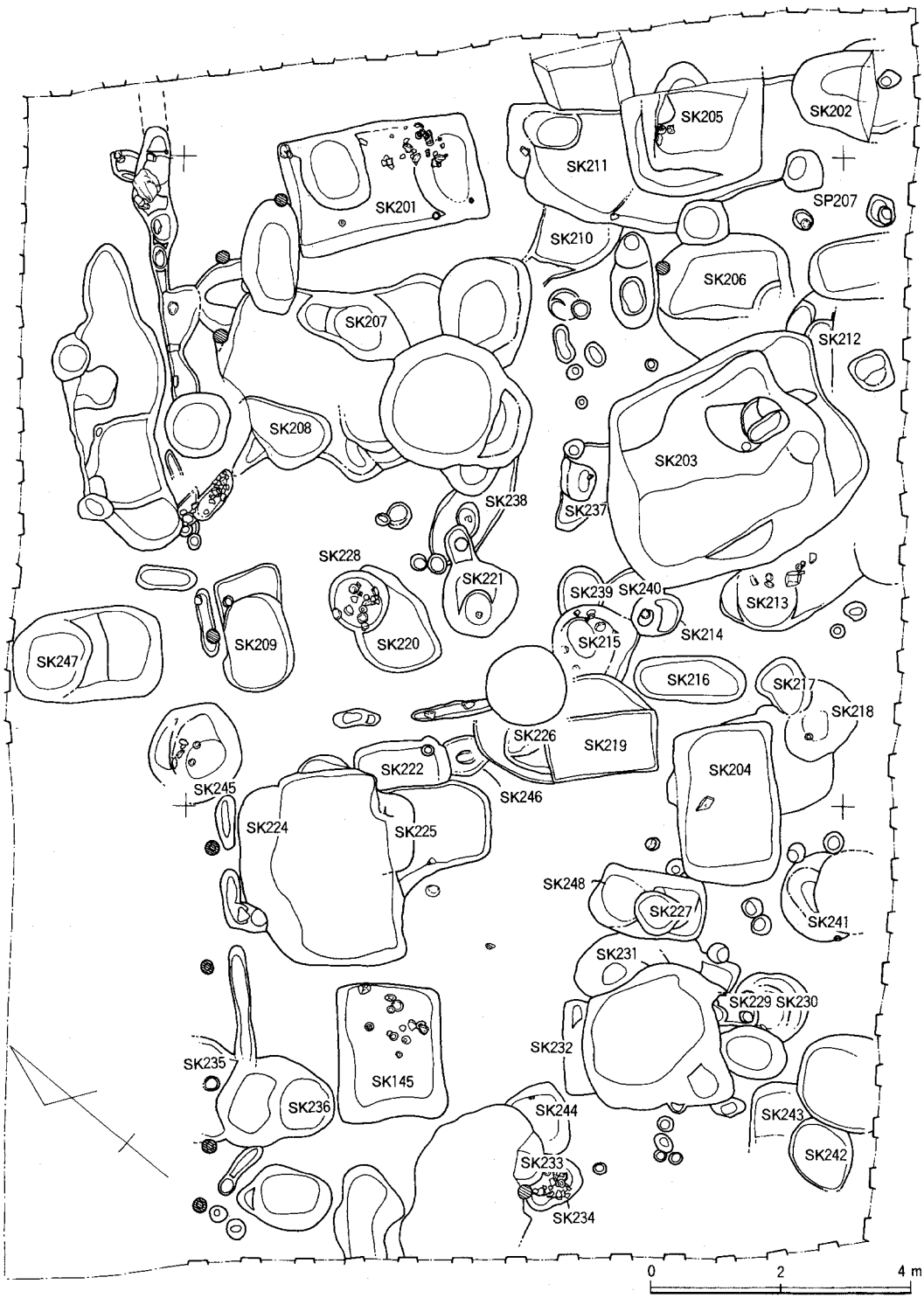


Fig. 6　第Ⅱ調査面遺構配置図（1/100）

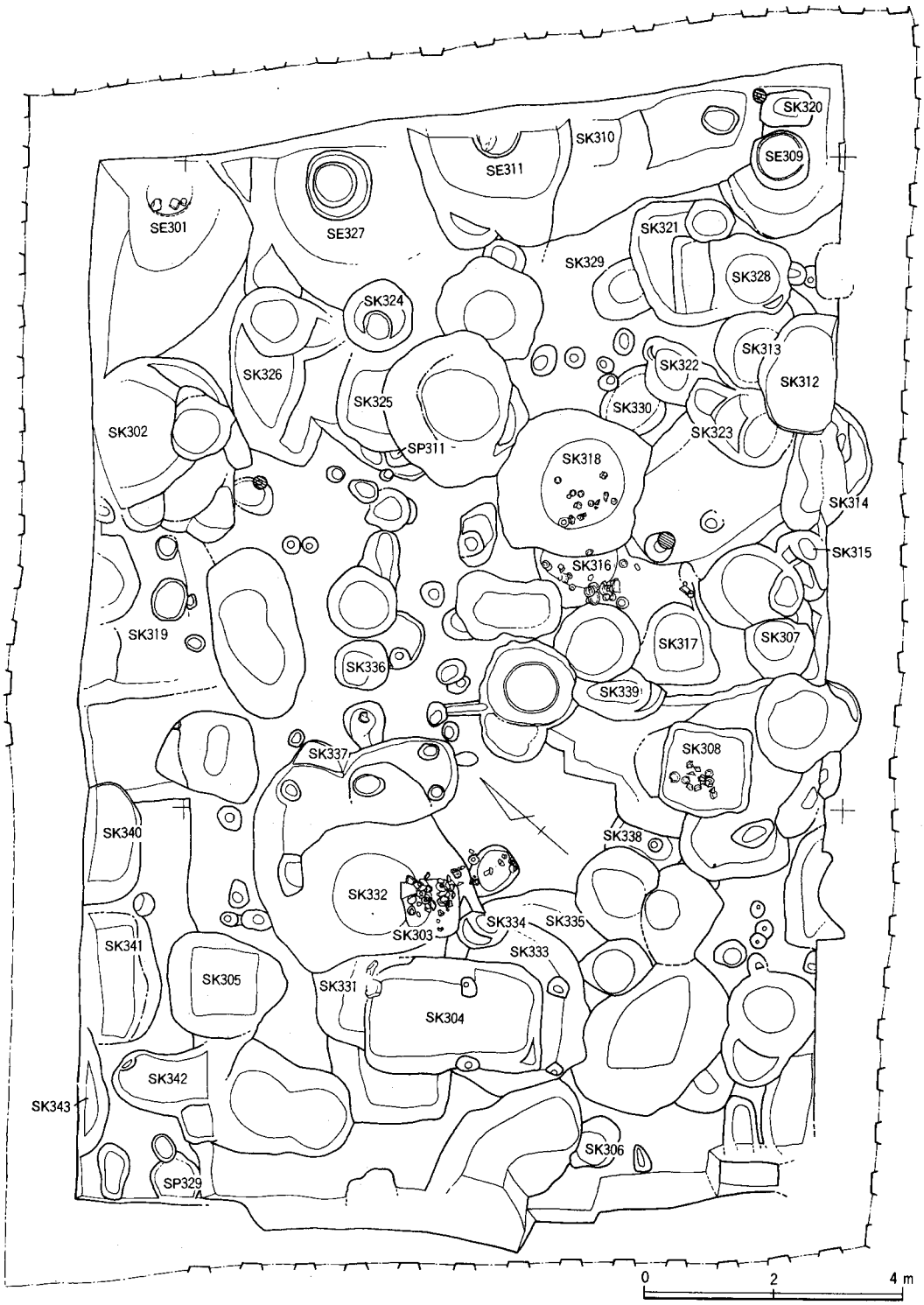


Fig. 7　第Ⅲ調査面遺構配置図（1/100）

出遺構は、土壙39基、井戸址４基、ピット29個である。土壙は、円形及び楕円形を呈するものが多くなり、方形及び長方形を呈するものが組み合わさる。方形の土壙には板材などは確認できなかった。遺物がまとまって出土したのは、ＳＫ303・304・308・312・316・318・341などである。ＳＫ303は、検出面では東西に広がって遺物の分布が認められたが、壙底は小さな方形であった。本来はもっと大きな土壙であった可能性がある。出土遺物は土師器の坏や皿、瓦器碗・白磁が集中して出土している。12世紀前半代。ＳＫ304・305・308・341は、長方形や方形を呈するもので白磁を中心に出土している。上部に新しい時期の遺物も含まれるが、12世紀前半から中葉の時期が考えられる。ＳＫ312・316・318・332は、円形や楕円形の土壙である。主に、白磁・瓦器・土師器が出土している。土師器のうち、坏や皿は底部が粘土紐巻上げや回転ヘラ切り調整になっているものが殆どである。11世紀後半から12世紀前半にかけてのものであろう。井戸址は４基確認しているが全て東壁側に位置しており、ＳＥ301・311は半分しか調査できなかった。断面を見るとかなり上面から掘り下げられており、12世紀代の遺物も多量に出土しているが、本来は14・15世紀のものであろう。井筒に樋を使用している。ＳＥ327は時期的には14世紀と考えられるが、井筒に太鼓の転用品が用いられている。刳り抜きで胴がやや膨らみ、下端に鉄釘が連続して打ち込まれている。遺物は時期的に古いものが掘方や井筒から多量に出土している。ＳＥ309は、12世紀後半の井戸址である。井筒に樋を使用し、白磁を中心とする遺物が多量に出土している。第Ⅲ調査面は井戸址を除けば、11世紀後半から12世紀にかけての時期が考えられる。

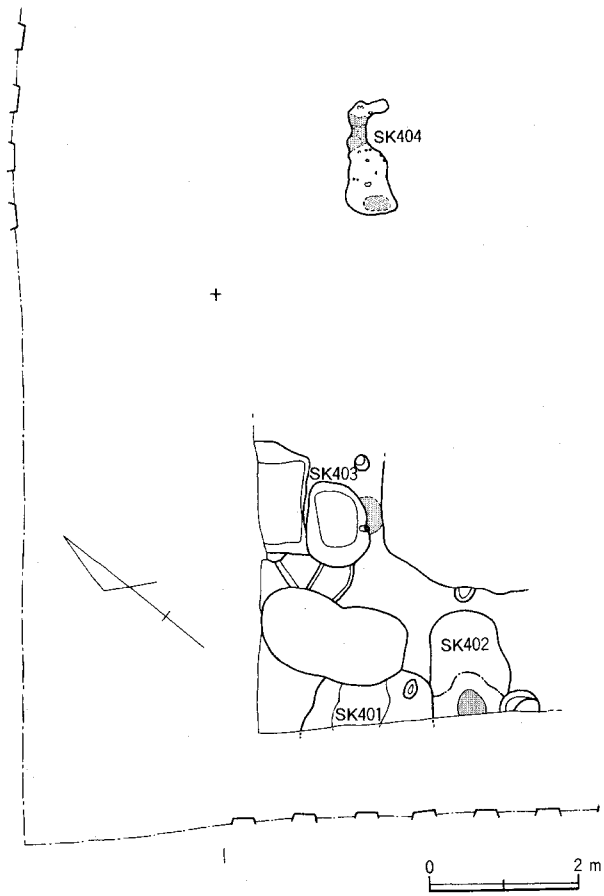


Fig. 8　第Ⅳ調査面遺構配置図（1/100）

第Ⅳ調査面（Fig. 8、PL. 13）

調査区北西部で検出した製鉄炉址を中心とする調査面である。土壙が４基確認された。標高2.3ｍでＳＫ401からは鉄滓や鉄素材、ＳＫ402からは鉄滓、ＳＫ403からは鉄素材、ＳＫ404からは最終工程の鉄滓が出土。９～10世紀代か。

主要遺構

各調査面について簡単に概要を述べたが、その中で、主要な遺構と思われるものについて幾つか取りあげておきたい。

ＳＫ102・103・111～113・119・120（Fig. 5、PL. 2・14～25）　第Ⅰ調査面で出土した近世の土壙群である。主に調査区東側で検出したが、調査前の基礎攪乱掘りで東側が西側よりも30cm程高かったので良く残存していたのかも知れない。灰を多く含む暗灰色の土で覆われ近世の陶磁器類が雑然と混入していた。廃棄物を処理した土壙であろう。ＳＫ102は幅4.5m、深さ0.4mの不定形な形を呈しており、東側は未調査区へ広がる。ＳＫ103も不定形土壙で、幅2.4m、深さ0.25mを測る。半分は南側の未調査区へ広がっており、全体の様子は分らない。ＳＫ111は楕円形を呈する土壙である。南側が未調査区へ伸びているので長径ははっきりしないが、短径は1.7m、深さ0.45mを測る。ＳＫ112は長方形を呈し、長辺1.9m、短辺0.8m、深さ1.2mで残りの良い土壙である。ＳＫ113は半分が未調査区へ広がる。短径1.6m、深さ1.1mを測り、楕円形状を呈する深い土壙である。ＳＫ119は径1.2m、深さ1.0mの円形土壙である。ＳＫ120は、ＳＥ109に切られており、径1.5m、深さ1.1mの円形土壙である。他の土壙よりもやや古い遺物が出土している。この他、ＳＫ01・04～08・15・16・29・30なども同様な性格の遺構と考えられる。

ＳＤ121・136・137（Fig. 5、PL. 1）　第Ⅰ調査面で確認した溝状遺構である。ＳＤ121は幅0.2～0.5mで、深さは部分的に異なっている。深い部分では第Ⅲ調査面に達している所がある。方向はＮ44°Ｅをとる。これとほぼ直角に接合するのがＳＤ136・137である。ＳＤ121に比べて浅く一部しか残存していなかった。ＳＤ121との接合部は１m前後開いており、ＳＤ136と137との間隔は4.8～5.4mである。３条とも淡褐色土に焼土粒子の混入した埋土を持つ。15世紀を中心として、やや前後する時期が考えられる。これらの溝に軸線を揃えて配置される遺構は、第Ⅰ調査面ではＳＫ127・133・145、SB177、第Ⅱ調査面ではＳＫ201・204～206・216・219などの掘立柱建物や長方形土壙である。これらの時期は15世紀代を中心に14世紀から16世紀までである。ＳＤ121・136・137は太閤町割が行なわれる以前の町割に関係する遺構と考えられる。

ＳＫ127・133・145（Fig. 5・6・9・10・12、PL. 3・26・31）　溝状遺構と方向を同じくする土壙で、ＳＫ127は隅丸長方形を呈する。長さ2.8m、幅1.8m、深さ0.6mで壙底は皿状に窪む。遺物は、土師坏・皿、陶器壺・甕、白磁碗、青磁碗、明色絵、明染付が出土している。15～16世紀のものと考えられる。遺物は他に石鍋、砥石、鉄滓、鉄釘、板状・円盤状・棒状の銅製品、宝珠状の鈕状小形銅製品などが出土している。ＳＫ133は長さ3.0m、幅1.8m、深さ1.2mの大形の長方形土壙である。四周の壁は垂直に近く立ち上がっているが板の痕跡などは確認できなかった。覆土には多量のカーボンと焼石、鉄滓、鉄釘、鞴の羽口などの遺物が含ま

れていた。石製品には石鍋、球状に加工した滑石、メンコなどがある。退化した蓮弁文を持つ青磁碗が出土していることなどから14～15世紀の時期とみられる。床面からは魚の骨や獣歯・骨なども出土している。145はＳＤ137の下から出土したもので長さ2.1ｍ、幅1.6ｍ、深さ0.8ｍを測る。遺物は上層、下層に分れて出土しているが、下層の土師皿・坏、白磁碗、陶器碗、白磁壺などの一括遺物は下の遺構に属する可能性が大きい。上層の遺物は14世紀前半代である。

ＳＢ177（Fig.５、PL.３）　調査区西側で検出した桁行１間（2.3ｍ）、梁行１間（2.2ｍ）の掘立柱建物で、柱穴の掘方は0.4ｍ前後である。柱穴の底には0.25ｍ前後の扁平礫を礎板にしている。15～16世紀の時期の建物であろう。溝状遺構と方向を揃えている。

ＳＫ202・209（Fig.６・14、PL.５・29）　近世の遺構の中でも初期伊万里や古伊万里・古唐津を出土する土壙である。長径1.5～2.0ｍ、深さ0.85～1.15ｍの楕円形を呈する。ＳＫ202からは日の字鳳凰文の梁付皿が出土している。近くの包含層からも唐津皿などが出土。

ＳＫ201・204・205（Fig.６・12・13、PL.４～６・29）　溝状遺構と方向を揃える長方形土壙である。ＳＫ201は長さ3.0ｍ、幅1.8ｍ、深さ0.8ｍを測る。壙底が窪んでいるのは井戸址と切り合いになっているからである。上層から李朝白磁碗が出土している。15～16世紀。ＳＫ204は長さ2.5ｍ、幅1.5ｍ、深さ0.7ｍである。古い遺物も出土しているが14～15世紀のものが中心である。ＳＫ205は半分が未調査区へ広がる。幅2.2ｍ、深さ１ｍ。15～16世紀。

ＳＫ228・234・244・245（Fig.６・15～17、PL.６・７）　第Ⅱ調査面検出で遺物が割とまとまって出土した土壙である。ＳＫ228は中央部に位置し径0.9ｍ、深さ0.7ｍの円形土壙である。ヘラ切りの土師器類が一括して出土している。11世紀後半～12世紀初頭か。ＳＫ234は西側に位置する小さな土壙であるが、遺物が多量に出土している。白磁が中心で陶器碗、捏鉢、瓦質の大甕、塼などが出土している。白磁皿の底部露胎部分に「馮綱」の墨書銘がある。ＳＫ244は1.1ｍの略方形で深さ1.0ｍである。鞘付の短刀が壁際に直立して出土している。ＳＫ234・244は12世紀前半代。ＳＫ245は12世紀後半～13世紀の円形土壙である。径1.4ｍである。

ＳＫ303・304・308・312・316・318・333・341（Fig.７・18～24、PL.８～11・32～35）第Ⅲ調査面で検出した主要な土壙である。壙底が方形を呈するものはＳＫ303・308・333・341である。長方形はＳＫ304、楕円形はＳＫ312、円形はＳＫ316・318である。ＳＫ304の大きさは、長さ2.7ｍ、幅1.7ｍ、深さ0.4ｍ。ＳＫ308は0.8ｍの正方形で深さ0.4ｍを測る。ＳＫ318は大きな円形土壙で径2.2ｍ、深さ0.9ｍである。これらの土壙は殆どが12世紀前半代に属し、古いものは11世紀後半代まで遡る。新しいものでも12世紀中頃と考えられる。

墨書陶磁器（Fig.８・９・11・15～17・20・25・26、PL.36）　各遺構から数点の墨書陶磁器が出土している。「薫花押」、「薫」、「銭」、「卅二□」、「馮綱」、「禮花押」、「十」などの人名や数字などがある。その他、花押だけのものやしるし状の墨書もある。ＳＫ319出土の黄釉鉄絵盤には、墨書ではないが鉄絵で「長命富貴」と大書する。土師坏にも墨書のみられる例がある。

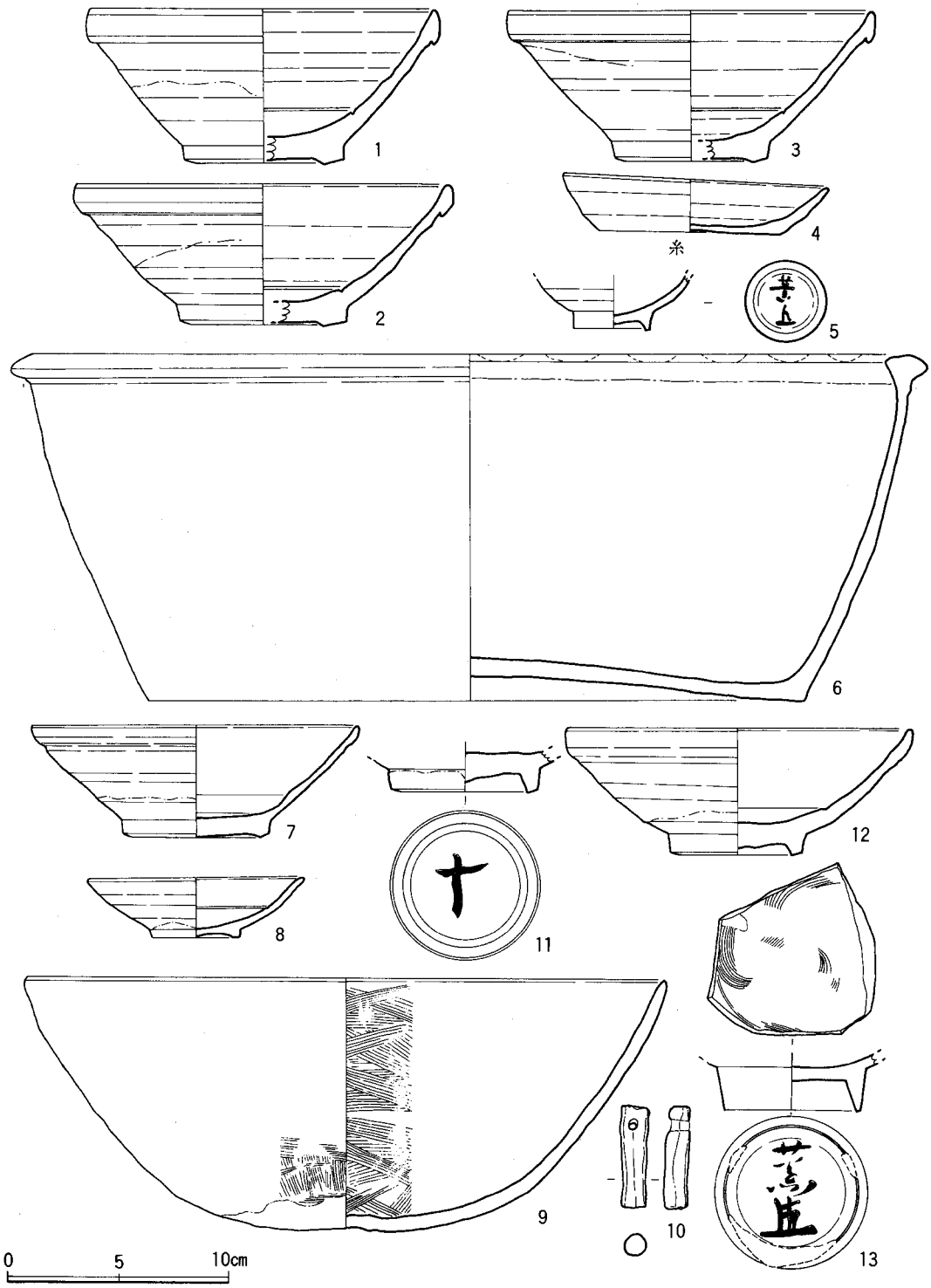


Fig. 9　出土遺物実測図(1) (1/3)

1～3,5,7,8,11～13：白磁　4：土師器　6：陶器　9：土師器・土鍋　10：土錘
1～4：ＳＫ122　5：ＳＫ127　6～8,10：ＳＫ130　9：ＳＫ132　11,12：ＳＫ133　13：ＳＫ139

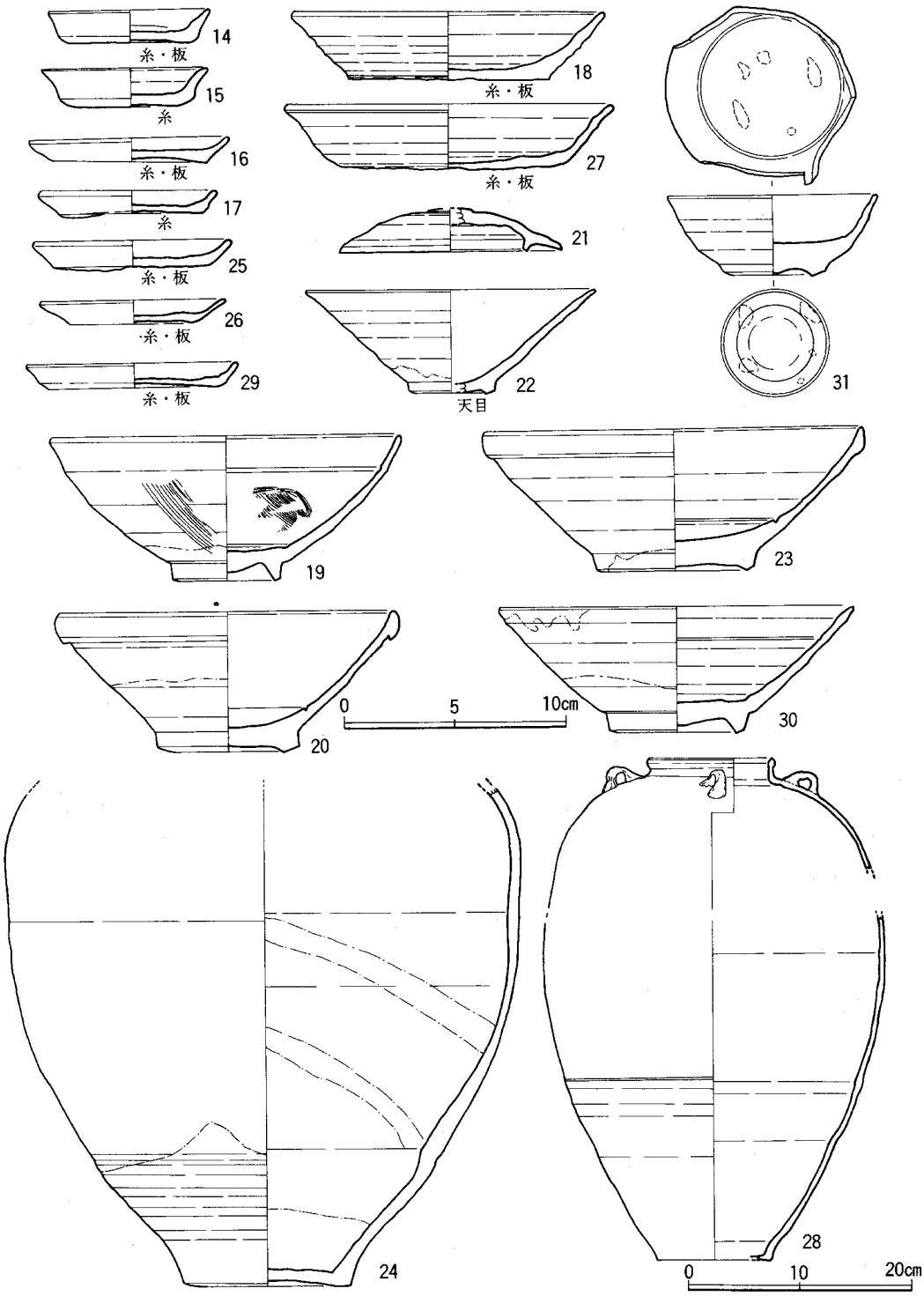


Fig. 10　出土遺物実測図(2) (1/3, 1/6)

14～18, 25～27, 29：土師器　19, 20, 23, 30：白磁　31：李朝白磁　21, 22, 24, 28：陶器
14, 15：ＳＫ139　16～19：ＳＫ142　20：ＳＫ143　21～24：ＳＫ144　25, 26：ＳＫ145
27：ＳＫ146　28：ＳＫ147　29, 30：ＳＫ148　31：ＳＫ151

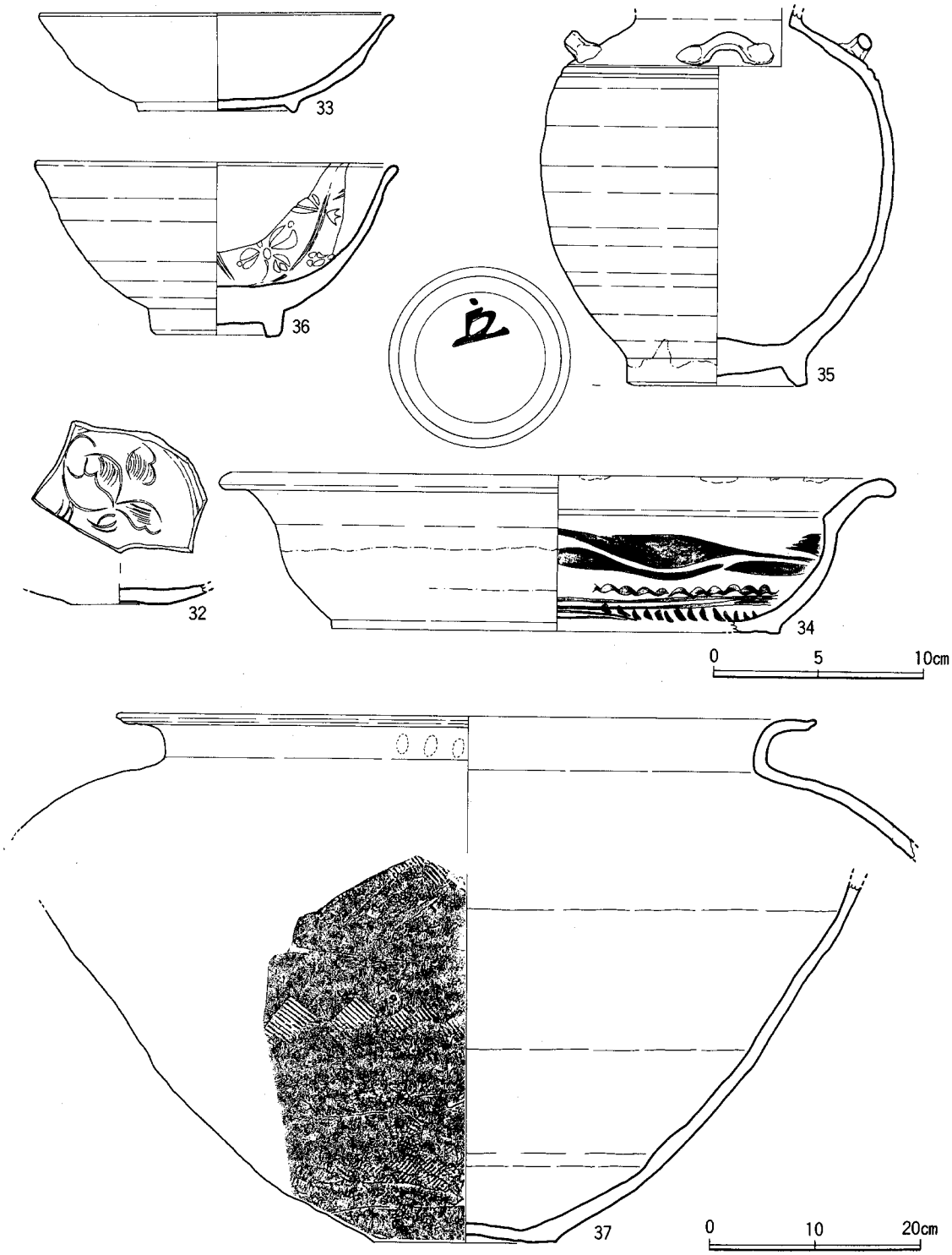


Fig. 11　出土遺物実測図(3) (1/3, 1/6)

32,35：白磁　33：瓦器　34：陶器　36：高麗青磁　37：常滑
32：ＳＫ154　33：ＳＫ156　34：ＳＫ168　35：ＳＥ140　36：Ⅰ.Ｃ4区包含層　37：Ⅰ.Ｂ2区P-3

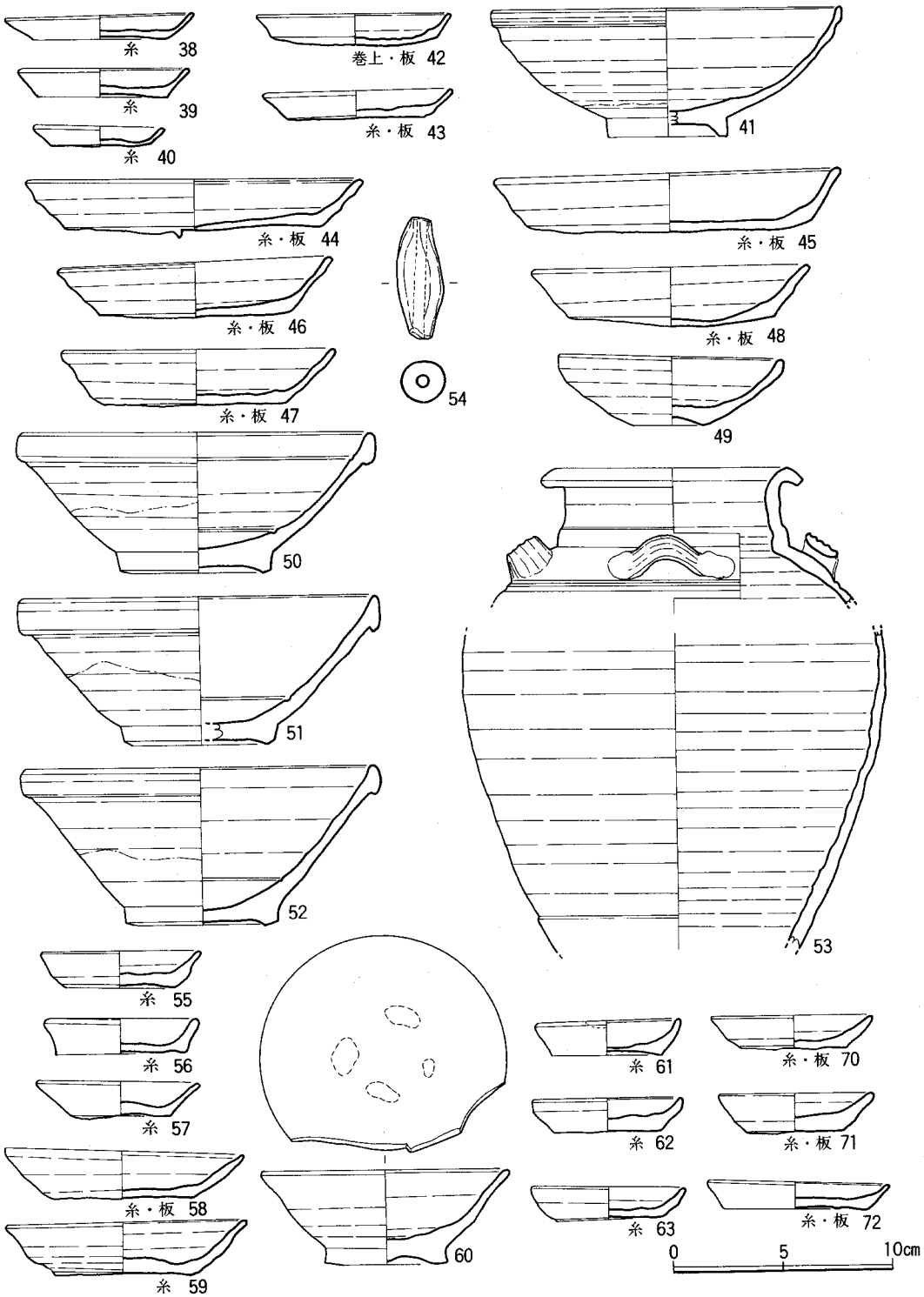


Fig. 12　出土遺物実測図(4) (1/3)

38～40,42～48,55～59,61～63,70～72：土師器　41,50～53：白磁　49：陶器　54：土錘　60：李朝白磁
38～40：ＳＫ115　41：ＳＫ135　42～54：ＳＫ145　55～60：ＳＫ201　61～63：ＳＫ203　70～72：ＳＫ204

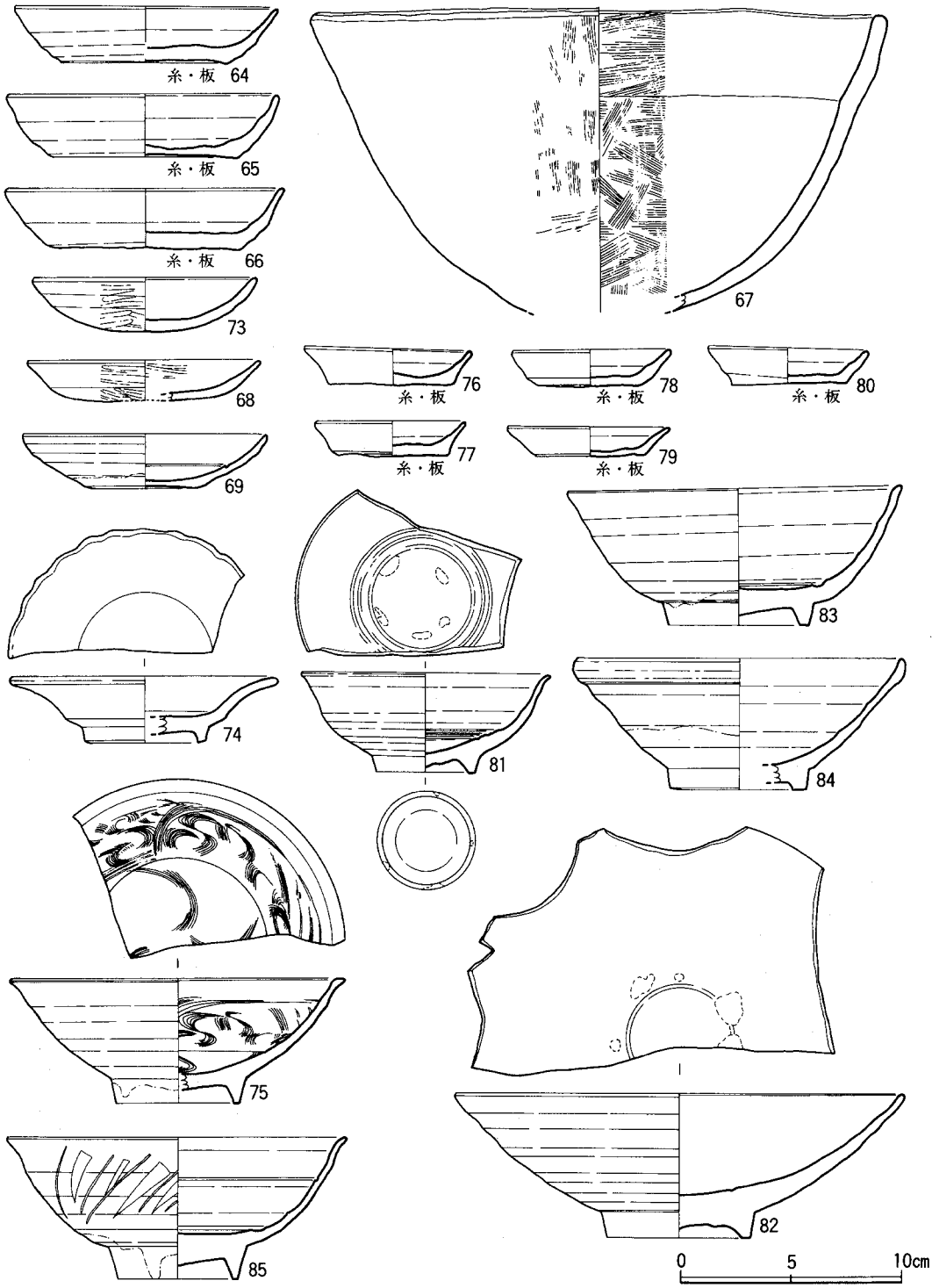


Fig. 13　出土遺物実測図(5) (1/3)

64～66,76～80：土師器　67：土師器・土鍋　68,73：瓦器　74：青磁　69,75,83～85：白磁　81,82：李朝白磁
64～69：ＳＫ203　73～75：ＳＫ204　76～85：ＳＫ205

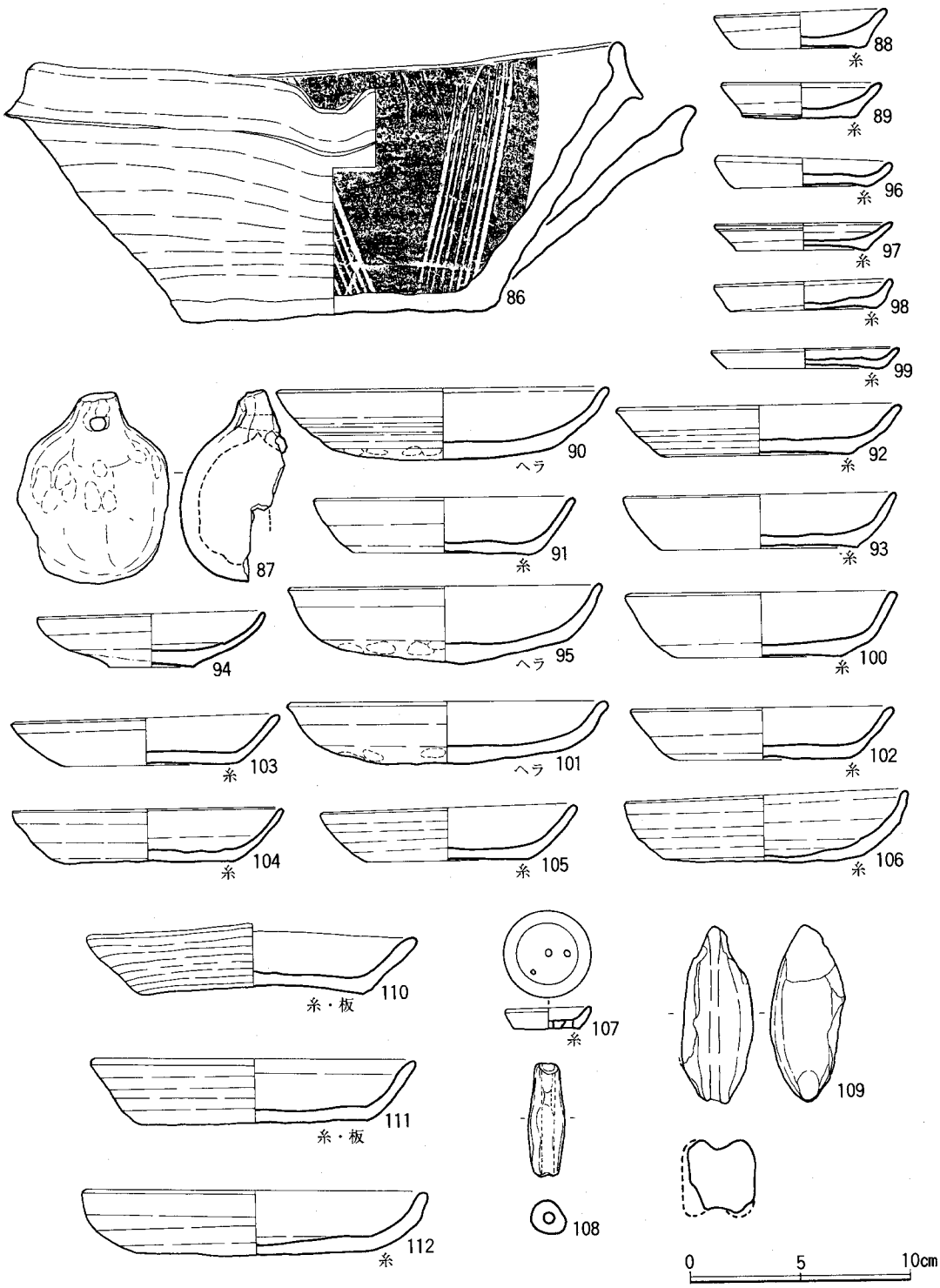


Fig. 14　出土遺物実測図(6) (1/3)

86：備前陶器　87：土鈴　88～93,95～107,110～112：土師器　94：白磁　108,109：土錘
86：ＳＫ206　87：ＳＫ209　88～93：ＳＫ213　94,95：ＳＫ214　96～102：ＳＫ215
103～105：ＳＫ218　106,107：ＳＫ219　108,109：ＳＫ225　110～112：ＳＫ226

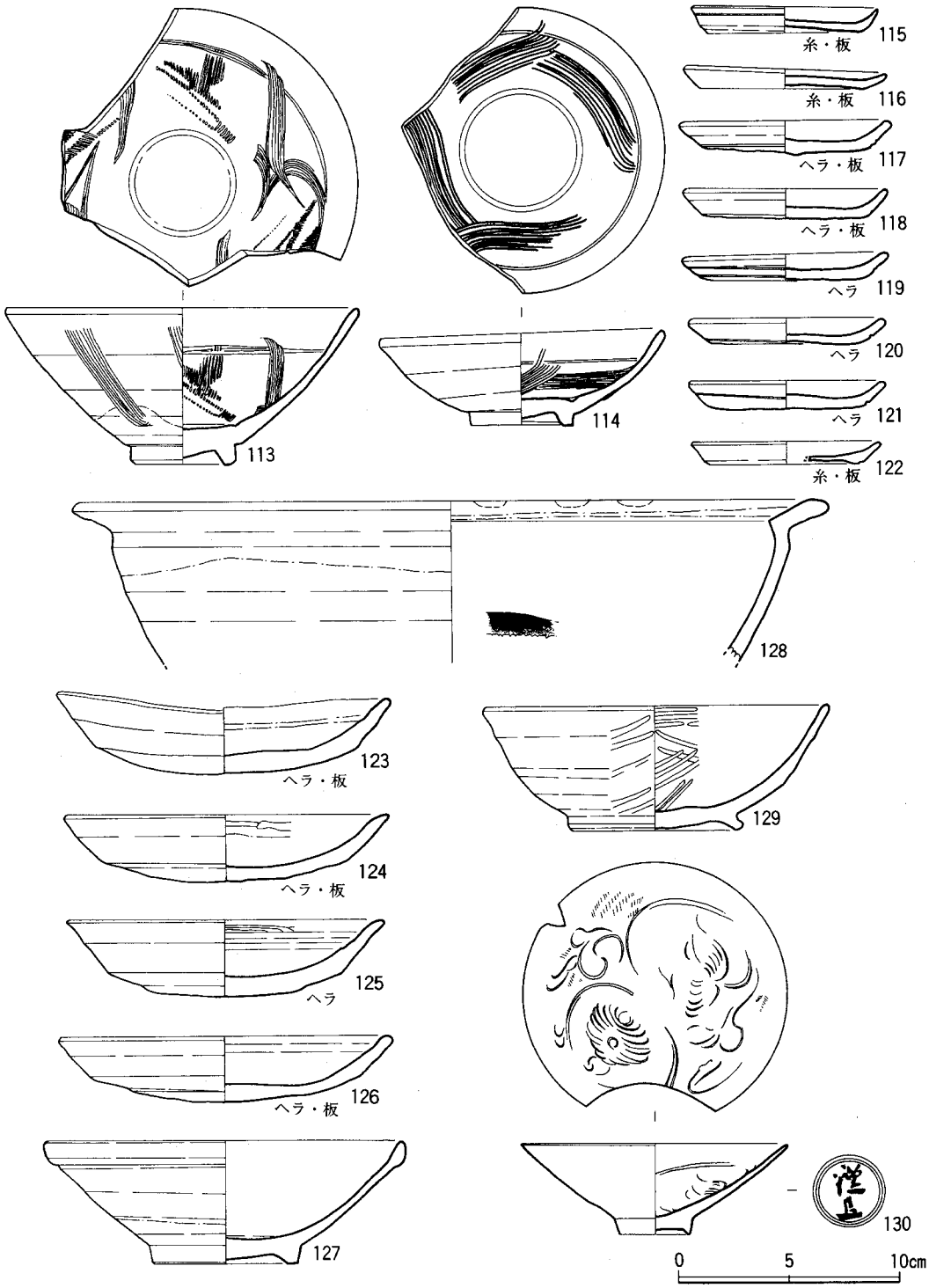


Fig. 15　出土遺物実測図(7) (1/3)

113,114：青磁　115～126：土師器　127：白磁　128：陶器　129：瓦器　130：青白磁
113～116：ＳＫ226　117～128：ＳＫ228　129,130：ＳＫ230

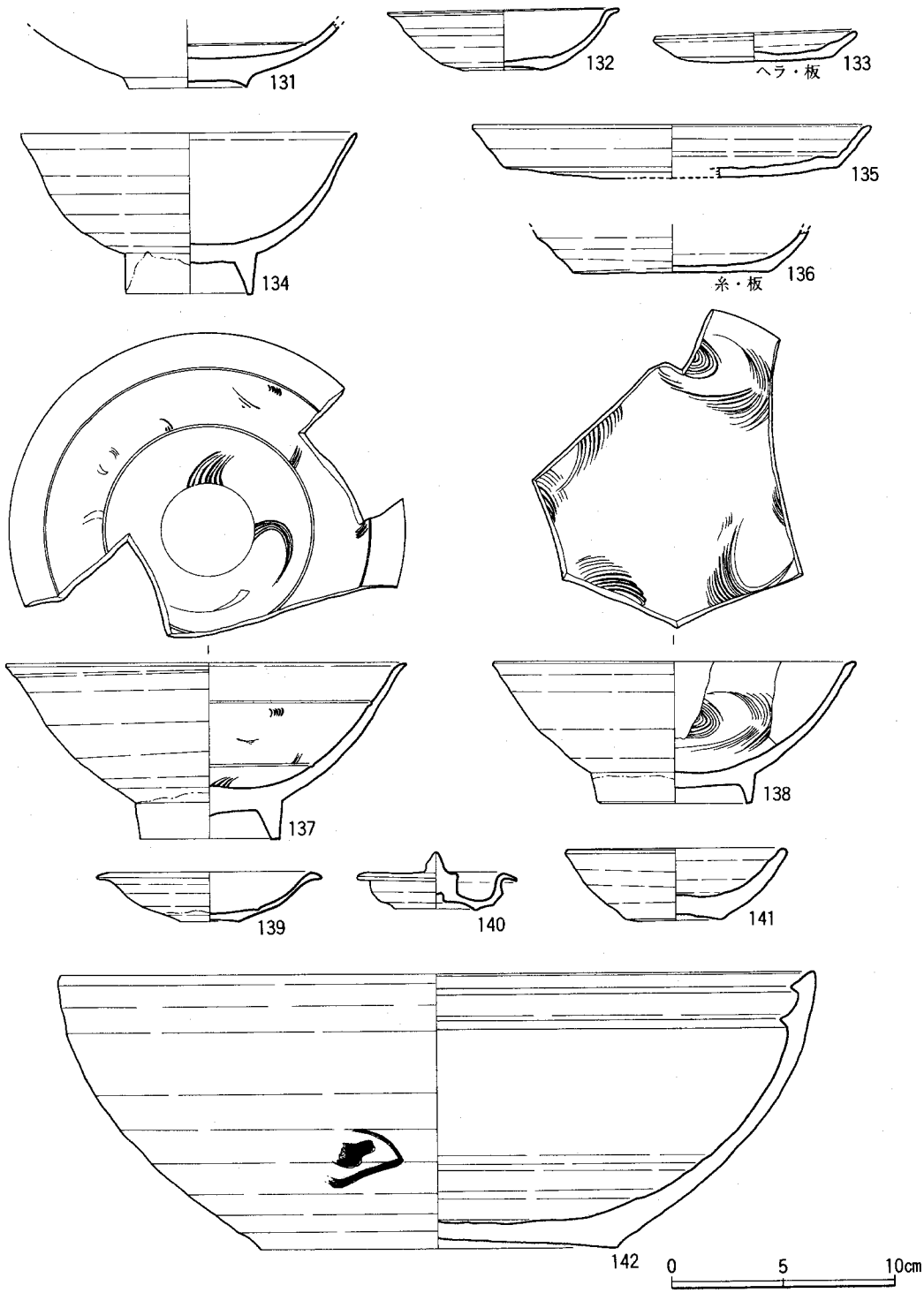


Fig. 16　出土遺物実測図(8) (1/3)

131：青磁　132,134,137～139：白磁　133,136：土師器　135：須恵器　140～142：陶器
131,132：ＳＫ230　133～135：ＳＫ231　136：ＳＫ232　137～142：ＳＫ234

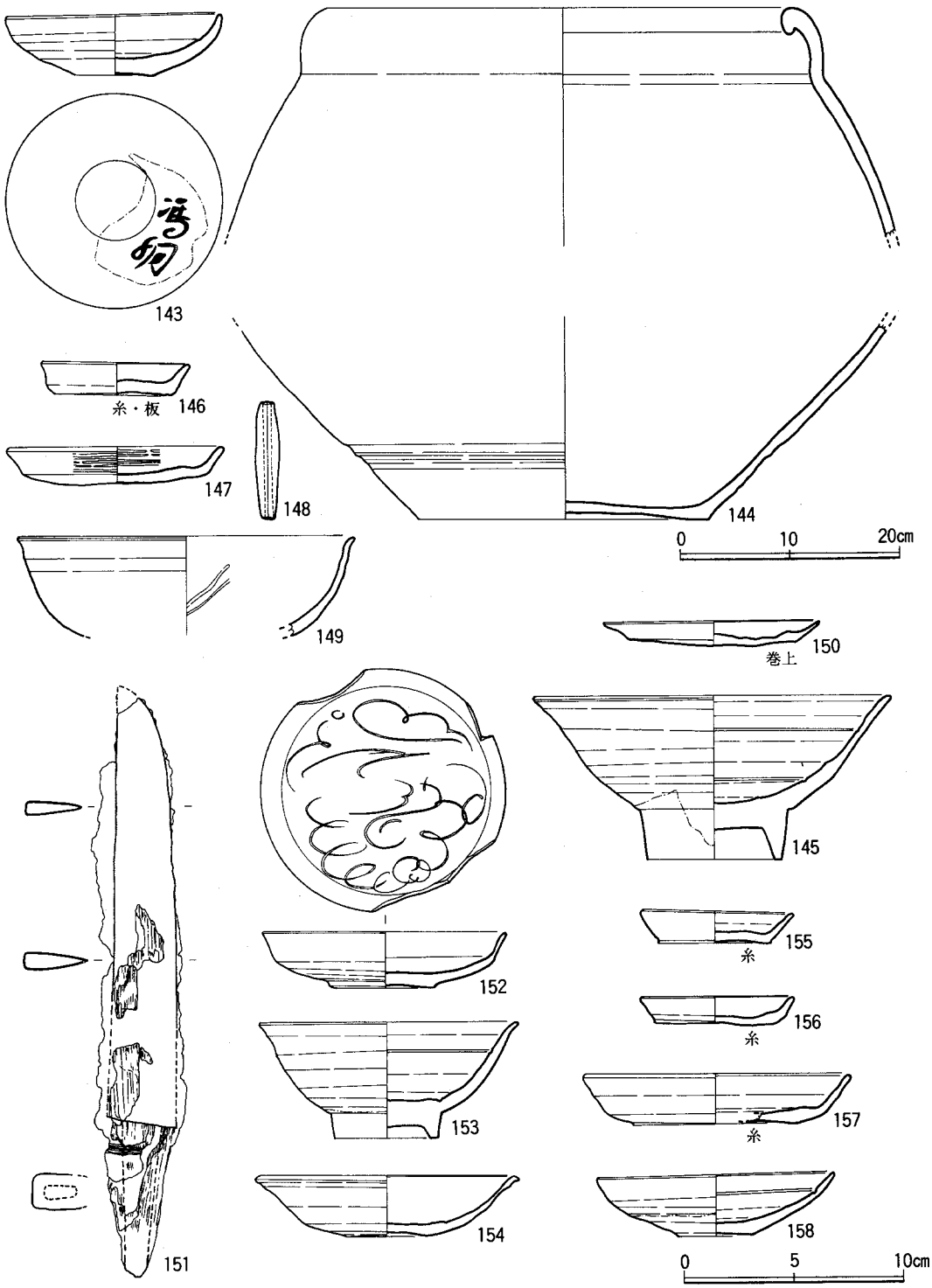


Fig. 17　出土遺物実測図(9)（1/3, 1/6）

143,145,152,153,158：白磁　144,147,149：瓦器　146,150,155～157：土師器　151：鉄短刀　148：土錘
143～145：ＳＫ234　146：ＳＫ235　147,148：ＳＫ236　149：ＳＫ238　150：ＳＫ241　151～154：ＳＫ244
155～157：ＳＫ245　158：SP207

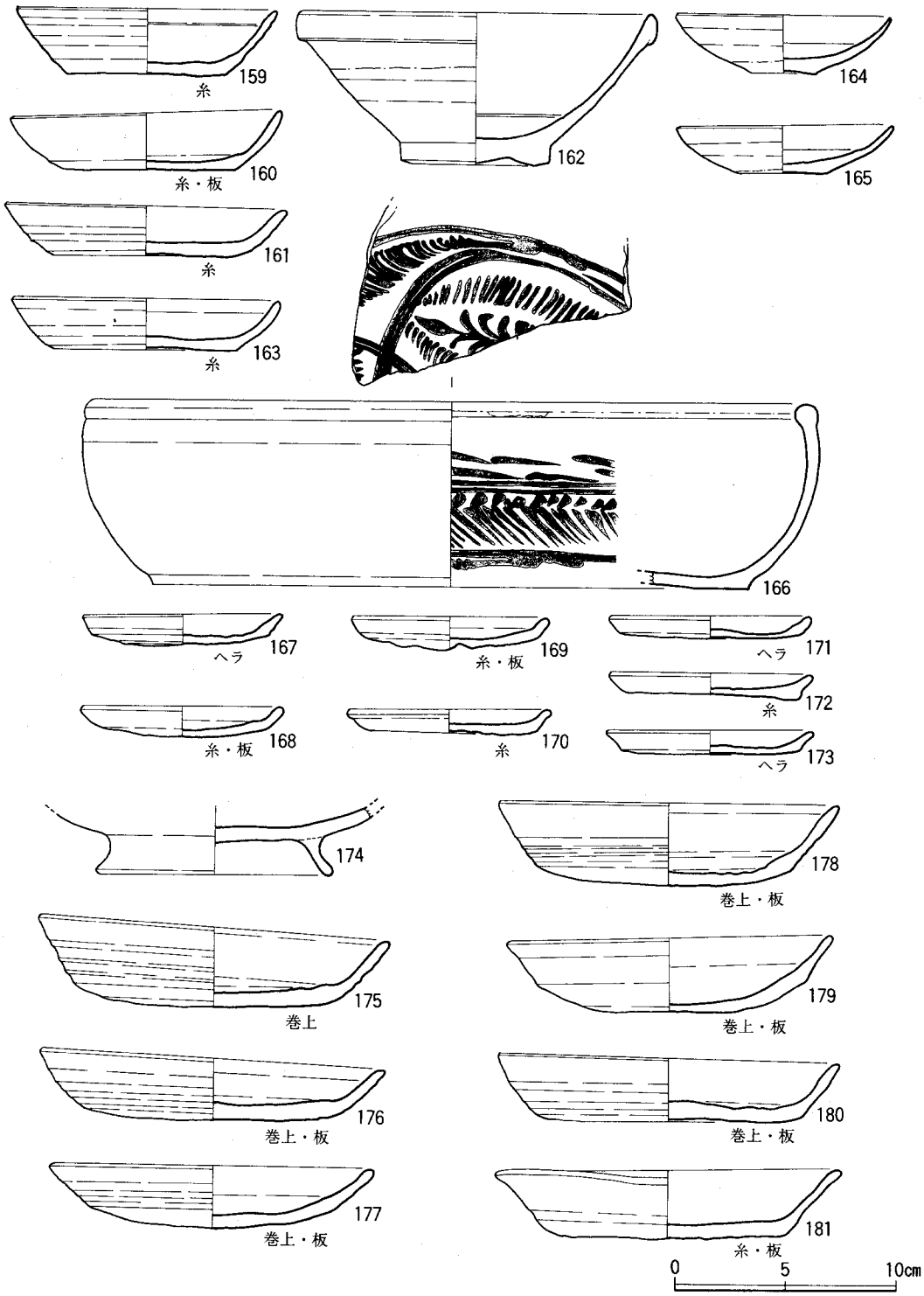


Fig. 18　出土遺物実測図(10)（1/3）

159～161,163,167～181：土師器　162,164,165：白磁　166：陶器
159～162：ＳＫ213　163：ＳＫ218　164：ＳＫ222　165：ＳＫ240　166：ＳＫ248　167～181：ＳＫ303

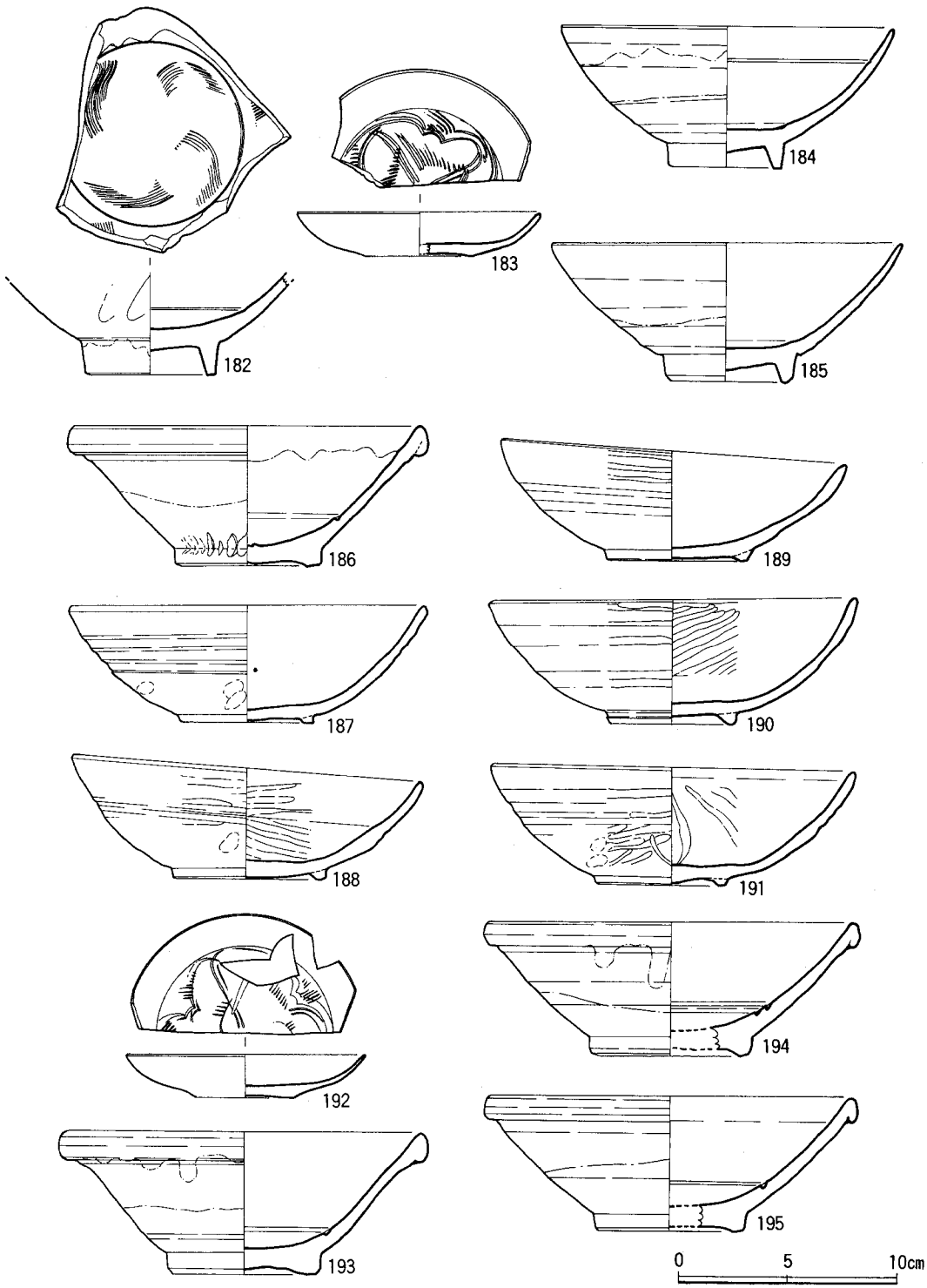


Fig. 19　出土遺物実測図(11)（1/3）

182,184～186,193～195：白磁　187～191：瓦器　183,192：青白磁
182～191：ＳＫ303　192～195：ＳＫ304

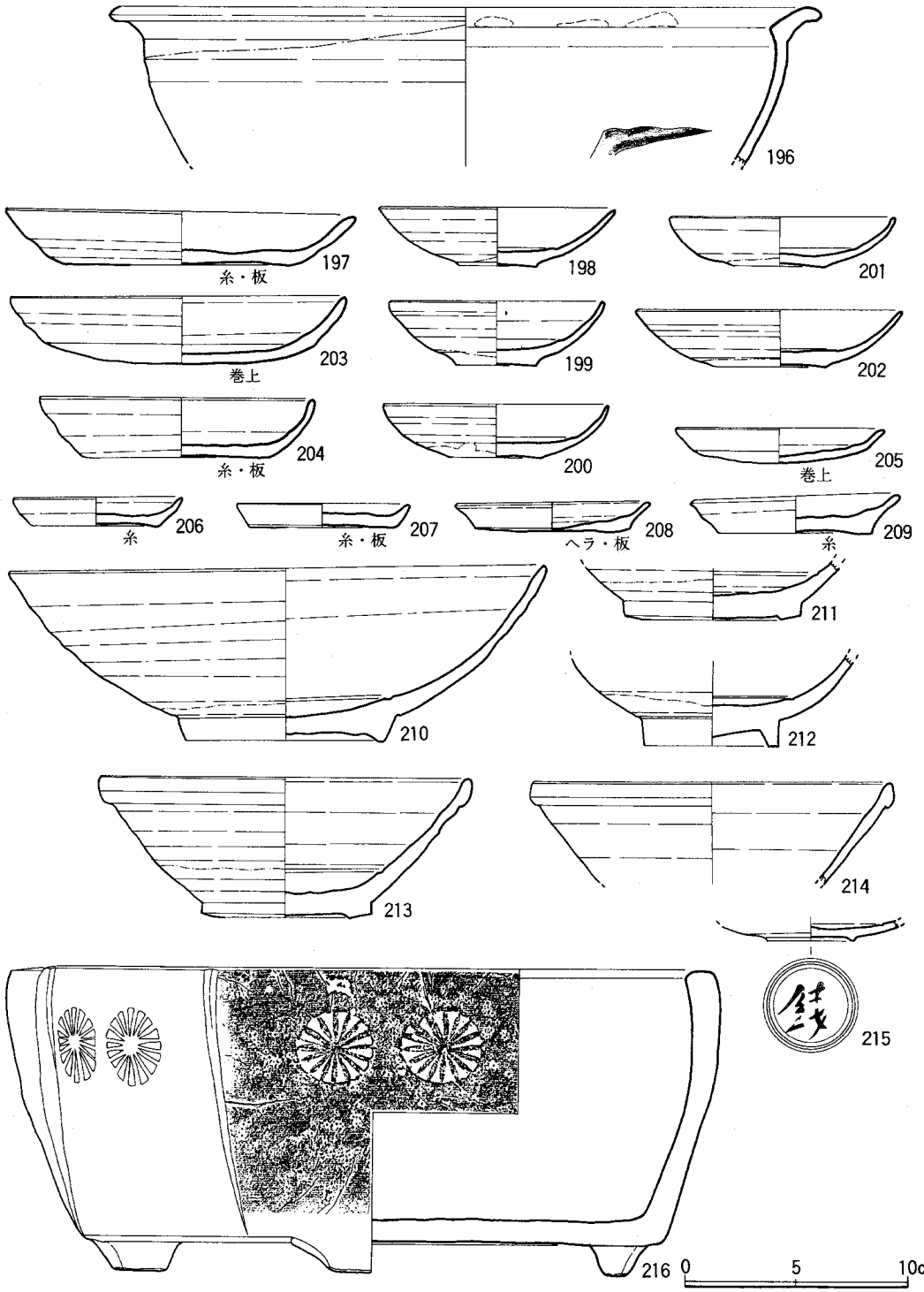


Fig. 20　出土遺物実測図(12)（1/3）

196：陶器　197,203～209：土師器　198～202,210～215：白磁　216：瓦器
196：ＳＫ304　197～202：ＳＫ305　203～216：ＳＫ308

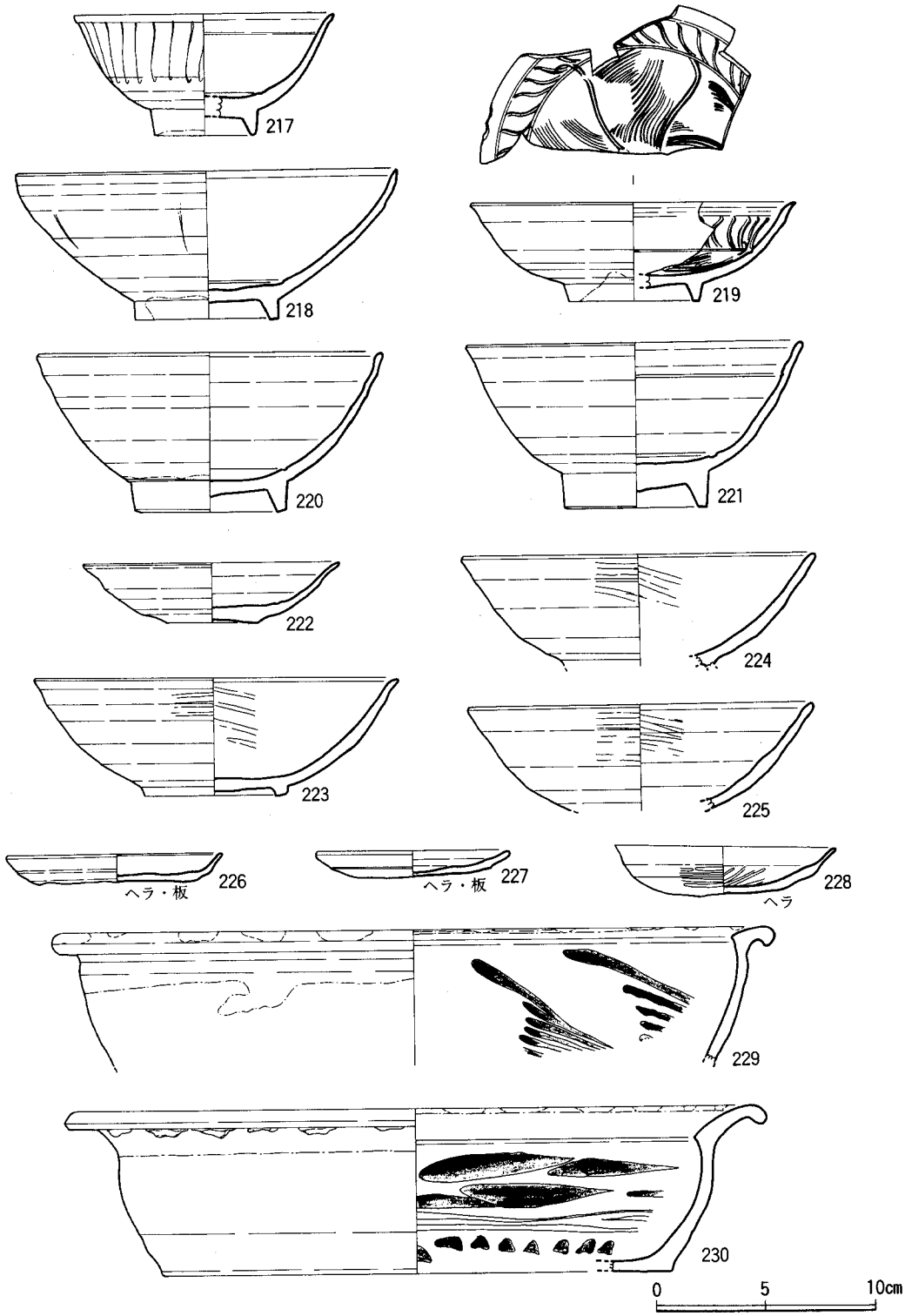


Fig. 21　出土遺物実測図(13)（1/3）

217～220,222：白磁　221：青磁　223～225：瓦器　226～228：土師器　229,230：陶器
217：ＳＫ310　218～228：ＳＫ312　229：ＳＫ313　230：ＳＫ316

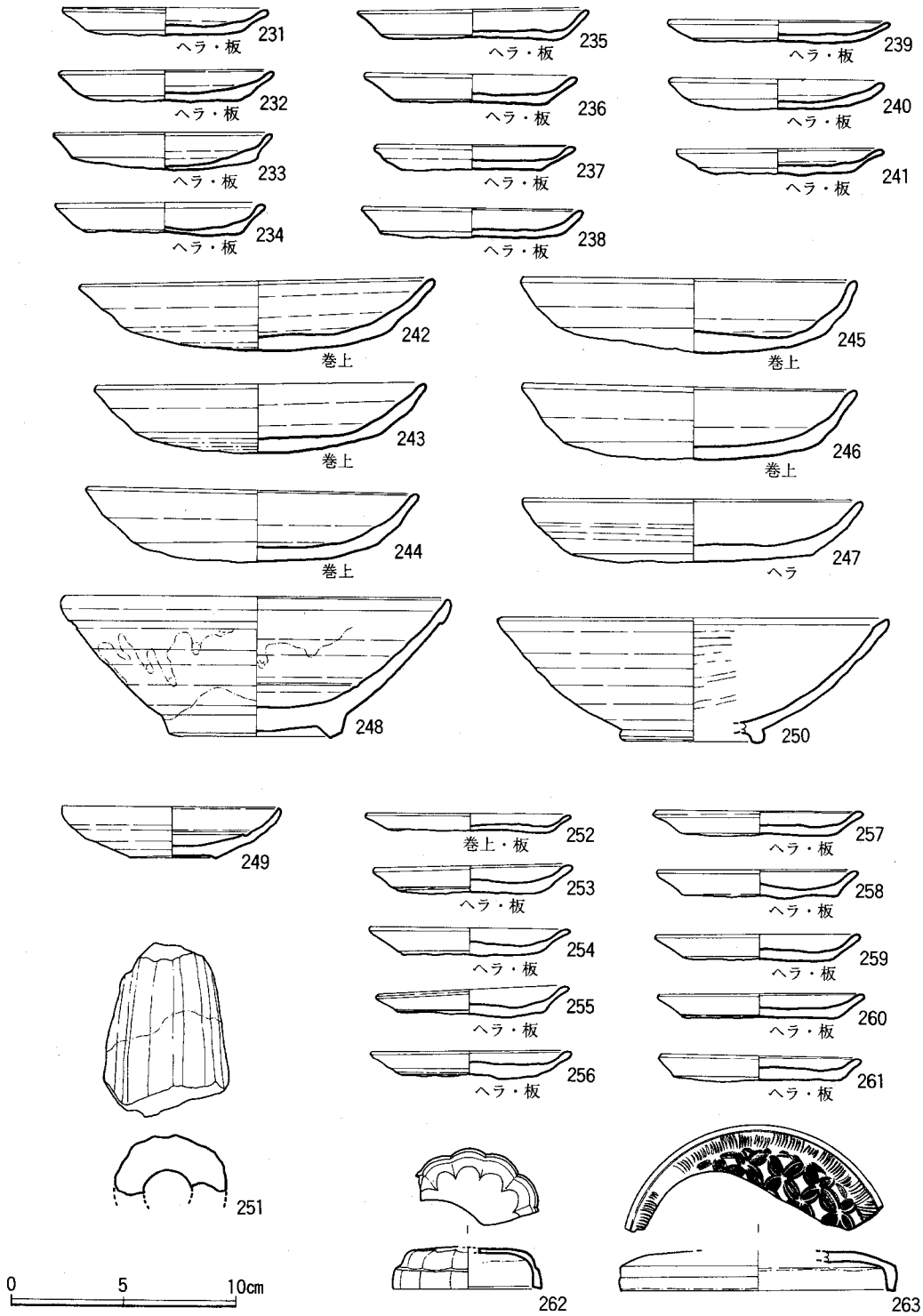


Fig. 22　出土遺物実測図(14)（1/3）

231～247,252～261：土師器　248,249：白磁　250：瓦器　251：鞴・羽口　262：青白磁　263：青磁
231～249：ＳＫ316　250,251：ＳＫ317　252～263：ＳＫ318

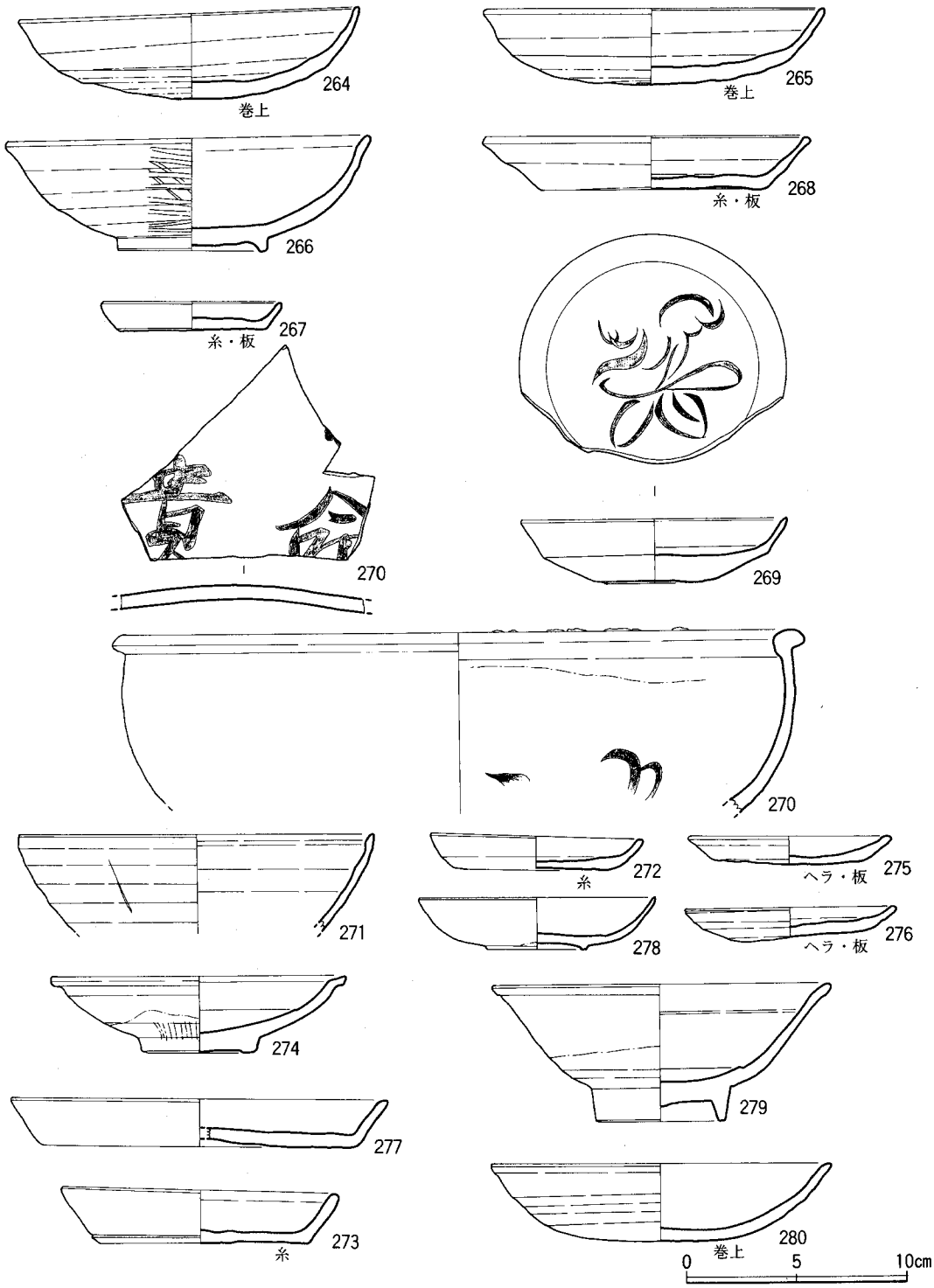


Fig. 23　出土遺物実測図(15)（1/3）

264,265,267,268,272,273,275,276,280：土師器　266：瓦器　269：青磁　270：陶器　271,274,278,279：白磁　277：須恵器
264～266：ＳＫ318　267～270：ＳＫ319　271～273：ＳＫ323　274：ＳＫ331　275～279：ＳＫ332　280：ＳＫ338

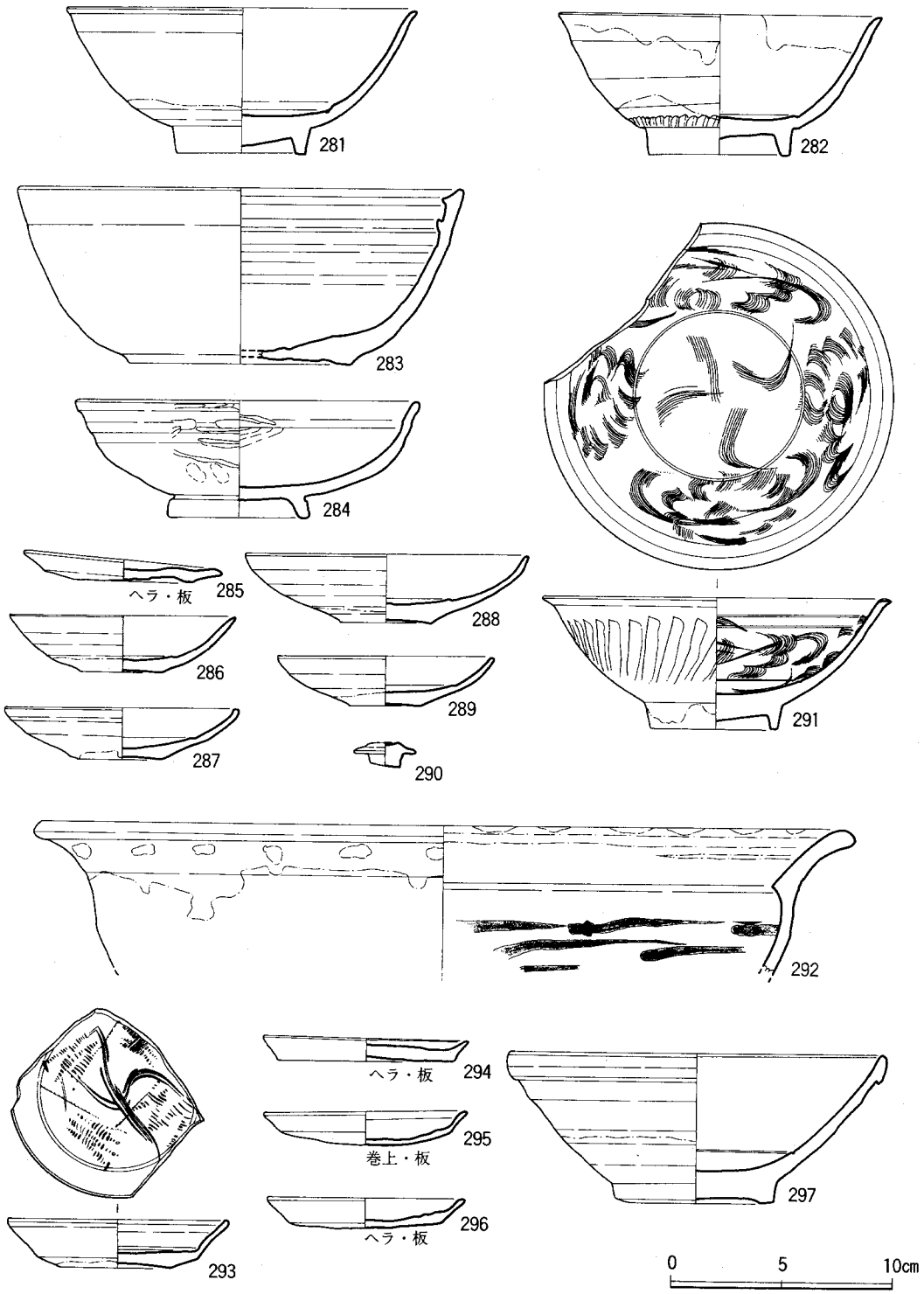


Fig. 24　出土遺物実測図(16)（1/3）

281,282,286～291,297：白磁　283,292：陶器　284：瓦器　285,294～296：土師器　293：青磁
281～284：ＳＫ338　285～291：ＳＫ341　292：ＳＥ109　293,294：ＳＥ110　295～297：ＳＥ309

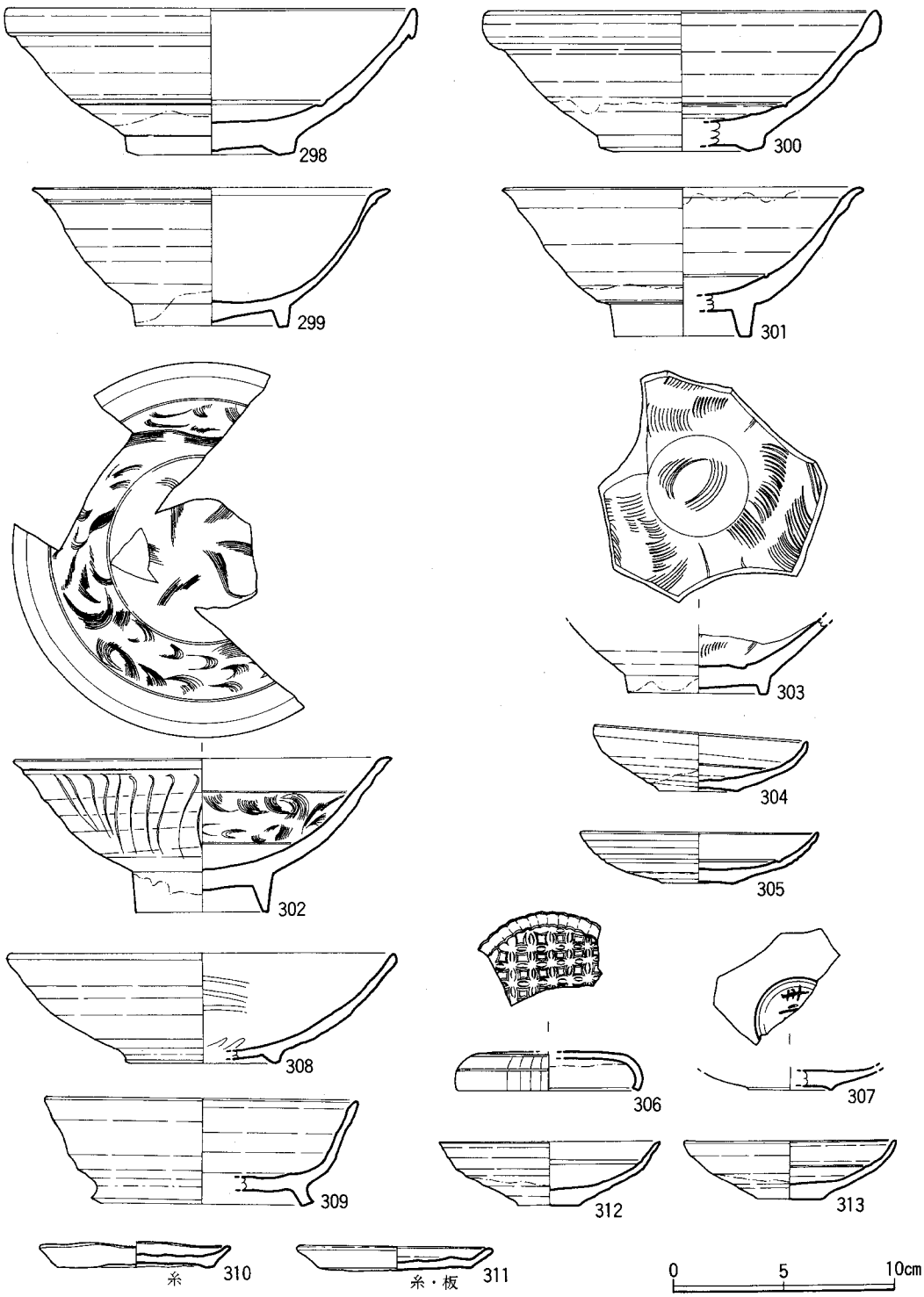


Fig. 25　出土遺物実測図(17)（1/3）

298～305,307,312,313：白磁　306：青白磁　308：瓦器　309：須恵器　310,311：土師器
298～309：ＳＥ309　310～313：ＳＥ327

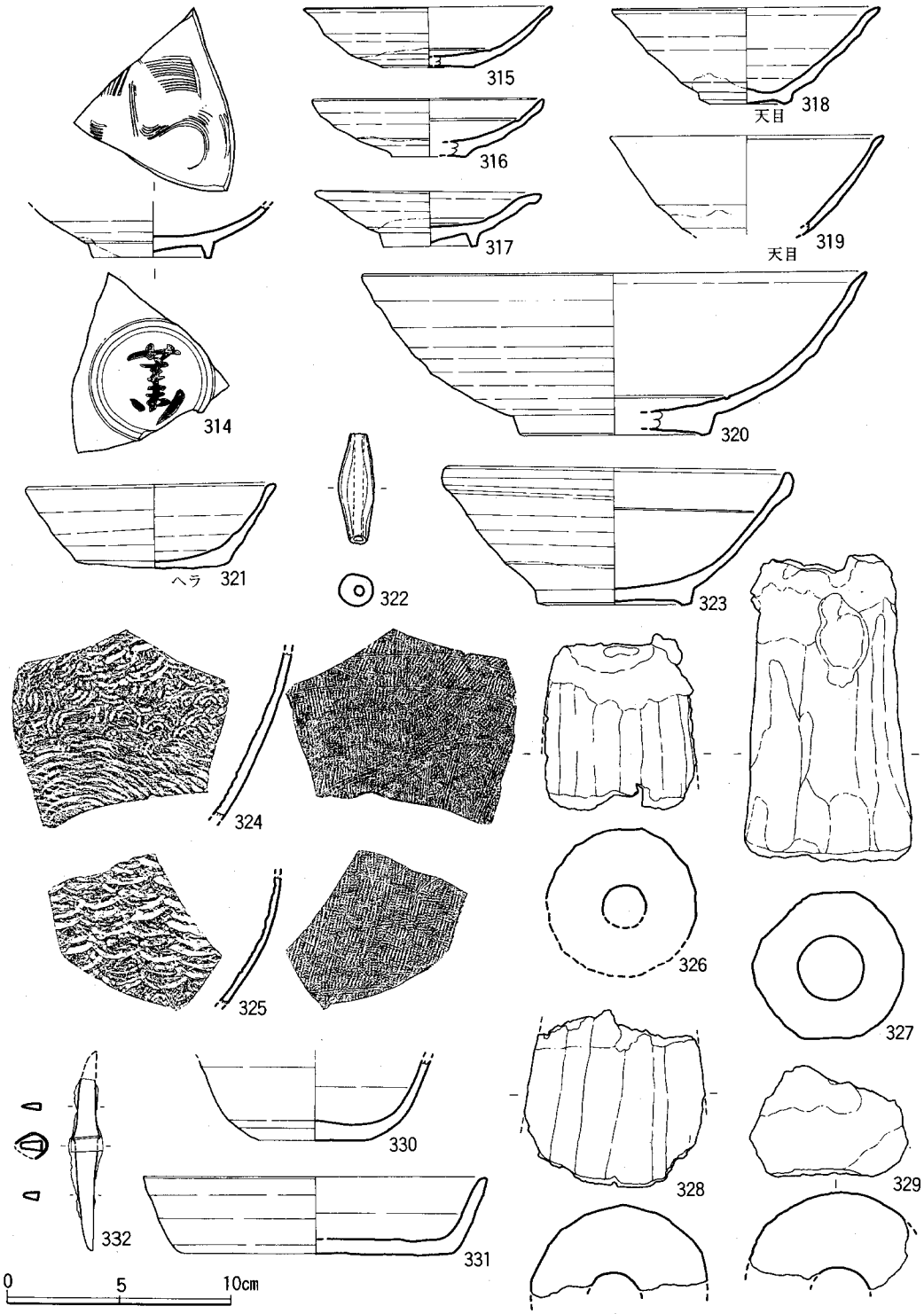


Fig. 26　出土遺物実測図(18)（1/3）

314～317,320,323：白磁　318,319：陶器　321：土師器　322：土錘　324,325,330,331：須恵器
326～329：輪・羽口　332：刀子
314～320：ＳＥ327　321：ＳＰ311　322：Ⅲ.B1区包含層　323：ＳＰ329　324：ＳＫ401　325：ＳＫ403
326：Ⅳ.C2区包含層　327：ＳＫ403　328,329：ＳＫ404　330：Ⅳ.包含層　331,332：Ⅳ.B2区包含層

Ⅲ おわりに

博多遺跡群第43次調査は、第Ⅰ調査面から第Ⅳ調査面まで４面の調査を行ない、古代から中・近世にかけての遺構を多数検出した。土壙160基、井戸址８基、溝３条、掘立柱建物１棟、遺物の出土したピット138個である。遺物量も厖大で、面積の割には遺物量の多いのが博多遺跡群の特徴である。できるだけ図化を試みたが充分とは言い難い内容である。遺物の解説、個別遺構の図化・説明が殆どできなかった。今後、機会があれば補足していきたいと考えている。

ここでは、各調査面で検出した遺構や遺物について各時期ごとに概括して補足説明としておきたい。

時期的に最も古い遺構は古代に属する製鉄炉址４基である。ＳＫ401と402は削平が激しく半分は未調査区へ広がっているので全体の様子ははっきりしない。ＳＫ403は略長方形の土壙で長さ1.15ｍ、幅0.85ｍ、深さ0.35ｍを測る。東側の長辺側が赤変しており完形の鞴の羽口が据え置かれた状態で出土している。ＳＫ404はＳＫ403の東側3.5ｍの位置にあり、炉址というよりは鉄滓や焼土、破損した鞴の羽口などが棄て置かれた状態のものであった。出土した鉄滓は各遺構ごとに性格が異なっており、新日鉄の大澤正己先生によれば、ＳＫ401は鉄滓と鉄素材が中心、ＳＫ402は鉄滓、ＳＫ403は鉄素材が主体を占め、ＳＫ404は最終工程の鉄滓であるとのご教示を得た。出土遺物は炉址から須恵器の甕の破片、周辺からは須恵器の坏、鞴の羽口、鉄刀子などが出土している。これらの炉址は時期的には同一とみられ、９～10世紀の時期を考えておきたい。なお、第Ⅳ調査面は調査区全体を掘り下げたが、遺構の存在が確認できたのは調査区北西部分のみであった。遺構は西側及び北側に広がるものと考えられる。

11世紀後半から12世紀代になると遺構の数が増えてくる。主に第Ⅲ調査面で確認した土壙群が中心となる。円形もしくは方形が主体でＳＫ333では四隅に柱穴がみられた。同期に属する遺構は、ＳＫ228・230～232・234・236・239・240～244・248・302～308・310・312～318・320～323・328～342とＳＥ309である。

12世紀後半から13世紀にかけての遺構は第Ⅱ調査面で主に出土し、第Ⅲ調査面と第Ⅰ調査面からも出土している。図化している遺物は残りの良いものを中心におこなったので、必ずしも遺構の時期を示しているとは限らない。時期決定には図化していない他の遺物も検討して行なった。この時期に属する遺構は、ＳＫ147・148・150・166・168・170・218・222・226・227・229・233・237・245・246・247・319・325・343とＳＥ301である。

13世紀の終りから14世紀代にかけての遺構は第Ⅰ調査面及び第Ⅱ調査面を中心に出土している。この時期の遺構は、ＳＫ122・134・135・142・144～146・151・155・156・158・163・169・173・213～217・219～221・223・235・238・324・326とＳＥ140・327である。ＳＫ145出土の

一括遺物は、壙底を掘り過ぎたため、下部遺構のＳＫ304に属する可能性がある。

14世紀の終りから15・16世紀にかけての遺構は第Ⅰ調査面で多く検出され、第Ⅱ調査面でも切り合い関係などではっきりしなかったものが出土している。この時期の遺構は、15世紀までのものと、16世紀まで下るものがあったが一括して取り扱っている。土壙、井戸址、溝、掘立柱建物などがあげられる。この時期に該当する遺構は、ＳＫ114・123・127・128・131～133・138・139・143・149・152～154・157・159～162・164・165・167・171・174～176、ＳＥ311、ＳＤ121・136・137、ＳＢ177である。ＳＤ121の方向はＮ44°Ｅをとり、ＳＤ136・137はほぼ直角に近い形で配列されている。ＳＤ136はＮ132°Ｅ、ＳＤ137はＮ136°Ｅで、ＳＤ121との接合部は１ｍ前後開いている。ＳＤ136と137との間隔は4.8ｍ～5.4ｍである。これらの溝は、覆土、出土遺物も同じで、時期的な同時性を示している。またこれらの溝は水の流れる用水路みたいなものではなく、部分的に深い所があり第Ⅱ調査面まで達している部分があった。一番深いところは第Ⅲ調査面までピット状に残っていた。幅0.2～0.5ｍで、溝内には根固め状の礫があり町割に関係する何らかの施設があったものと考えられる。この時期の長方形土壙、掘立柱建物はほぼこれらの溝に軸線を揃えて配列されている。

第Ⅰ調査面では近世の土壙が多数出土した。殆どが廃棄物処理遺構で近世陶磁器が多量に出土している。また近世の井戸址も３基検出している。この時期の遺構は、ＳＫ101～108、111～113、116・117・119・124～126・129・130・141・172・202・209とＳＥ109・110・118である。ＳＫ172・202・209からは初期伊万里や古伊万里の染付磁器が出土している。

その他、遺物としては、第Ⅰ面包含層から内面に型押の堆線と花文を持つ高麗青磁が出土。また、楠葉型の瓦器碗がＳＫ204・222・241から出土している。

石製品は、滑石製の石鍋が多く見られ、15世紀以降の土壙からは硯の出土が多くなる。滑石製の有溝石錘がＳＫ112・154で、滑石製の硯がＳＥ301で、硯を模した小型の滑石製品がⅡ面包含層から出土。その他、滑石製の小型容器がＳＫ236とⅡ面の包含層から、石臼がＳＫ120から、弥生時代の石鎌がⅢ面包含層からそれぞれ出土している。

鉄製品は、短刀がＳＫ204と244、刀子がＳＥ311とⅡ面及びⅣ面の包含層から、鉄製の軸の付いた紡錘車が１組ＳＫ147から出土している。鉄釘は多くの土壙で検出された。

銅製品は、石突様の小形銅製品がＳＫ201で、銅鋲がＳＫ205・247、銅鈴がＳＫ111、宝珠状の鈕状銅製品がＳＫ127で、棒状銅製品（簪か）がＳＫ215でそれぞれ出土している。また、銅製品ではないが、コマの軸状の鉛錘がⅡ面包含層で１例検出されている。

土製品では、塼がＳＫ122・170・215・234、ＳＤ137から、有溝土錘がＳＫ225・326から、鞴の羽口がＳＫ133・317・336、ＳＰ316からそれぞれ出土している。

表1　近世陶磁器一覧表

図版番号	器　種	法量(cm) 口径	底径	器高	出土遺構	備　考
PL.14- 1	伊万里染付碗	9.9	4.0	5.1	SK-102	コンニャク印判
- 2	〃	9.9	4.0	5.0	〃	〃
- 3	伊万里青磁染付碗	11.6	4.8	6.2	〃	見込五弁花文・角「福」銘有
- 4	伊万里染付碗	11.8	4.6	6.4	〃	見込昆虫文・外面かぶの染付
- 5	〃	9.0	3,8	5.0	〃	宝珠文
- 6	〃	9.2	3.3	4.9	〃	梵字くずし文・見込「寿」字
- 7	〃	9.5	5.1	5.2	〃	広東碗・山水文
- 8	〃	12.0	6.0	6.8	〃	広東碗
- 9	伊万里染付蓋	10.0	5.8(つまみ)	3.2	〃	波文
-10	伊万里染付碗	—	4.1	6.4	〃	見込五弁花文
-11	伊万里染付皿	17.6	6.1	4.9	〃	見込蛇目釉ハギ・五弁花文
-12	〃	13.2	7.7	3.8	〃	見込蛇目釉ハギ・格子文
PL.15-13	〃	13.3	7.5	3.7	〃	見込五弁花文(コンニャク印判)「福」銘有
-14	〃	20.1	11.5	4.2	〃	見込蛇目釉ハギ
-15	伊万里染付鉢	15.3	8.9	5.0	〃	蛇目凹型高台・釉ハギ 見込松竹梅円形文
-16	伊万里染付皿	13.2	7.7	3.8	〃	見込五弁花文(コンニャク印判)「福」くずし銘有
-17	〃	12.4	7.9	1.9	〃	蛇目凹型高台釉ハギ・屏風文
-18	〃	18.8	11.1	4.2	〃	底部ハリささえ
PL.16-19	伊万里色絵皿	9.6	5.1	2.0	〃	型押寿字　金魚文に短歌
-20	伊万里染付碗	—	7.0	—	〃	見込竜雲文・底部角銘有
-21	伊万里色絵皿	—	5.4	—	〃	見込釉ハギ後色絵付
-22	明染付碗	—	4.3	—	〃	
-23	伊万里青磁香炉	6.5	5.0	7.7	〃	内・底面露胎・片切彫り有
-24	伊万里白磁皿	13.4	4.3	4.2	〃	輪花状口縁・見込釉ハギ
-25	伊万里白磁香炉	6.7	6.3	5.7	〃	三足・内面露胎
-26	伊万里白磁灯明皿	上皿6.8 下皿6.2	2.9	6.1	〃	
-27	伊万里白磁大瓶	4.5	10.2	35.3	〃	畳付露胎
-28	伊万里白磁小碗	7.2	3.2	3.5	〃	
-29	伊万里白磁蚕	6.3	2.7	2.8	〃	
-30	伊万里赤絵皿	5.4	2.9	2.5	〃	
-31	伊万里白磁小碗	7.4	2.6	3.4	〃	
-32	伊万里白磁蚕	5.6	3.7	3.3	〃	
-33	〃	7.2	2.3	3.1	〃	
-34	伊万里白磁紅皿	4.5	1.4	1.3	〃	
-35	伊万里染付紅皿	6.2	2.9	2.1	〃	
-36	伊万里白磁紅皿	7.4	3.0	2.5	〃	
PL.17-37	陶器碗	9.2	3.0	5.2	〃	肥前系・色絵付
-38	〃	9.0	2.9	5.8	〃	〃
-39	〃	9.4	2.6	5.7	〃	肥前系・鉄絵・畳付露胎
-40	〃	9.1	2.7	5.4	〃	肥前系・鉄絵・高台露胎
-41	〃	9.2	3.4	5.5	〃	肥前系・底部露胎
-42	〃	10.6	4.2	6.5	〃	肥前系・鉄絵
-43	伊万里赤絵蚕	5.5	3.4	3.2	〃	
-44	陶器碗	9.2～9.5	3.9	5.2	〃	肥前系・鉄絵・畳付露胎
-45	陶器皿	12.8	5.8	2.5	〃	肥前系・輪花状口縁
-46	〃	17.3	2.5	1.8	〃	灯明皿に使用
-47	陶器灯明皿	上皿5.8 下皿9.1	4.3	2.7	〃	肥前系か
-48	陶器碗	15.1	6.0	5.1	〃	高取焼か・鉄釉
-49	陶器仏花生	—	5.1	—	〃	高取焼
-50	陶器灯明皿	上皿4.0 下皿7.7	4.8	5.8	〃	
-51	陶器蠟燭立	3.6	3.6	5.0	〃	高取焼
-52	陶器甕	6.8	3.8	6.6	〃	〃
-53	陶器鉢	15.2	8.0	9.4	〃	高取焼・三足
-54	〃	21.6	10.0	11.0	〃	
-55	土師器坏	15.2	7.6	2.5～2.9	〃	底部糸切り
-56	土師器皿	7.6	5.0	0.9～1.2	〃	〃
-57	〃	8.1	5.6	1.3	〃	〃
PL.18-58	伊万里染付碗	11.0	4.1	5.3	SK-103	見込竜文・外面竜雲文・角銘有
-59	〃	—	5.6	7.2	〃	見込五弁花文・畳付露胎・渦「福」銘
-60	〃	9.7	4.3	5.7	〃	銘有
PL.18-61	伊万里染付碗	9.9	4.2	5.3	SK-103	銘有
-62	伊万里染付香炉	10.2	8.3	7.3	〃	山水文
-63	伊万里染付碗	10.3	7.0	8.8	〃	畳付露胎
-64	伊万里青磁染付碗	11.6	4.8	5.8	〃	見込五弁花文
-65	伊万里青磁香炉	15.2	5.8	7.2	〃	三足
-66	伊万里青磁碗	9.5	4.0	5.5	〃	畳付露胎
-67	伊万里染付皿	13.8	7.7	3.5	〃	見込五弁花文・「太明年製」銘
-68	〃	14.6	8.6	3.8	〃	輪花状口縁・蛇目凹型高台釉ハギ
PL.19-69	〃	31.0	20.4	5.0	〃	輪花状口縁・口縁・底部ハリささえ 焼つぎ有・角銘
-70	〃	11.0	6.3	2.4～2.6	〃	見込・菊花・唐草文・「太明年製」銘
-71	〃	20.4	11.5	4.0	〃	輪花状口縁・唐草文・見込花木文
-72	伊万里青磁染付皿	9.8	—	—	〃	見込染付・角銘有
-73	伊万里染付紅皿	5.8	2.2	2.4	〃	羽子板・羽根文・見込目砂付着
-74	伊万里白磁蚕	7.1	2.7	3.4	〃	畳付露胎目砂付着
-75	伊万里染付瓶	—	5.5	—	〃	
-76	土師器壺	9.2～10.15	6.1～6.9	1.25～1.7	〃	10枚一括すべて糸切り
-77	土師器皿	7.4～7.9	5.1～5.7	1.3～1.6	〃	10枚一括すべて糸切り
PL.20-78	焼塩壺	6.8	5.6	7.0	〃	
-79	〃	6.85	5.5	7.05	〃	
-80	伊万里染付碗	9.9	7.4	5.9	〃	
-81	陶器皿	19.7	7.4	5.9	〃	唐津焼・見込蛇目釉ハギ・底部露胎
-82	陶器瓶	—	10.6	—	〃	肥前系
-83	〃	—	7.5	—	〃	〃
-84	〃	1.6	5.5	14.5	〃	把手付・高取焼か
-85	陶器花生	—	5.4	—	〃	肥前系
-86	伊万里染付鉢	17.7	8.8	6.5	SK-104	蛇目凹型高台釉ハギ・見込花鳥文
-87	土師質焙烙	17.2	18.0	5.9	〃	
-88	伊万里染付碗	10.5	4.1	6.2	〃	外面昆虫文(四ケ所)
-89	陶器甕	21.0	14.8	26.1	SK-105	黒釉
PL.21-90	伊万里染付皿	13.8	8.1	2.7	SK-106	畳付露胎・角「福」銘
-91	〃	11.9	7.4	3.4	〃	三足・底部露胎
-92	陶器擂鉢	23.7	11.5	11.0	〃	肥前系か注口付
-93	型打人形	—	—	—	〃	一括・右端像高3.55cm
-94	伊万里染付碗	10.5	4.3	5.3	SK-111	
-95	〃	9.4	3.8	5.2	〃	アヤメの染付・畳付露胎
-96	伊万里白磁蚕	5.8	2.6	3.8	〃	
-97	土師器皿	8.1	5.9	1.5	〃	糸切り・灯明皿に使用
-98	〃	7.2	6.0	1.0	〃	糸切り
-99	陶器碗	10.7	5.5	7.0	〃	畳付露胎
-100	〃	10.0	4.2	7.1	〃	底部露胎
-101	伊万里染付瓶	2.2	4.1	9.6	〃	牡丹文・畳付露胎
-102	土師器皿	7.5	5.5	1.4	〃	糸切り・灯明皿に使用
-103	土師器坏	14.0	9.7	1.8	〃	糸切り
-104	伊万里染付碗	10.0	4.3	4.6	SK-112	畳付露胎・雪の輪文
-105	〃	10.7	4.2	5.7	〃	梅文
-106	〃	10.3	4.2	5.5	〃	畳付露胎・銘有
-107	伊万里青磁染付碗	11.8	5.0	6.1	〃	見込五弁花文・角銘有・畳付露胎
-108	伊万里青磁染付蓋	10.2	3.9	2.6	〃	見込五弁花文・角銘有
-109	伊万里染付蓋	10.0	3.8	2.6	〃	見込五弁花文・紅葉文「太明年製」銘
-110	伊万里染付碗	10.5	4.2	6.1	〃	〃
PL.22-111	伊万里染付色絵碗	9.4	5.3	7.3	〃	
-112	伊万里染付碗	10.5	4.6	5.9	〃	花唐草文・畳付露胎
-113	〃	9.2	3.6	5.6	〃	見込五弁花文・畳付露胎
-114	〃	10.3	4.4	4.7	〃	草花文
-115	〃	8.4	4.2	6.2	〃	見込五弁花文・角銘有
-116	伊万里赤絵碗	10.0	3.95	4.8	〃	
-117	伊万里染付小碗	8.2	2.9	4.5	〃	畳付露胎
-118	伊万里白磁小碗	7.2	3.4	4.3	〃	
-119	伊万里染付皿	9.1	5.1	2.1	〃	輪花状口縁口銘 見込五弁花文「太明年製」銘
-120	〃	10.7	6.5	2.4	〃	見込五弁花文・菊ちらし文角銘有

図版番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	出土遺構	備考
PL.22-121	伊万里色絵皿	12.6	8.0	2.5	SK-112	見込五弁花を色絵で描く
-122	伊万里染付鉢	21.0	7.3	10.0	〃	見込五弁花文・畳付露胎・渦「福」銘
-123	伊万里染付紅皿	5.9	2.5	2.4	〃	羽子板・羽根文
-124	伊万里染付皿	14.5	9.6	4.5	〃	見込松竹梅円形文　角銘有
PL.23-125	伊万里染付瓶	2.55	4.5	11.55	〃	花唐草文
-126	〃	—	4.8	—	〃	
-127	〃	2.5	—	12.5	〃	
-128	陶器碗	9.9	4.4	5.1	〃	肥前系・鉄絵・底部露胎・目砂付着
-129	〃	9.2	3.6	5.0	〃	〃
-130	〃	9.4	2.9	5.6	〃	色絵付・高台露胎
-131	〃	9.5	2.9	5.5	〃	〃
-132	〃	10.9	4.6	5.5	〃	口縁鉄錆
-133	〃	9.4	4.4	5.2	〃	畳付露胎・見込及び高台目砂付着
-134	〃	12.6	4.6	7.4	〃	肥前系・鉄絵・高台露胎
-135	陶器壺	—	9.5	—	〃	高取焼竹筒形
-136	型打人形	—	—	—	〃	一括右端像高6.85cm
-137	伊万里染付碗	10.1	3.9	5.2	SK-113	紅葉文・見込昆虫文
-138	〃	10.2	4.1	6.2	〃	草花文
-139	〃	9.7	3.9	5.0	〃	雪の輪文・畳付露胎
-140	〃	11.3	9.2	6.3	〃	広東碗・見込昆虫文・畳付露胎
-141	伊万里染付皿	28.1	17.35	4.85	〃	輪花状口縁・口銹・底部ハリささえ角銘有
-142	〃	—	7.7	3.6	〃	見込松竹梅円形文・高台内釉ハギ「成化年製」銘
-143	伊万里青磁皿	10.1	6.3	2.3	〃	内外面にヘラ彫りで菊花を表わす畳付露胎
-144	伊万里染付蓋	9.0	4.9	2.4	〃	山水文
-145	陶器皿	—	10.35	—	SK-114	肥前系・畳付露胎・見込・高台に胎土目跡
-146	伊万里染付碗	11.1	4.9	7.3	SK-119	畳付露胎
-147	白磁紅皿	6.4	2.0	1.6	〃	外面露胎・蛸唐草文の型打
-148	〃	6.6	2.7	1.7	〃	〃
PL.25-149	陶器瓶	1.9	6.0	14.0	〃	底部露胎・把手付
-150	陶器甕	14.5	10.9	17.9	〃	
-151	陶器銭甕	12.0	11.7	17.7	〃	無釉
-152	伊万里染付皿	13.1	4.6	3.2	SK-120	畳付露胎・目砂付着
-153	〃	14.4	8.0	3.5	〃	畳付露胎
-154	伊万里染付碗	8.7	3.65	4.35	〃	
-155	陶器碗	9.4	5.7	7.2	〃	肥前系・鉄絵・畳付露胎目砂付着
-156	〃	9.8	4.15	7.1	〃	底部露胎・黒褐釉
-157	伊万里染付蓋	5.55	2.4	3.15	〃	高台露胎目砂付着
-158	陶器皿	13.9	4.9	3.6	〃	肥前系・見込蛇目釉ハギ・体部下半露胎
-159	土鈴				SK-130 SK-120	一括左端高さ2.8cm
-160	〃			7.8	SK-120	胴径6.8cm
PL.26-161	陶器皿	10.6	5.7	2.4	SK-128	見込蛇目釉ハギ・鉄錆
-162	伊万里染付碗	9.15	4.1	4.9	SK-129	
-163	〃	10.6	4.75	5.35	〃	紅葉文(コンニャク印判)
-164	〃	8.35	4.8	6.6	〃	畳付露胎・角銘有
-165	伊万里染付皿	10.95	5.8	2.9	SK-131	
-166	土師器土鍋	29.3	—	11.45	SK-132	Fig 9-9
-167	土師器皿	7.2	4.7	1.9	SK-133	糸切り
-168	〃	7.2	5.1	1.85	〃	〃
-169	土師器坏	11.5	7.4	2.65	SK-134	〃
-170	〃	12.5	9.3	2.35	SK-152	〃
-171	〃	12.05	8.5	2.45	SK-161	〃
-172	〃	13.2	7.8	2.4	SK-165	〃
-173	〃	12.5	7.55	3.15	SK-170	〃
-174	土師器皿	6.55	5.5	1.3	SK-171	〃
-175	土師器坏	11.25	7.6	2.7	〃	〃
-176	土師器皿	9.0	7.1	1.35	SK-155	〃
-177	〃	6.55	5.5	1.3	SK-171	〃
-178	陶器天目碗	13.1	3.9	4.7	SK-144	天目釉Fig10-22
-179	青磁碗	—	6.0	—	SK-160	高台内釉カキ取り・「刄」の朱書有
-180	土師器皿	7.85	5.15	1.8	SK-172	糸切り

図版番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	出土遺構	備考
PL.26-181	土師器坏	10.15	7.3	1.7	SK-172	糸切り
-182	陶器盤	32.0	21.2	7.4	SK-168	黄釉鉄絵Fig11-34
PL.27-183	白磁四耳壺	—	8.7	—	SE-140	Fig.11-35
-184	伊万里染付皿	8.0	4.9	2.3	SE-109 井筒	「成化年製」銘
-185	高麗青磁碗	—	5.1	—	I面包含層南西	畳付露胎・胎土目跡
-186	青磁碗	—	5.6	—	I面C3区包含層	見込印花・高台露胎
-187	〃	14.0	—	—	I面包含層南西	沈線で雷文・蓮弁を描く
-188	白磁碗	11.75	4.35	5.75	I面C1区包含層	
-189	青磁碗	17.1	6.2	8.15	I面C4区包含層	堆線に花文の型打・底面鉄錆Fig11-36
-190	陶器皿	10.0	3.7	3.2	I面A3区包含層	
-191	〃	13.0	4.7	3.05	I面包含層南	砂目跡有
-192	土師質土鍋	6.9 (底)	3.95 (縁)		I面C4区包含層	
-193	鉢壺	5.5	6.55 (胴)	9.0	I面確認面	
PL.28-194	陶器皿	14.0	4.6	3.85	I面D3区包含層	肥前系(唐津)・見込高台に砂目跡
-195	〃	15.6	4.3	3.7	〃	肥前系(唐津)・見込鉄絵
-196	〃	15.6	5.05	3.5	I面D2区包含層	肥前系(唐津)・見込鉄絵・目砂付着
-197	伊万里染付皿	13.6	5.1	3.8	〃	輪花状口縁・畳付露胎
-198	陶器皿	13.0	4.6	2.7	I面D3区包含層	肥前系(唐津)・見込蛇目釉ハギ目砂付着・緑釉
-199	染付皿	20.0	10.3	4.75	I面撹乱面	高台内釉ハギ・鉄絵梅文
PL.29-200	伊万里染付碗	11.6	4.7	6.5	SK-202	山水文
-201	陶器碗	16.4 (復)	5.0	7.5	〃	肥前系か　褐緑釉
-202	伊万里染付皿	13.6	6.3	3.4	〃	日の字鳳凰文
-203	〃	13.9	6.2	3.3	〃	〃
-204	〃	14.9 (復)	9.0	3.65	〃	花鳥文

表2　出土銅銭一覧表

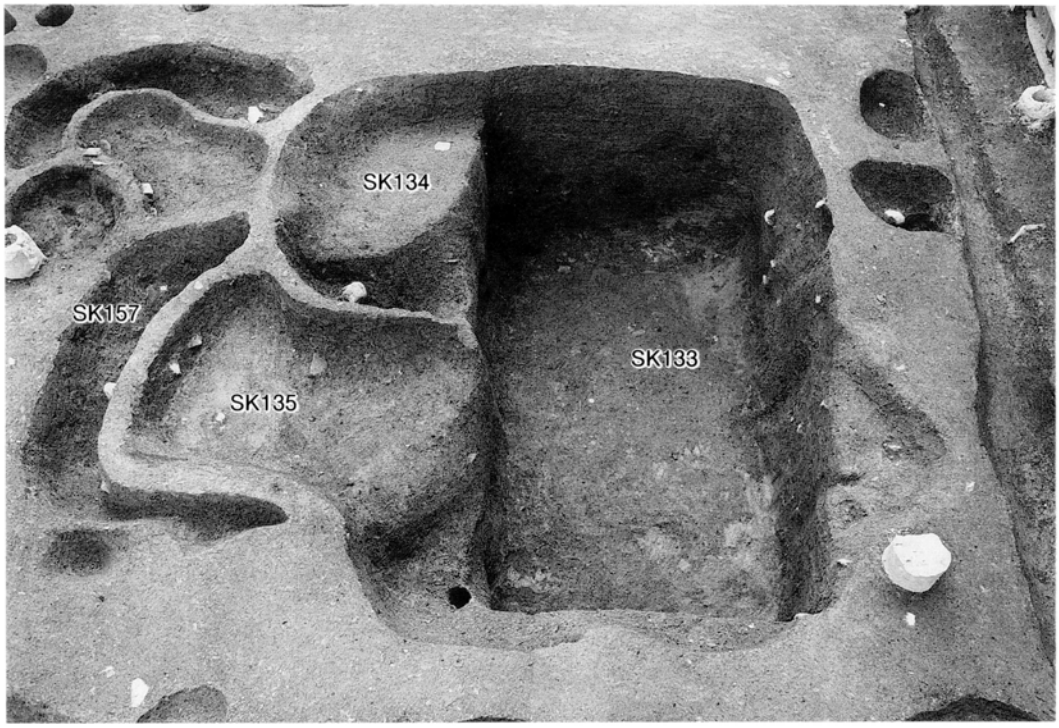
名称	径(cm)	厚(cm)	出土遺構	備考
寛永通寶	2.25	0.13	SK-102	
不明	1.85	0.15	〃	
不明	—	—	〃	小片
不明	2.58	0.15	〃	2/3残
寛永通寶	—	—	SK-103	破片
寛永通寶	2.325	0.11	SK-104	
不明	2.29	0.155	〃	2/3残
熙寧元寶	2.41	0.15	SK-107	1068年
寛永通寶	2.28	0.15	SK-111	
不明	2.61	0.2	SK-115	
不明	—	0.16	SK-123	破片
端平元寶	2.48	0.15	SK-133	1234年
不明	2.36	0.12	〃	
寛永通寶	2.41	0.1	SK-160	
景祐元寶	2.41	0.11	SK-161	1034年
開元通寶	2.36	0.12	SK-171	621年
不明	—	0.19	SK-172	破片
寛永通寶	2.46	0.135	SE-109方	
寛永通寶	2.3	0.19	SE-109井筒	
寛永通寶	2.395	0.12	SE-118方	
不明	—	0.11	SP-106	1/4残
寛永通寶	2.5	0.14	I面包含層(南)	
至和元寶	2.37	0.12	〃	1054年
寛永通寶	2.55	0.25	D2区包含層	
皇宋通寶	2.52	0.1	D3区包含層	1039年
寛永通寶	2.47	0.175	〃	
元祐通寶	2.38	0.18	〃	1086年
開元通寶他	—	—	C3区包含層	3枚接合
不明	2.45	0.165	確認面	
寛永通寶	2.5	0.16	カクラン南半	

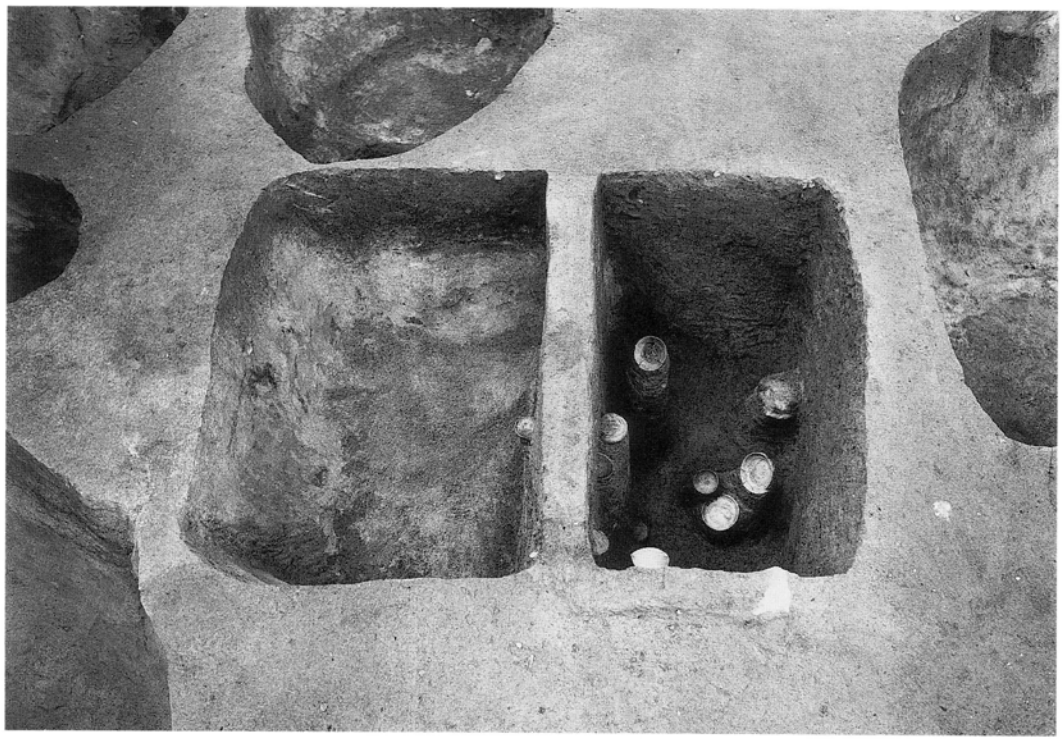
PLATES

▲(1) 第Ⅰ調査面全景（東から）　▼(2) ＳＤ121出土状況（西から）

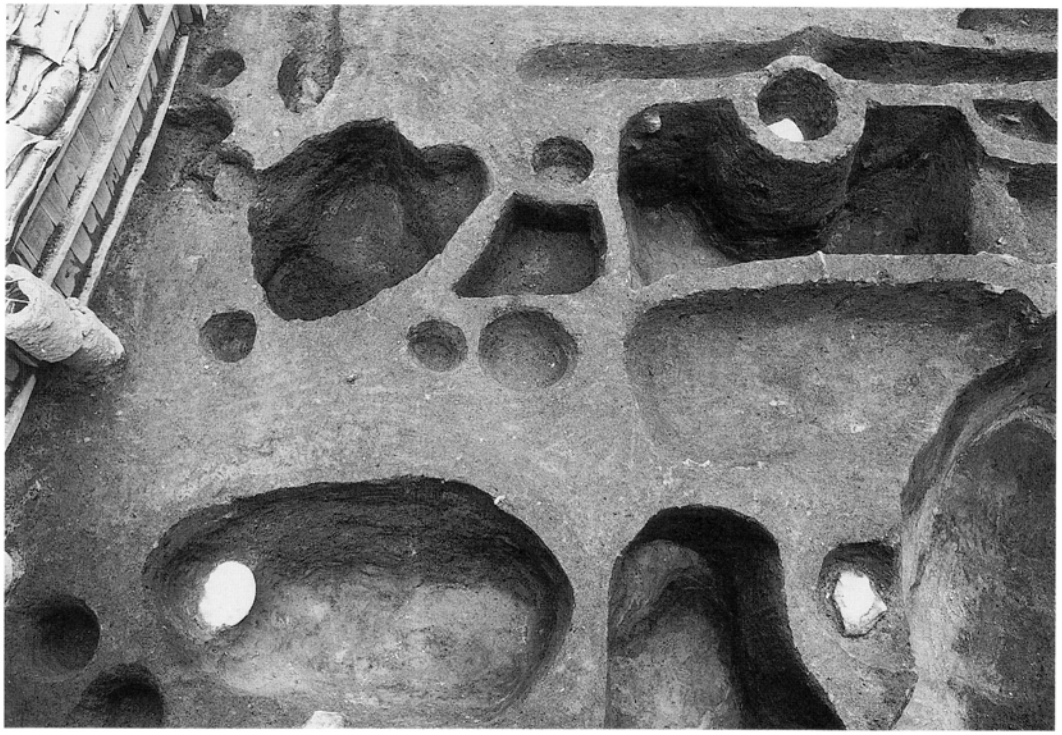
▲(1)　ＳＫ103遺物出土状況（東から）

▼(2)　ＳＫ133～135・157出土状況（東から）





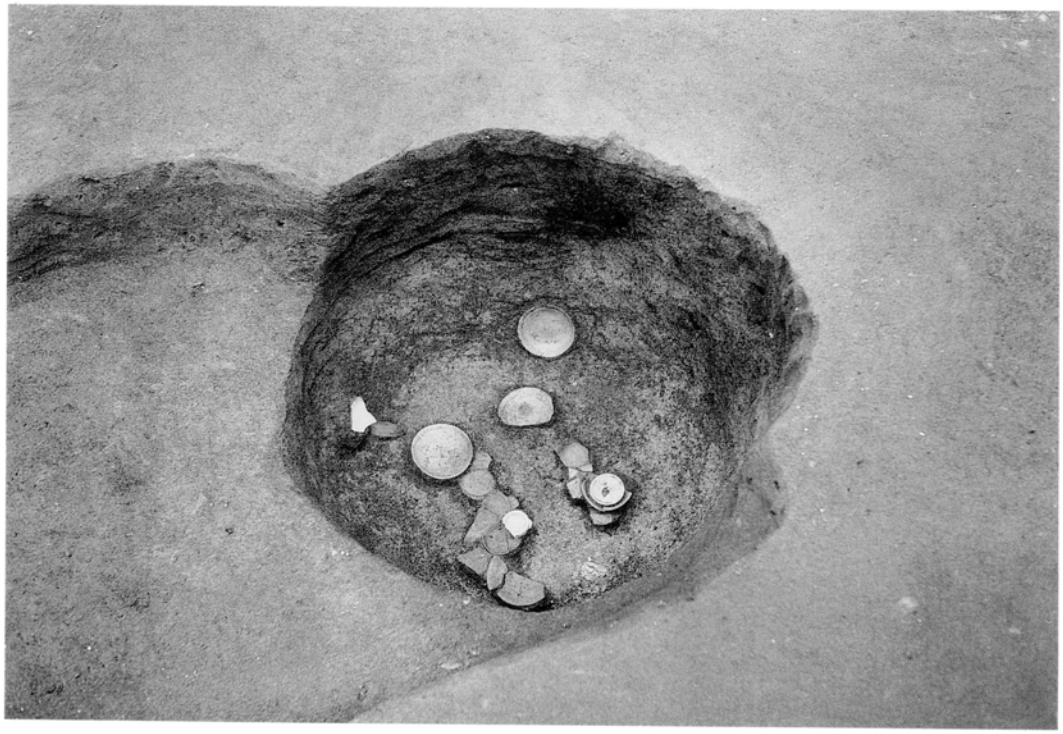
▲(1)　ＳＫ145出土状況（南から）　　▼(2)　ＳＢ177出土状況（西から）

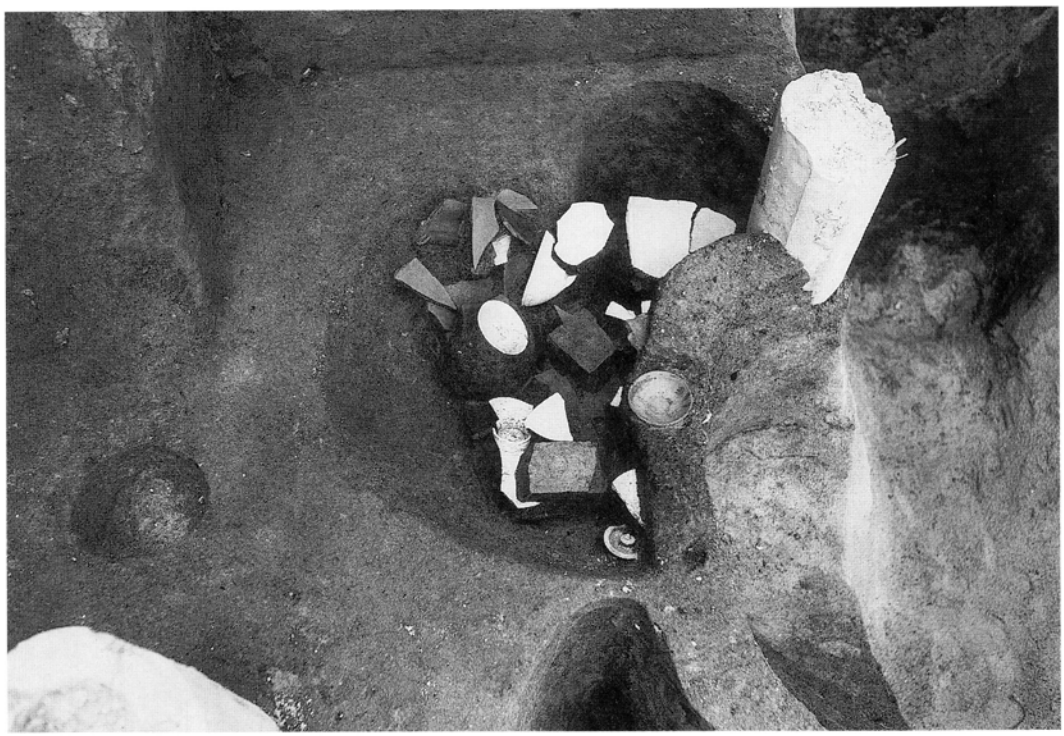


▲(1) 第Ⅱ調査面全景（西から）　　▼(2) ＳＫ201出土状況（東から）

▲(1)　ＳＫ202出土状況（北から）　　▼(2)　ＳＫ204出土状況（南から）

▲(1)　ＳＫ205出土状況（西から）　　▼(2)　ＳＫ228出土状況（南から）





▲(1)　ＳＫ234出土状況（東から）　　▼(2)　ＳＫ245出土状況（南から）

▲(1) 第Ⅲ調査面全景（東から）

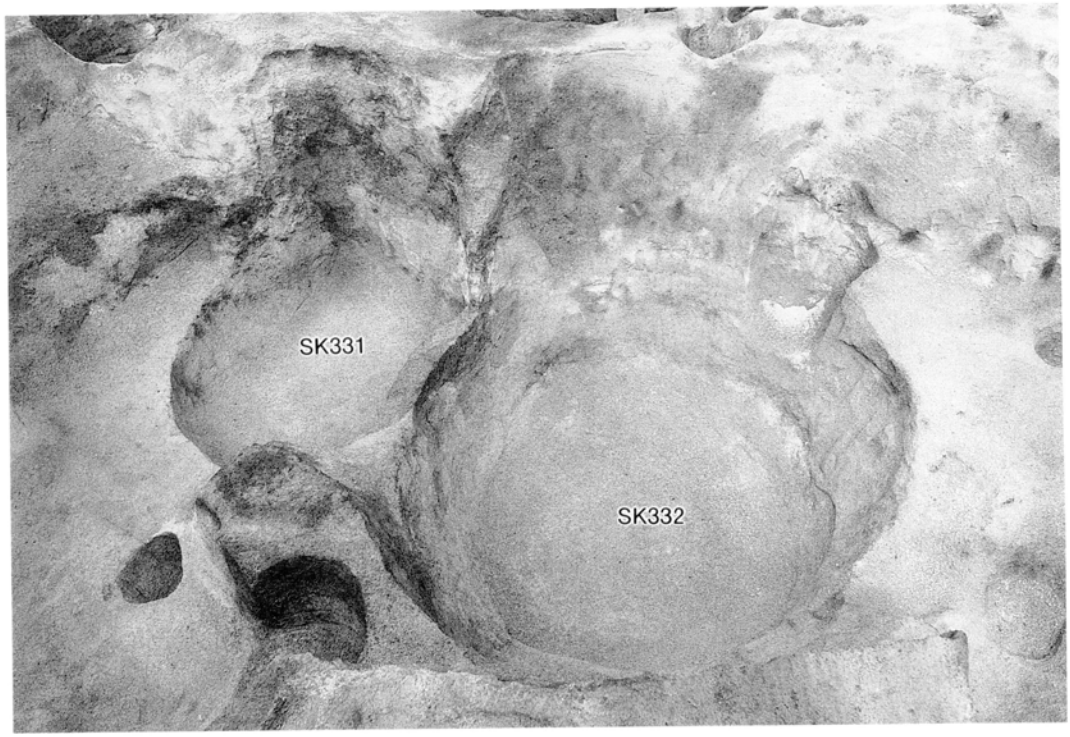
▼(2) ＳＫ303下面出土状況（北から）

▲(1)　ＳＫ303上面出土状況（西から）

▼(2)　ＳＫ308出土状況（西から）

▲(1)　ＳＫ318出土状況（南から）

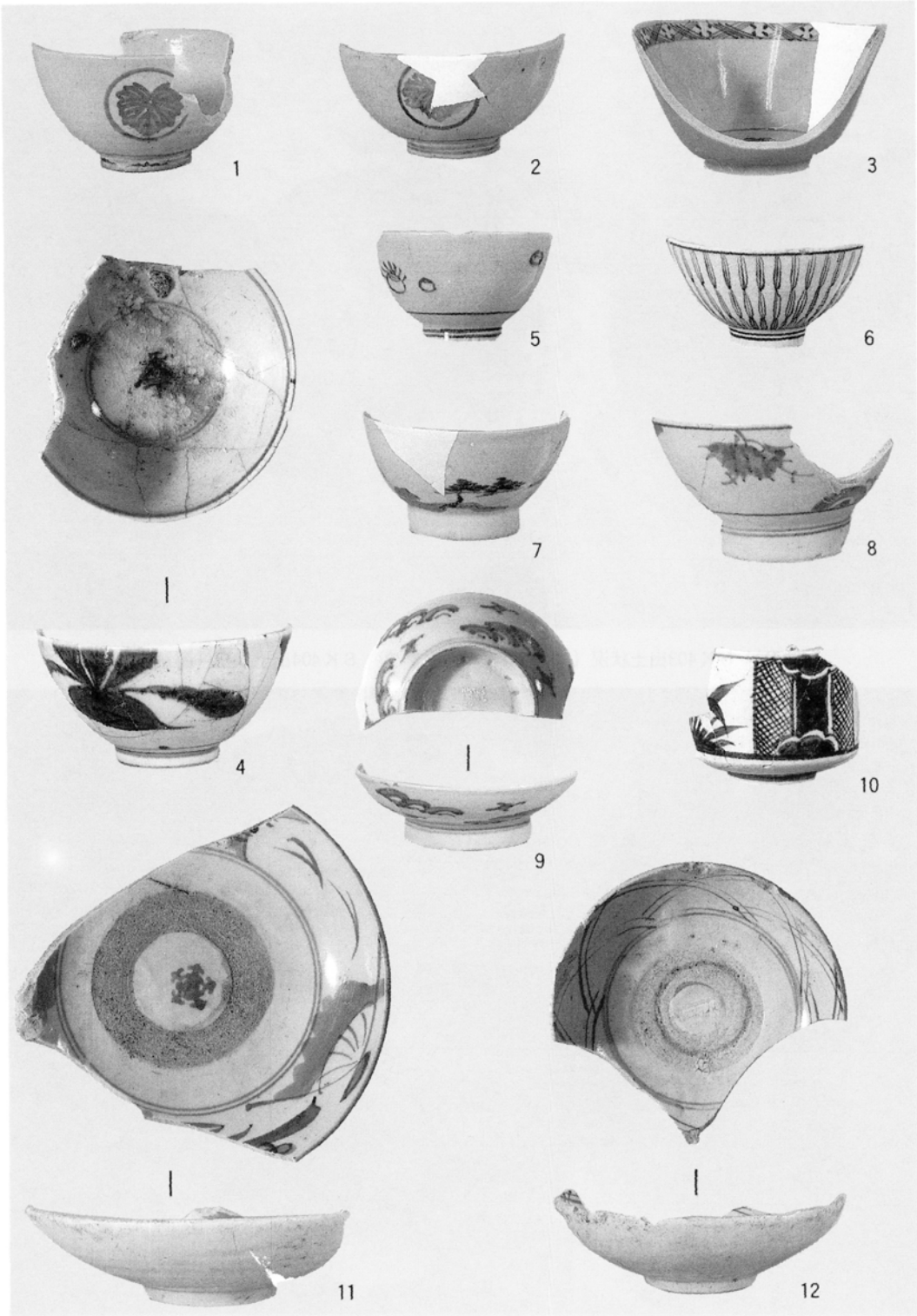
▼(2)　ＳＫ331・332出土状況（南から）



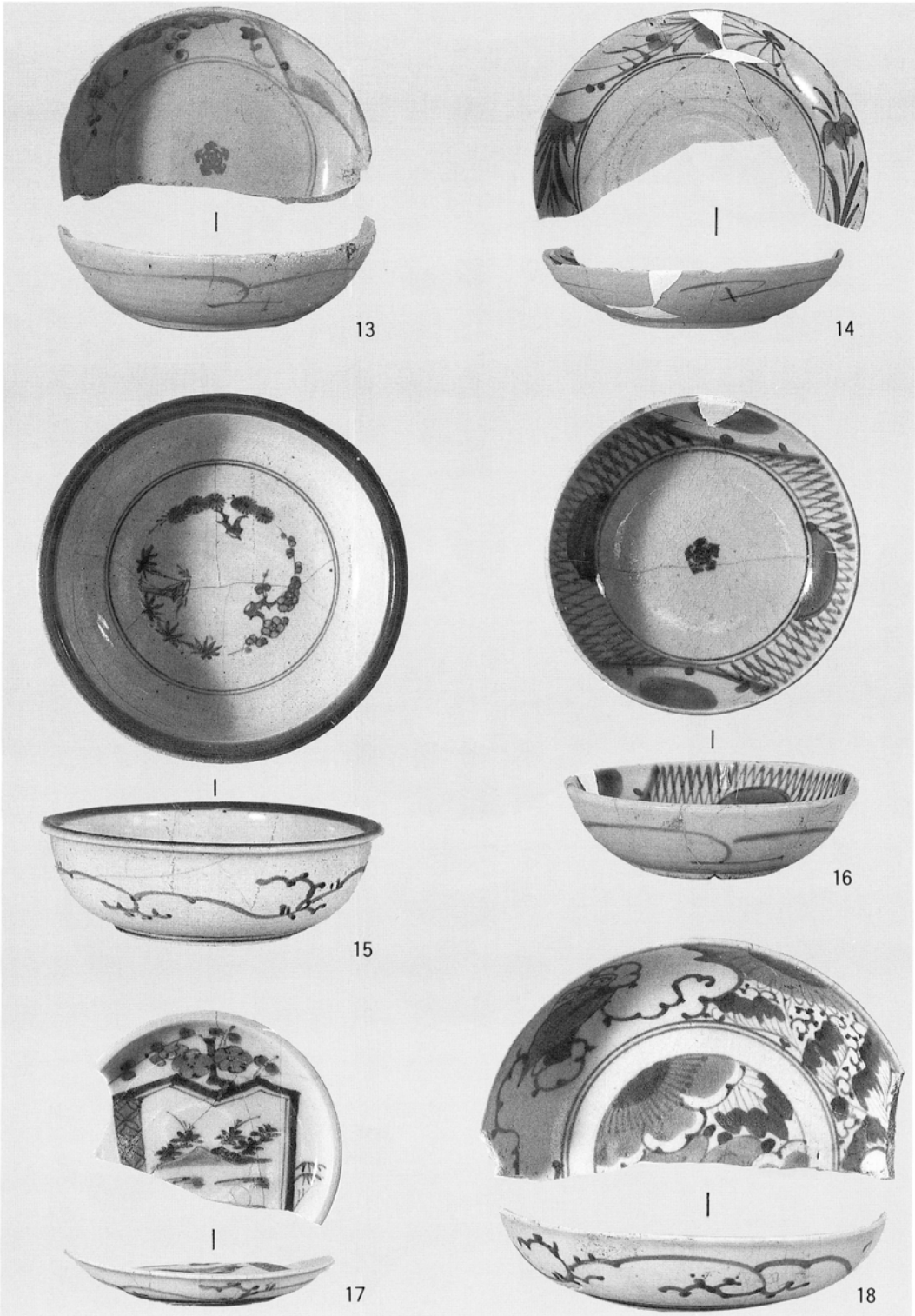
▲(1)　ＳＫ333出土状況（東から）　　▼(2)　ＳＥ309出土状況（南から）

▲(1)　ＳＥ311出土状況（西から）　　▼(2)　ＳＥ327出土状況（東から）

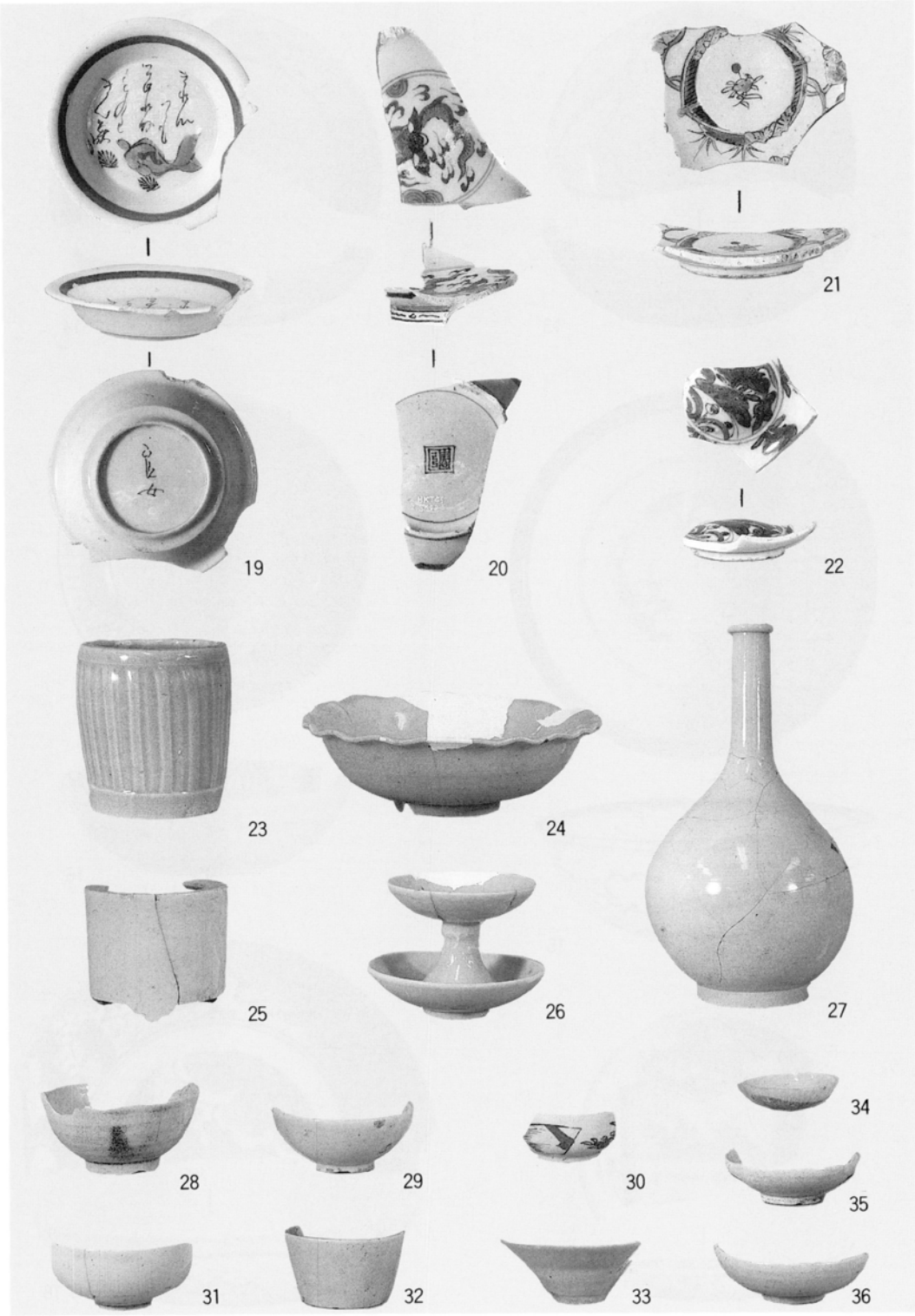
▲(1)　ＳＫ403出土状況（東から）　　▼(2)　ＳＫ404出土状況（西から）



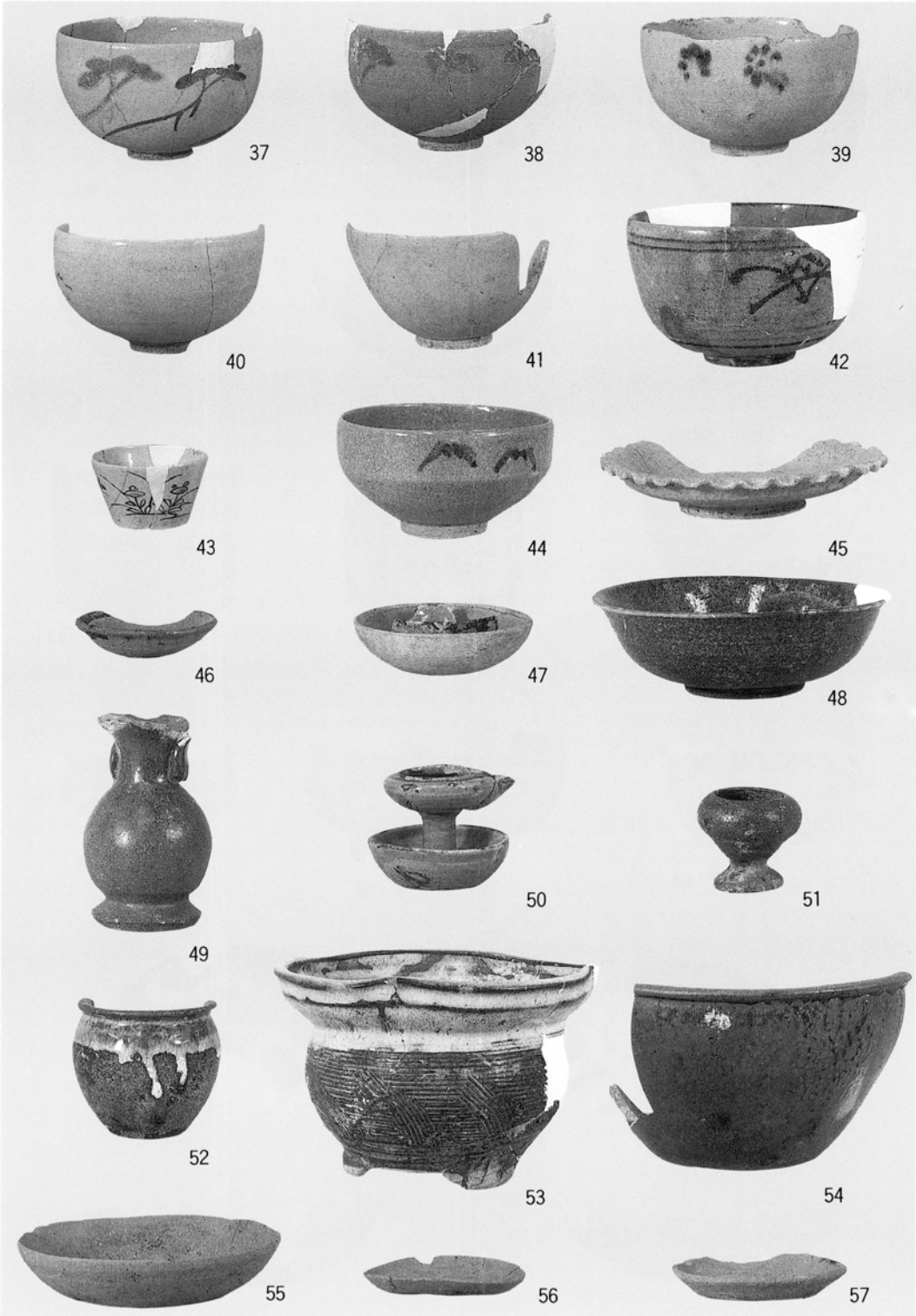
出土遺物(1)



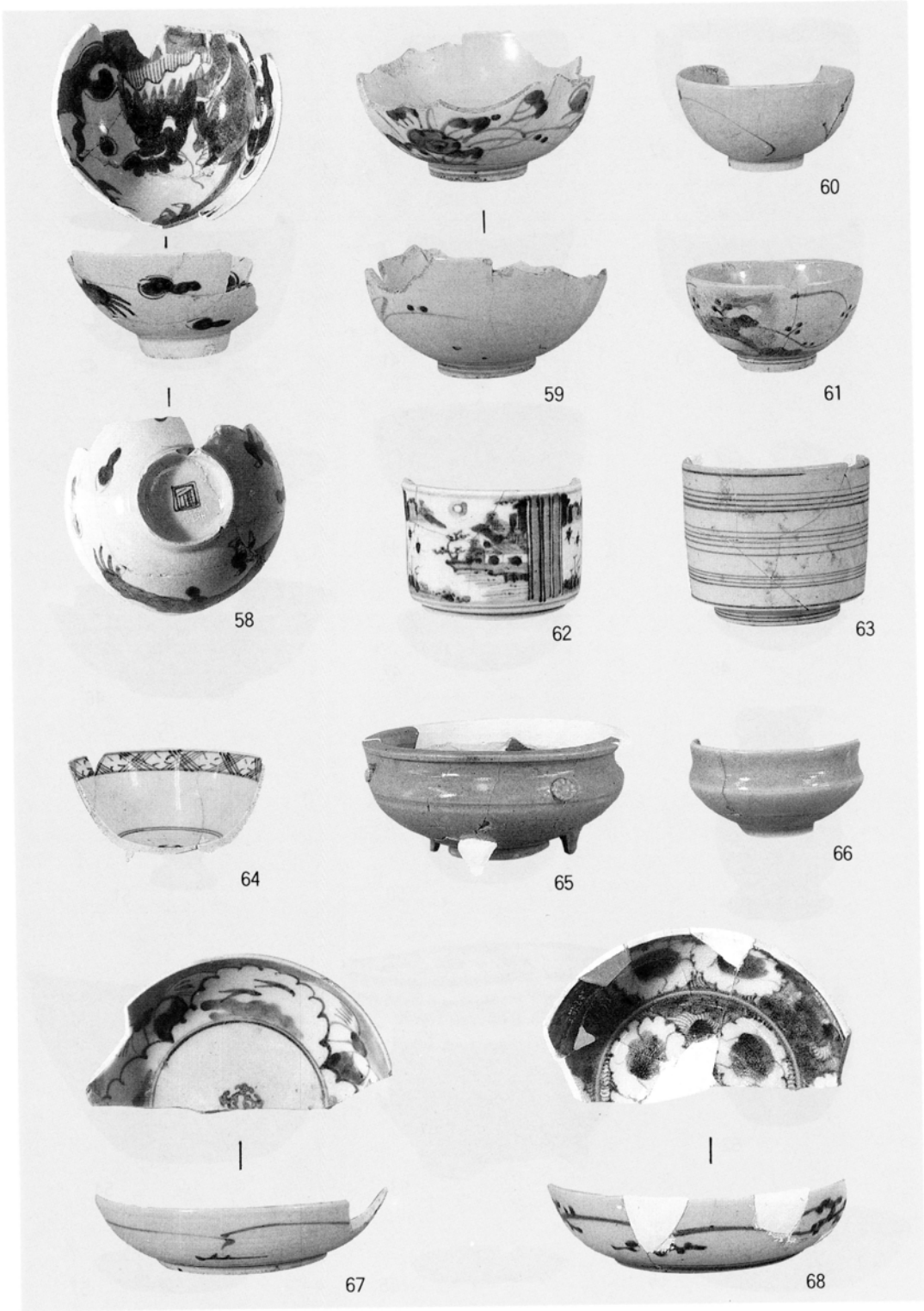
出土遺物(2)



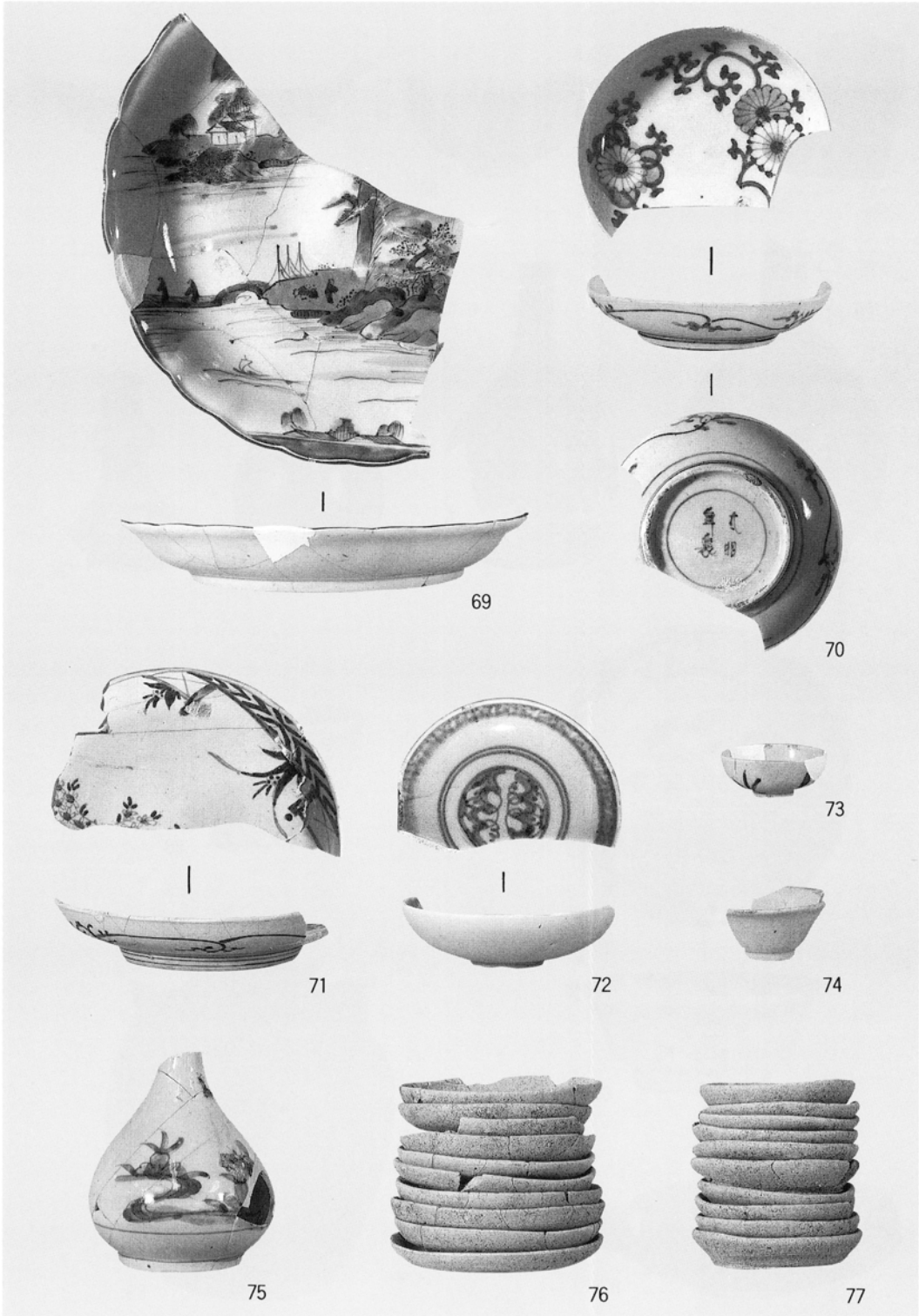
出土遺物(3)



出土遺物(4)

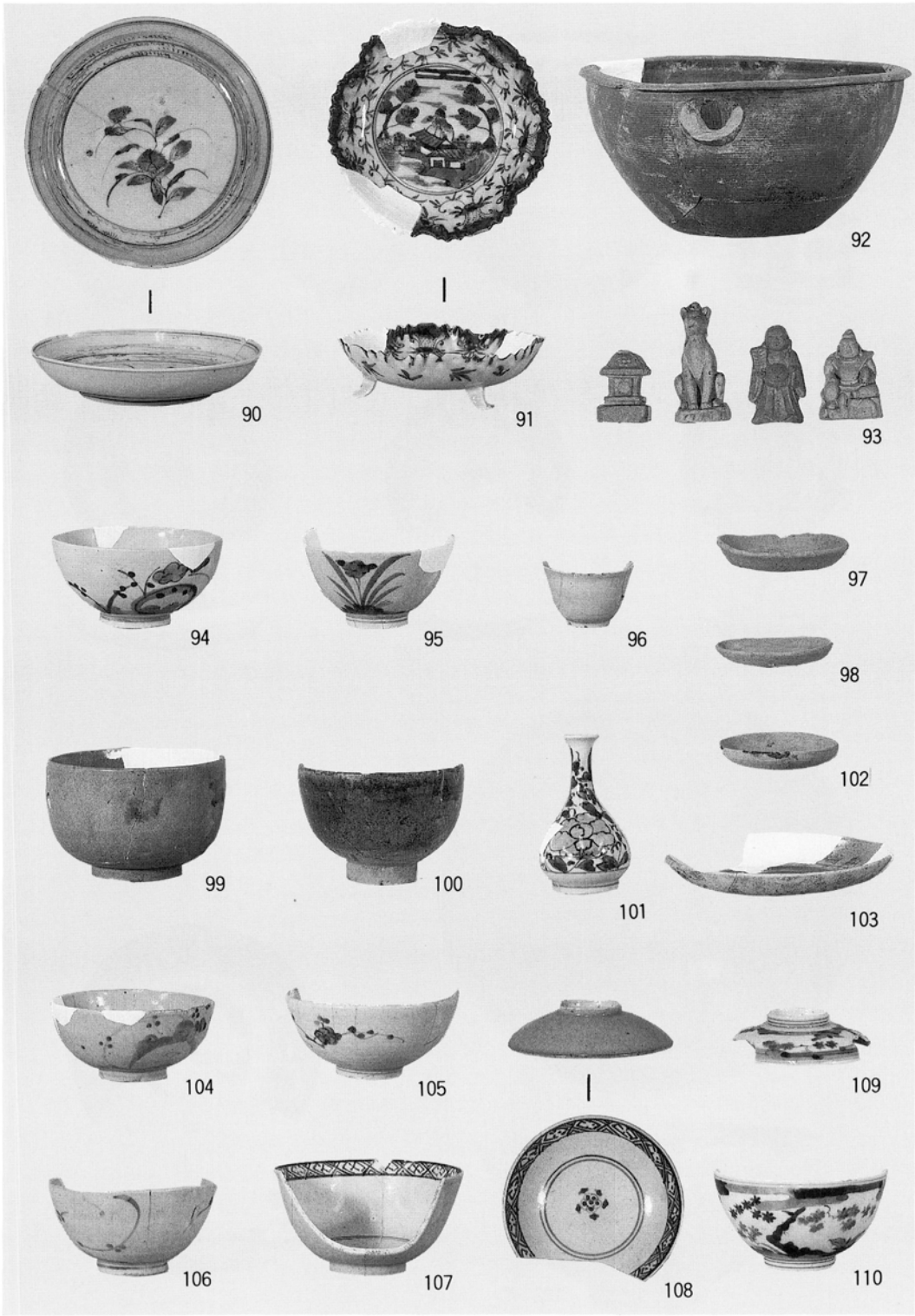


出土遺物(5)

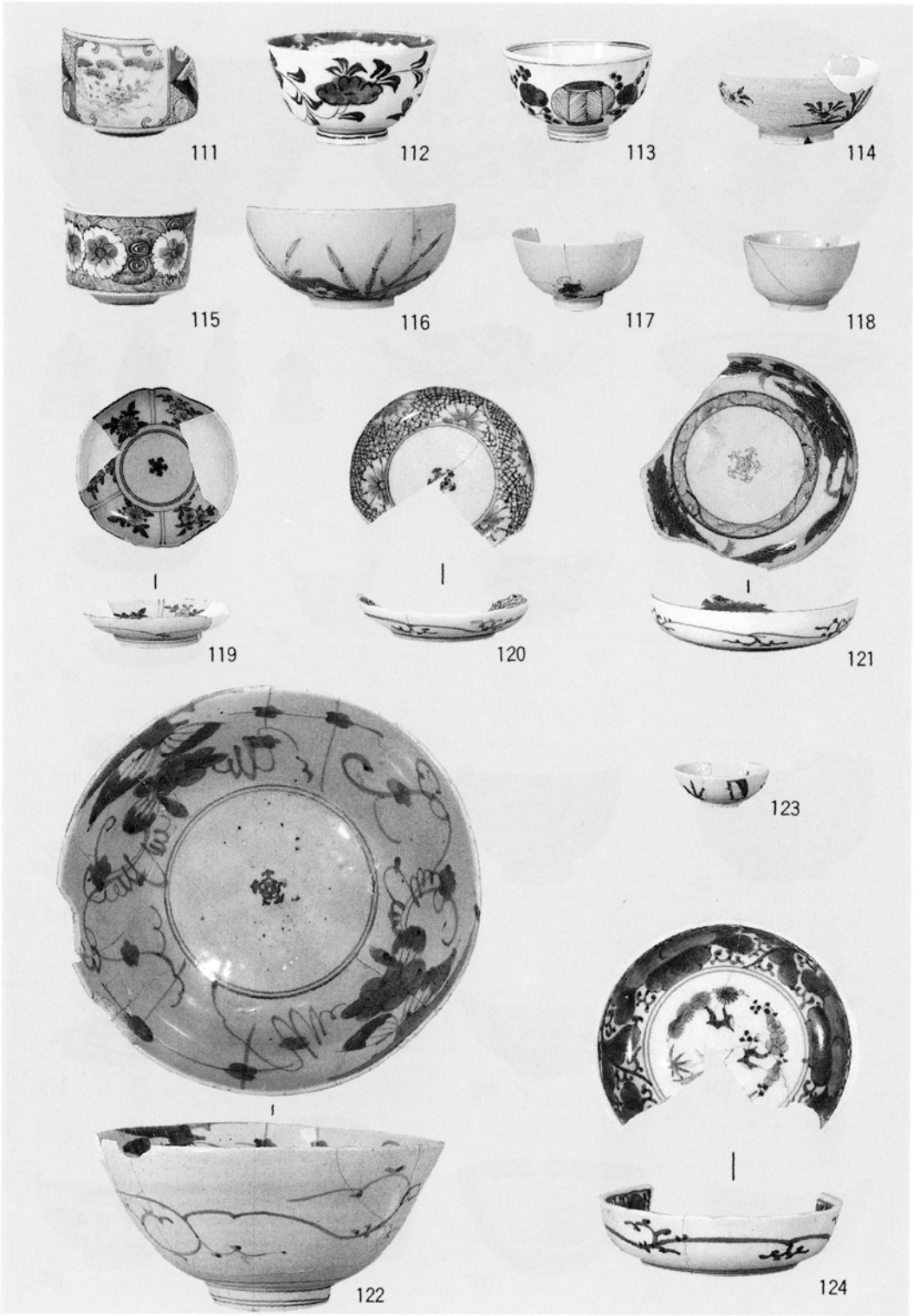


出土遺物(6)

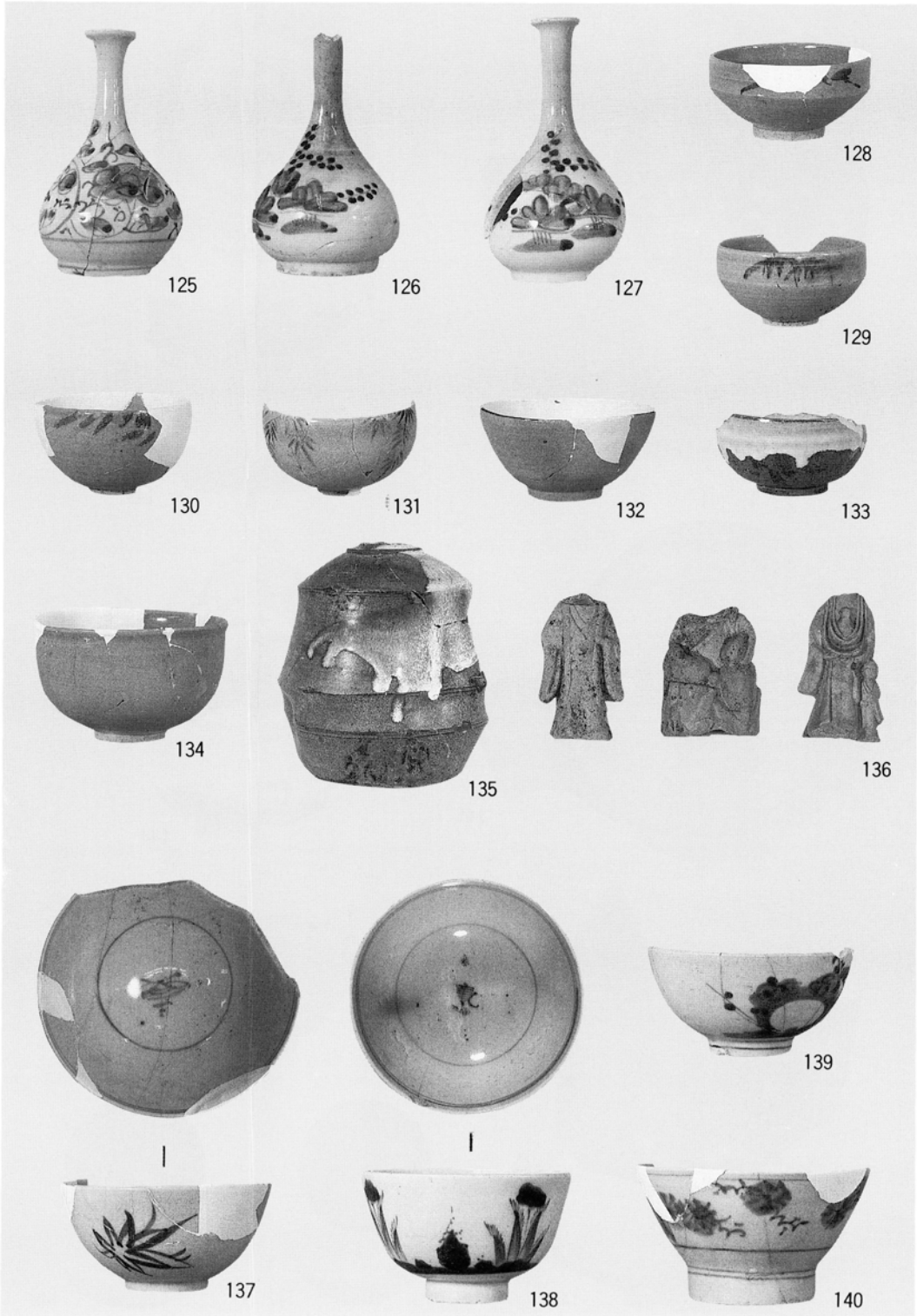
出土遺物(7)


92
90
91
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
109
106
107
108
110

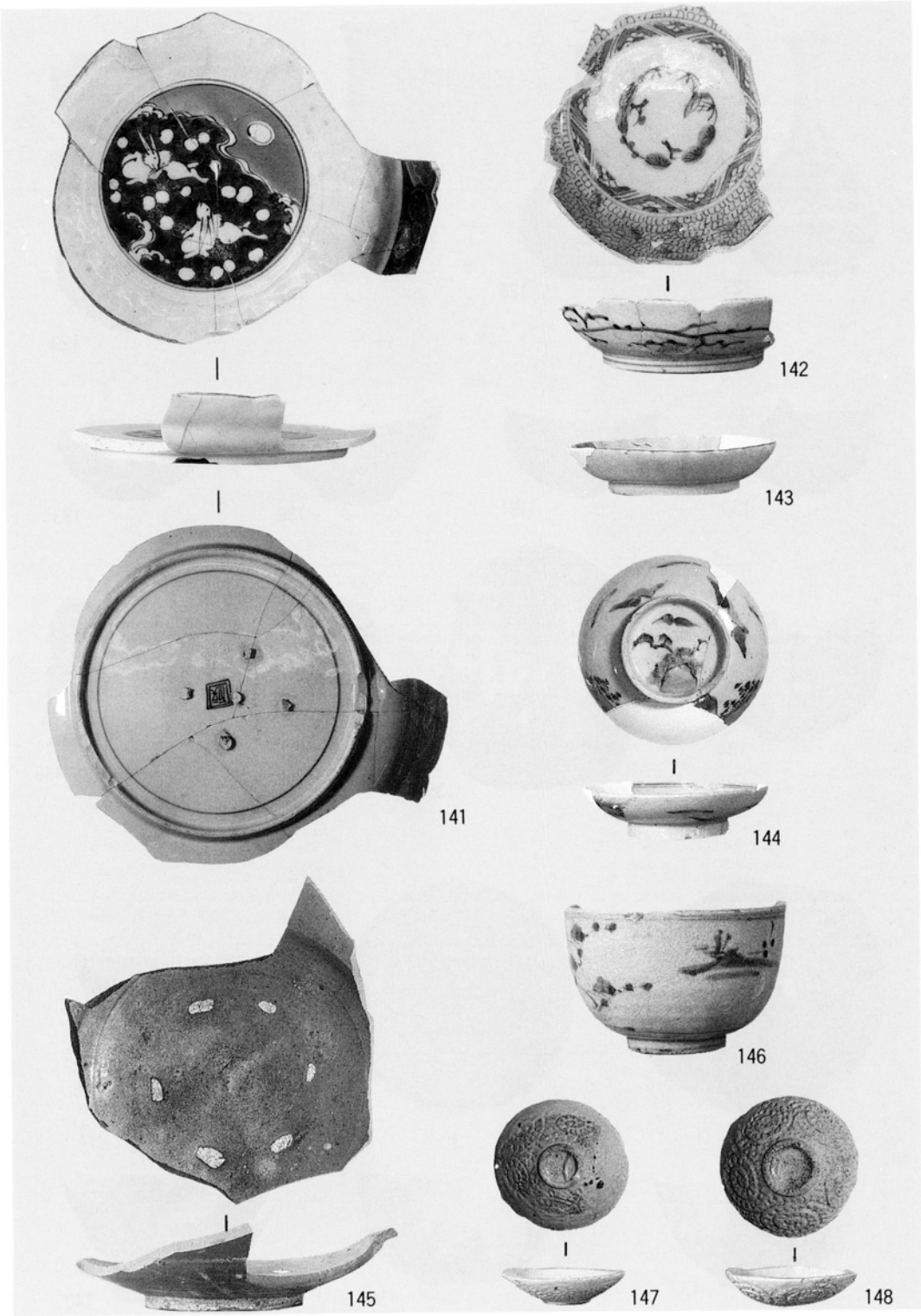
出土遺物(8)



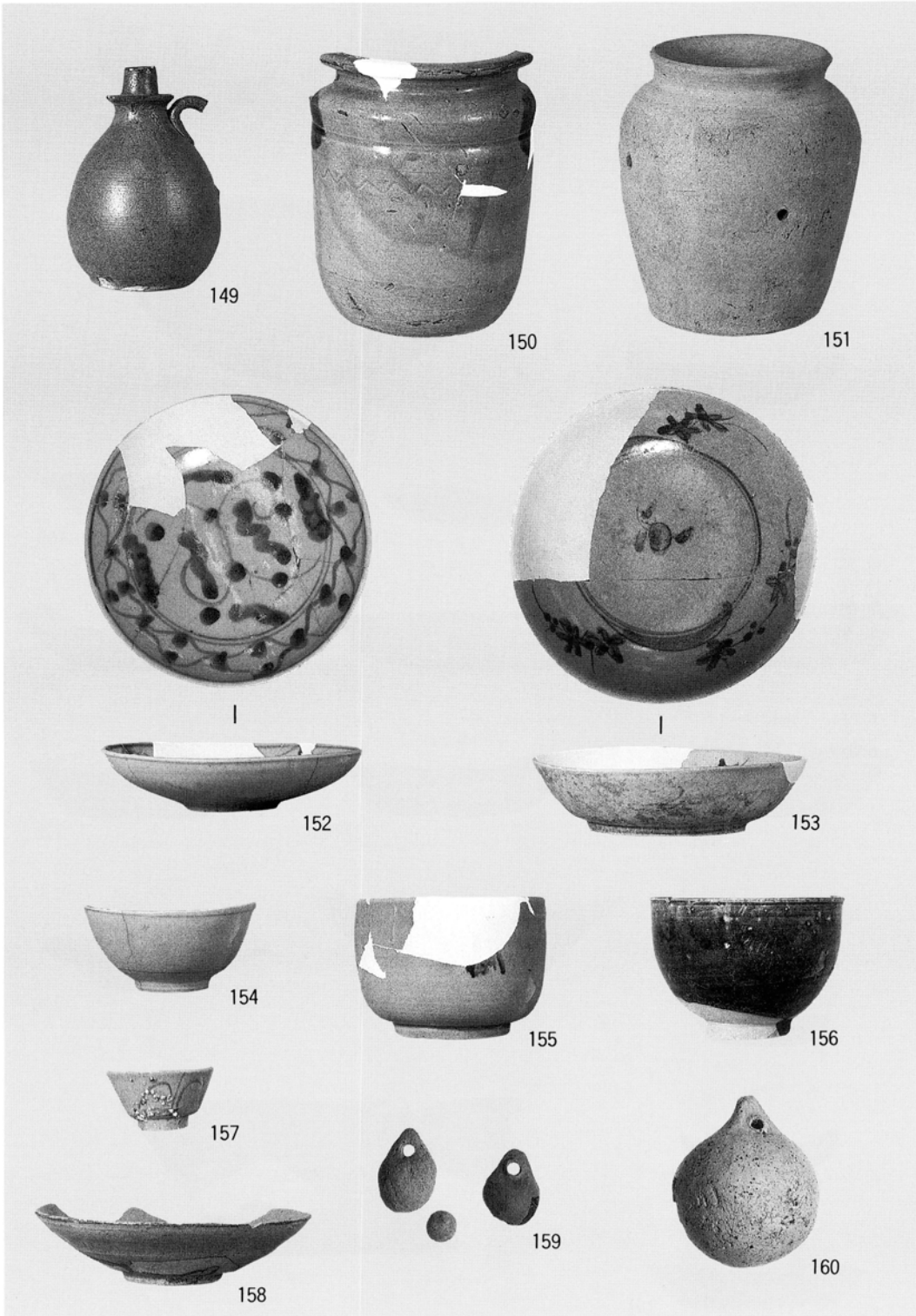
出土遺物(9)



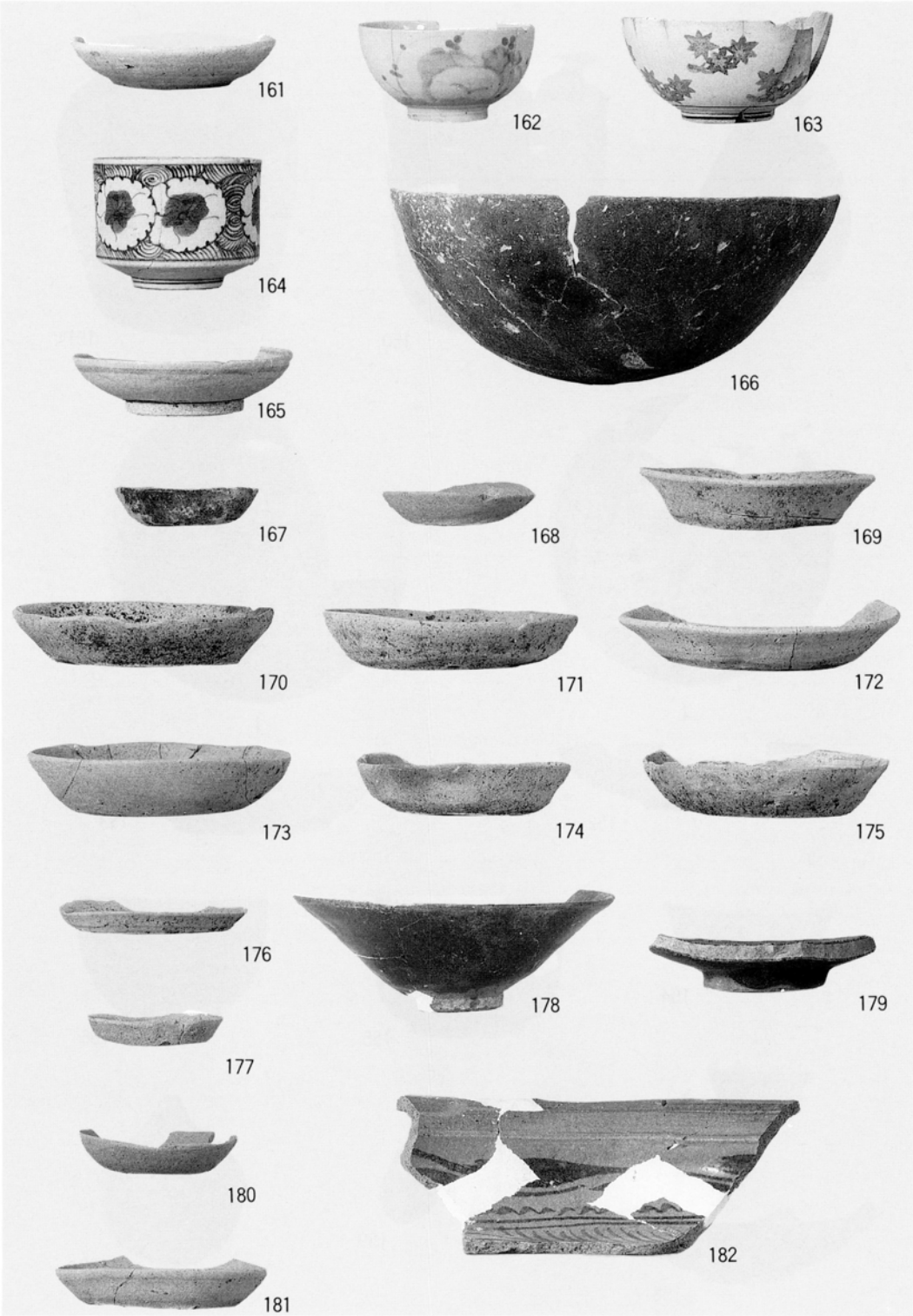
出土遺物(10)



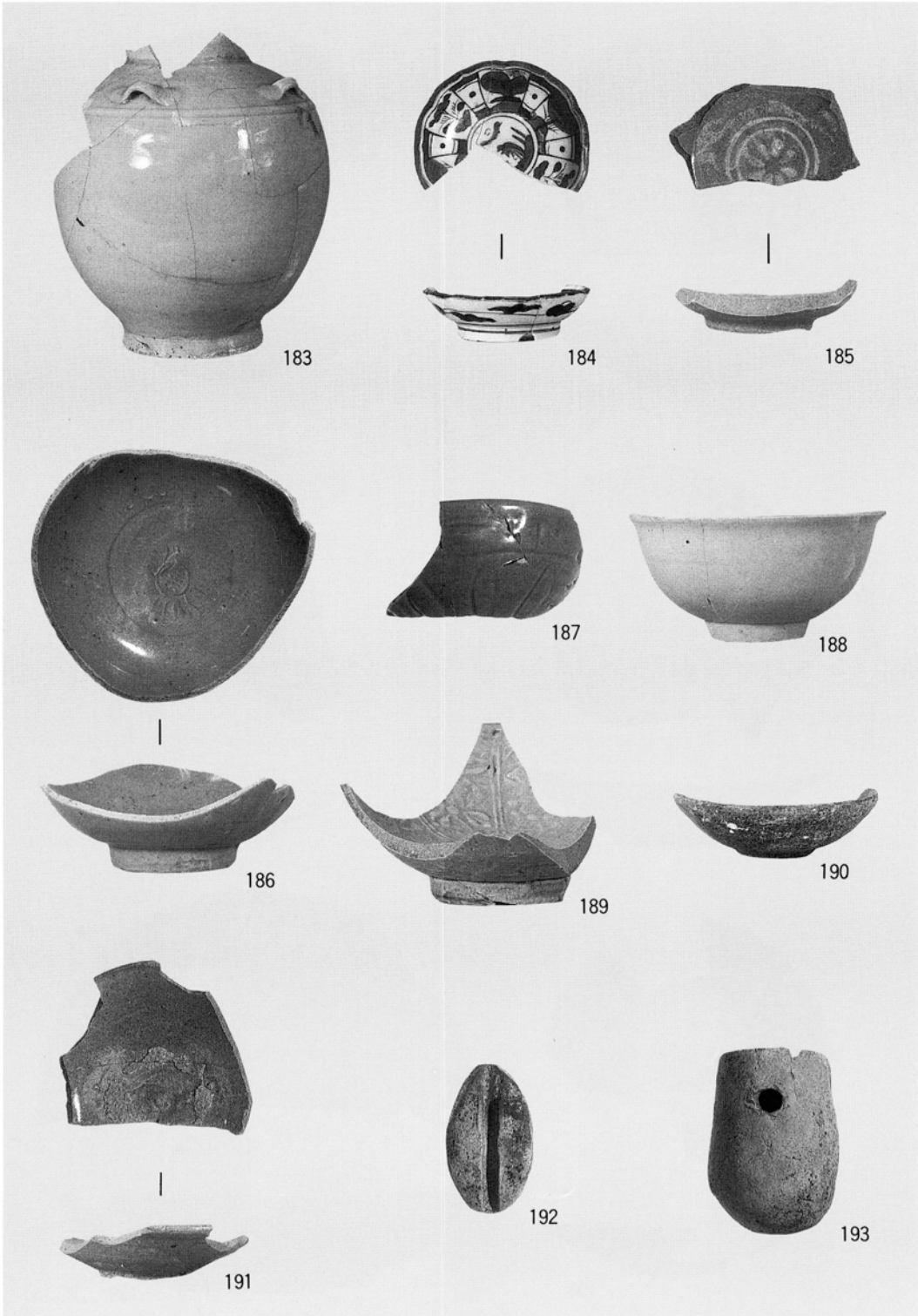
出土遺物(11)



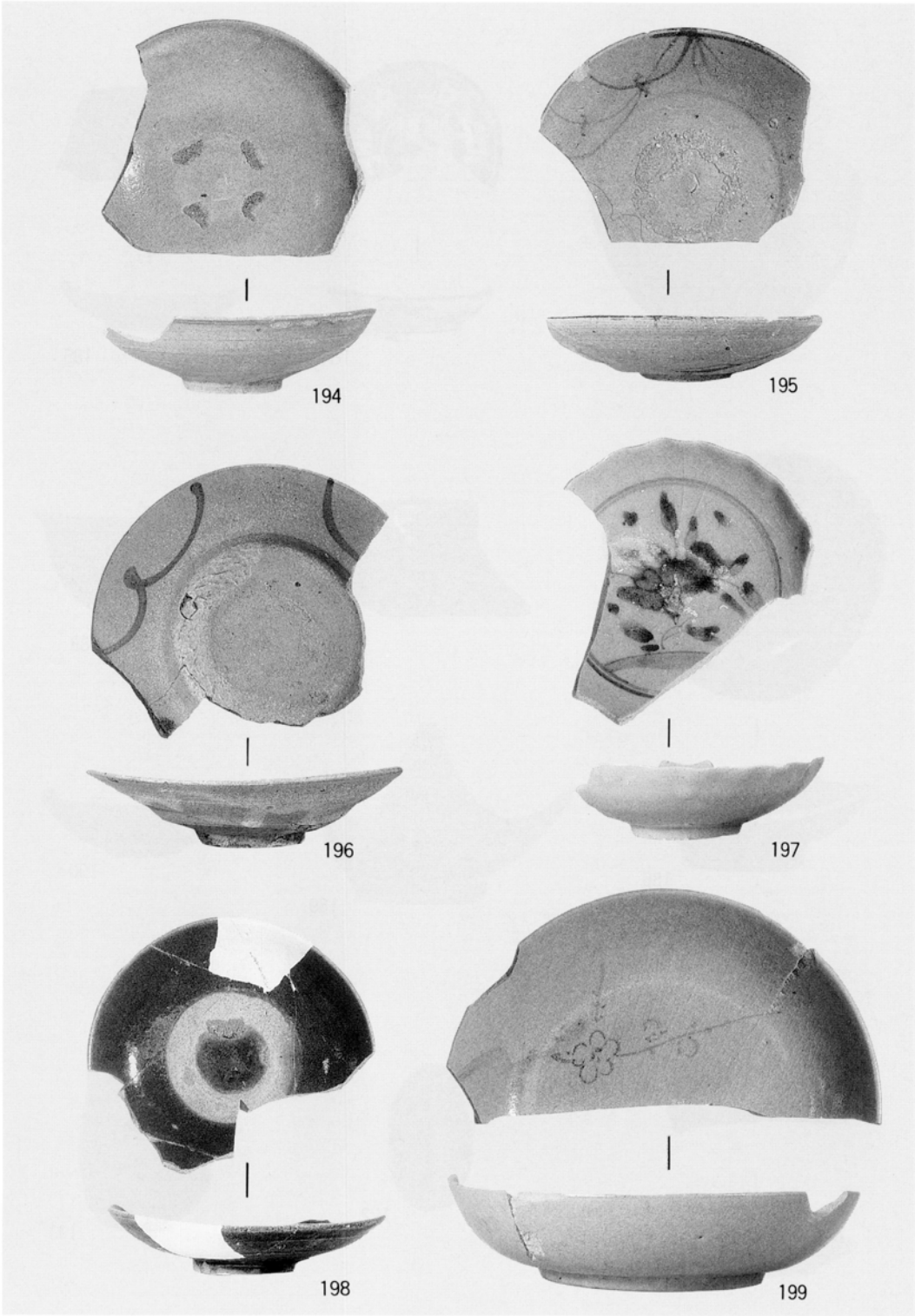
出土遺物(12)


161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182

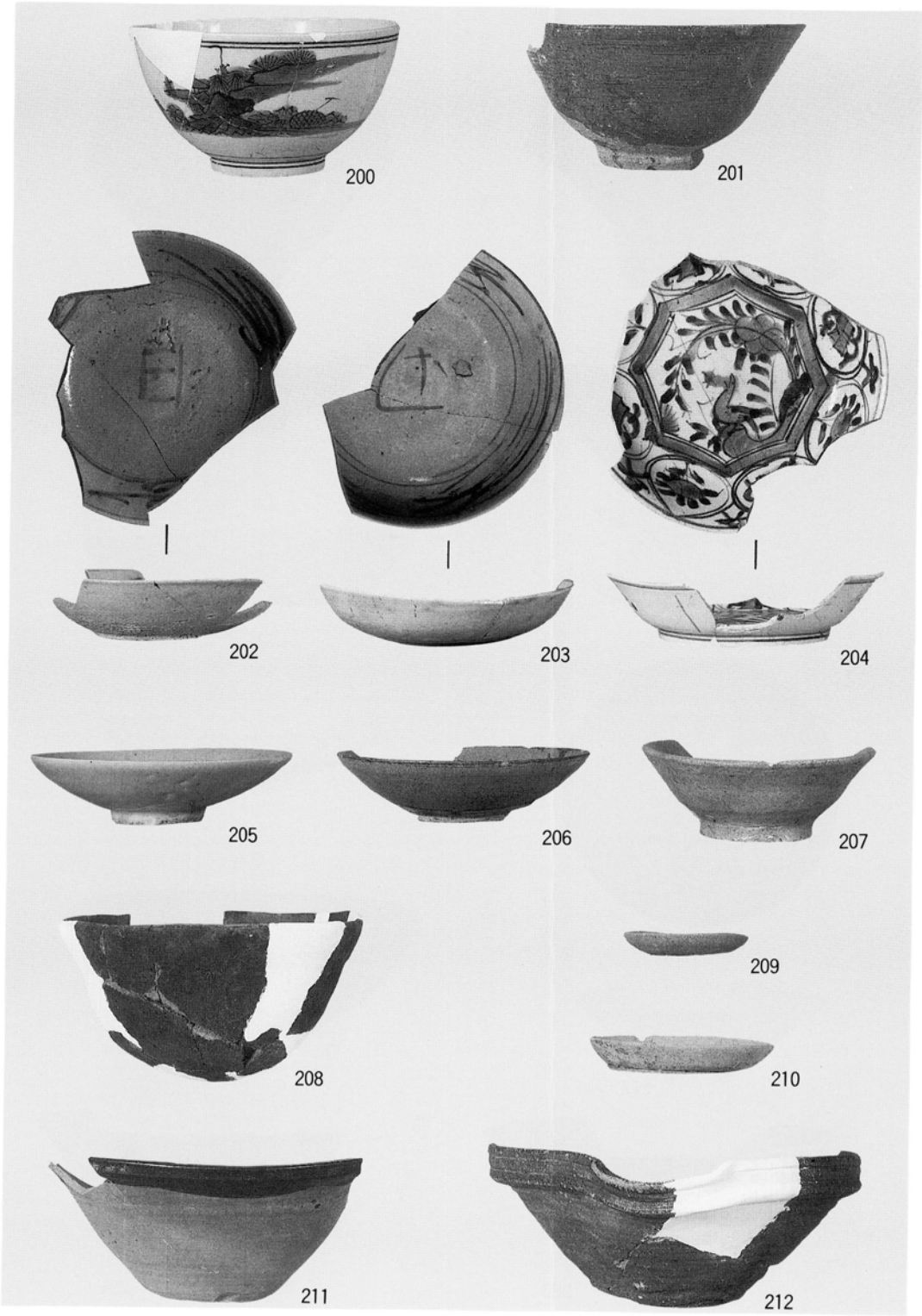
出土遺物(13)



出土遺物(14)

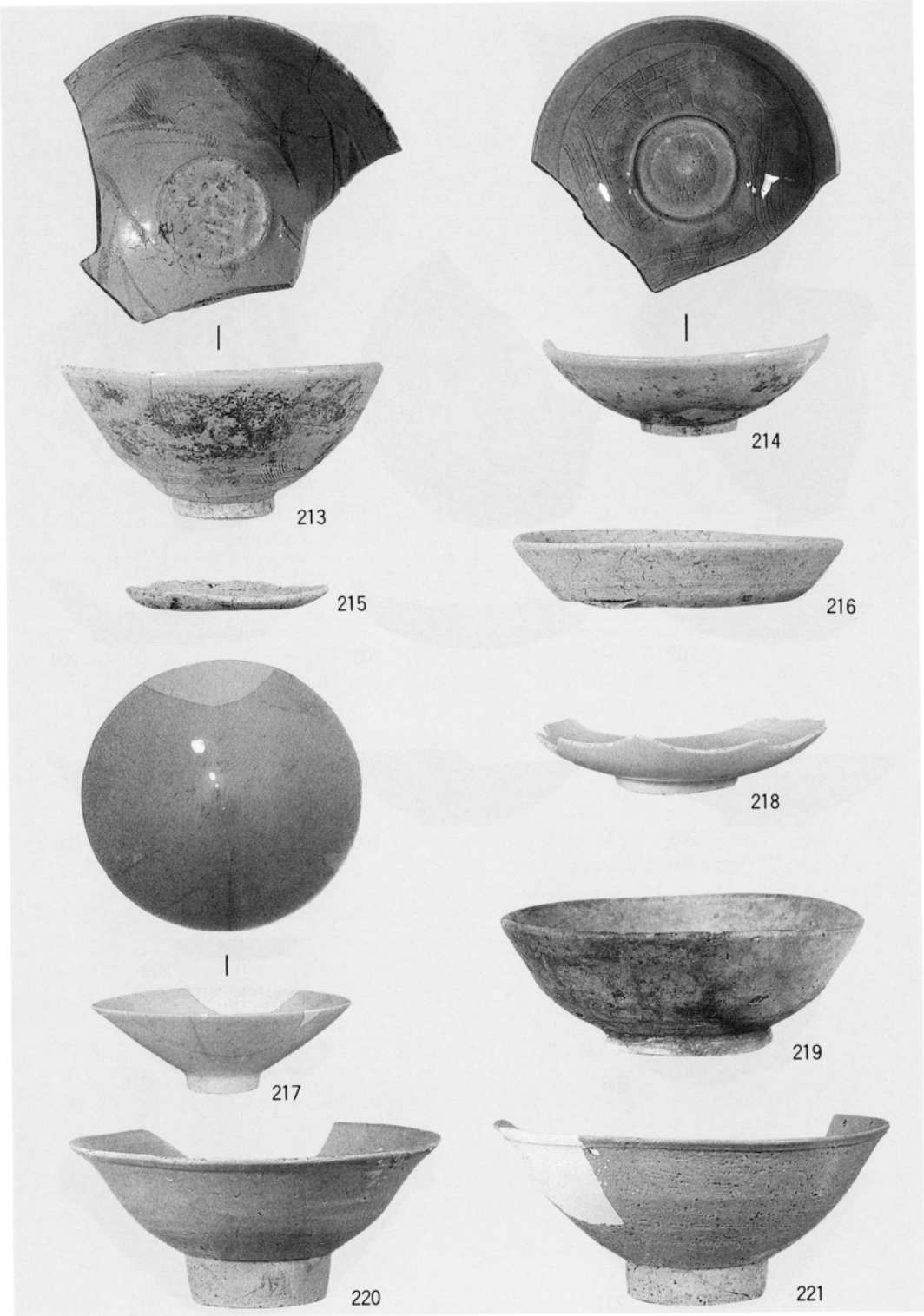


出土遺物 (15)



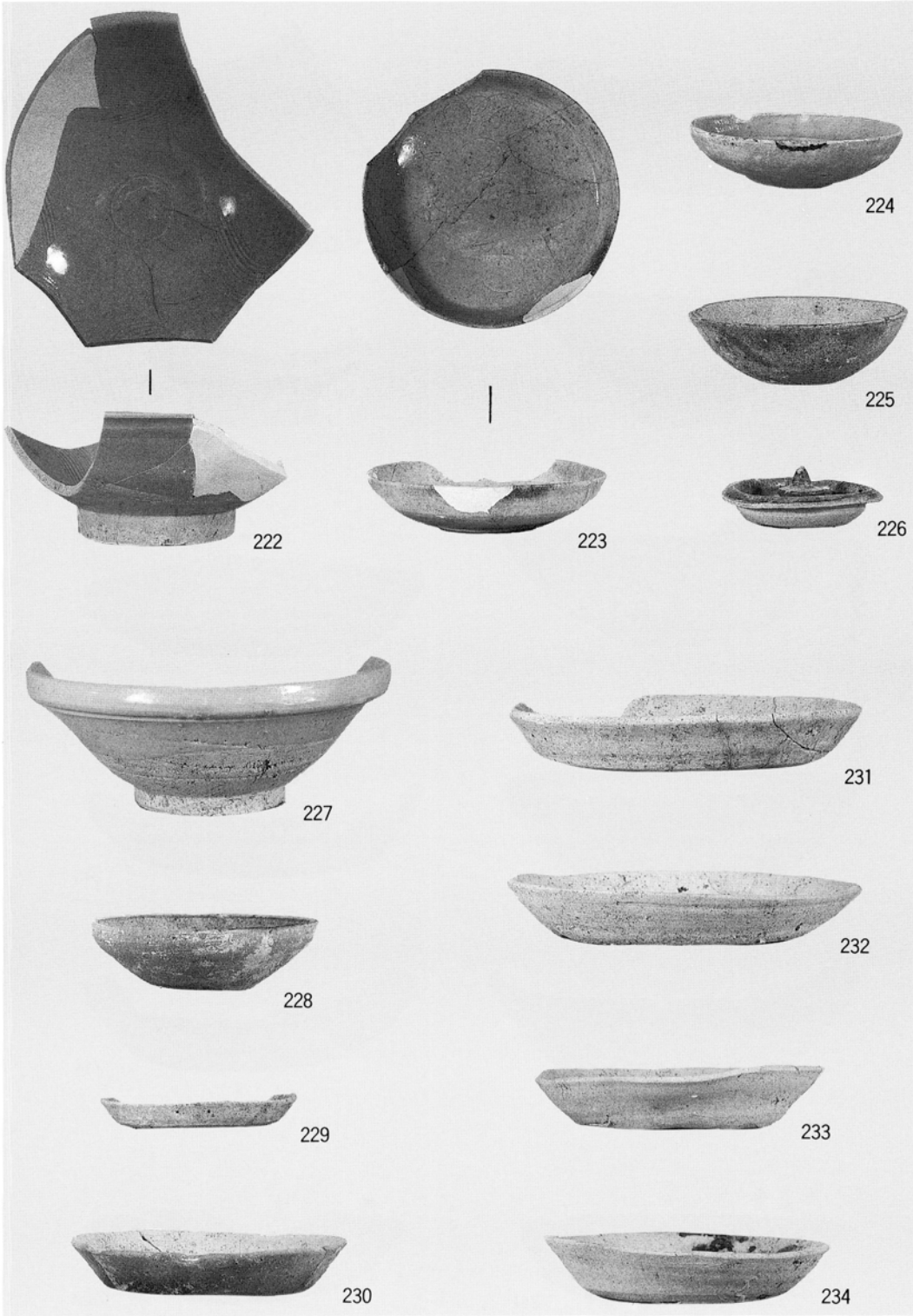
出土遺物(16)

～204までは表1参照　205：白磁　206：陶器　207：李朝白磁　208：土鍋　209･210：土師器　211･212：陶器擂鉢
205･206･209･210･212･：ＳＫ202　207：ＳＫ201　208：ＳＫ203　211：ＳＫ208



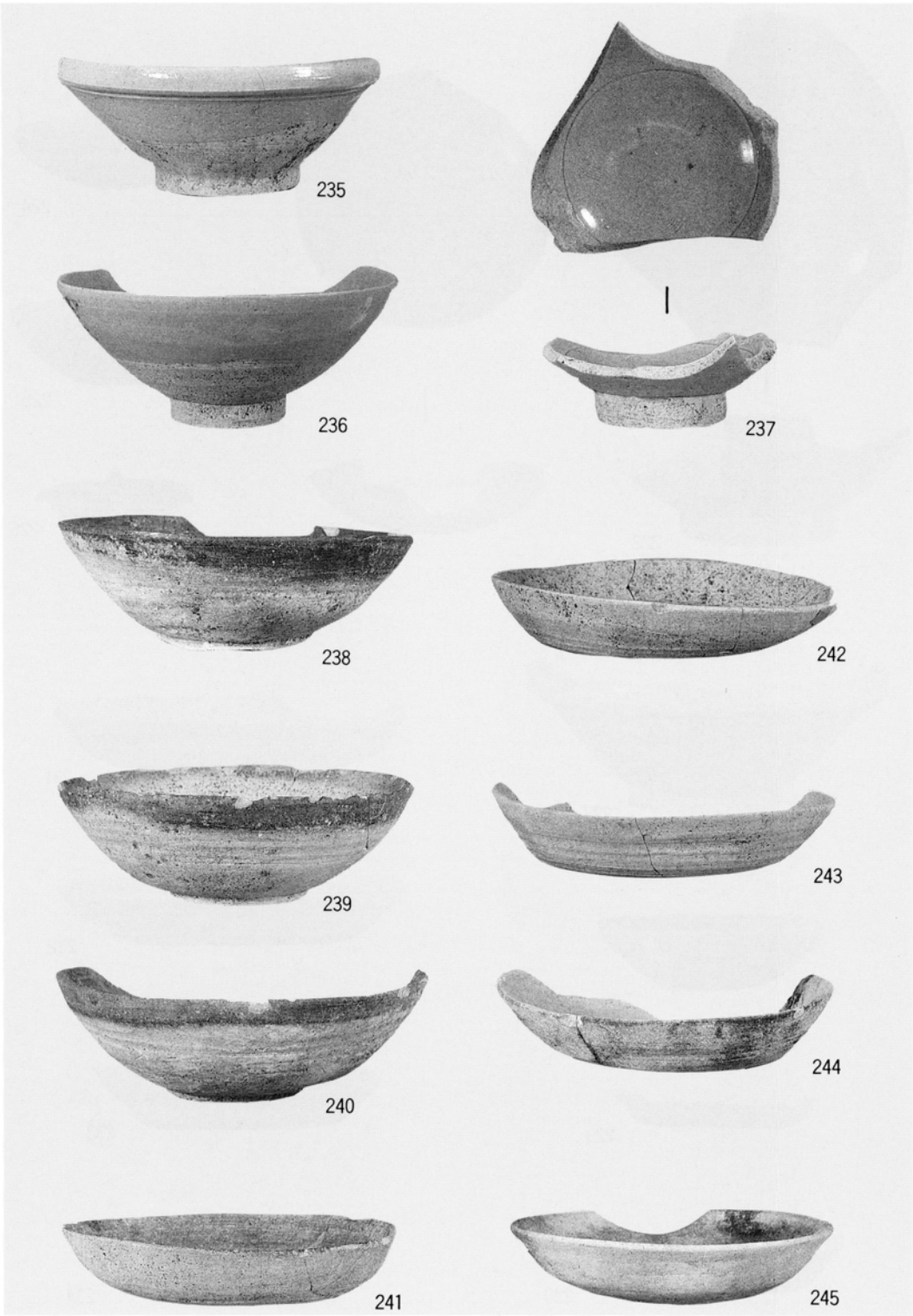
出土遺物(17)

213・218・220・221：白磁　214・217：青磁　215・216：土師器　219：瓦器
213～216：ＳＫ226　217～219：ＳＫ230　220・221：ＳＫ234



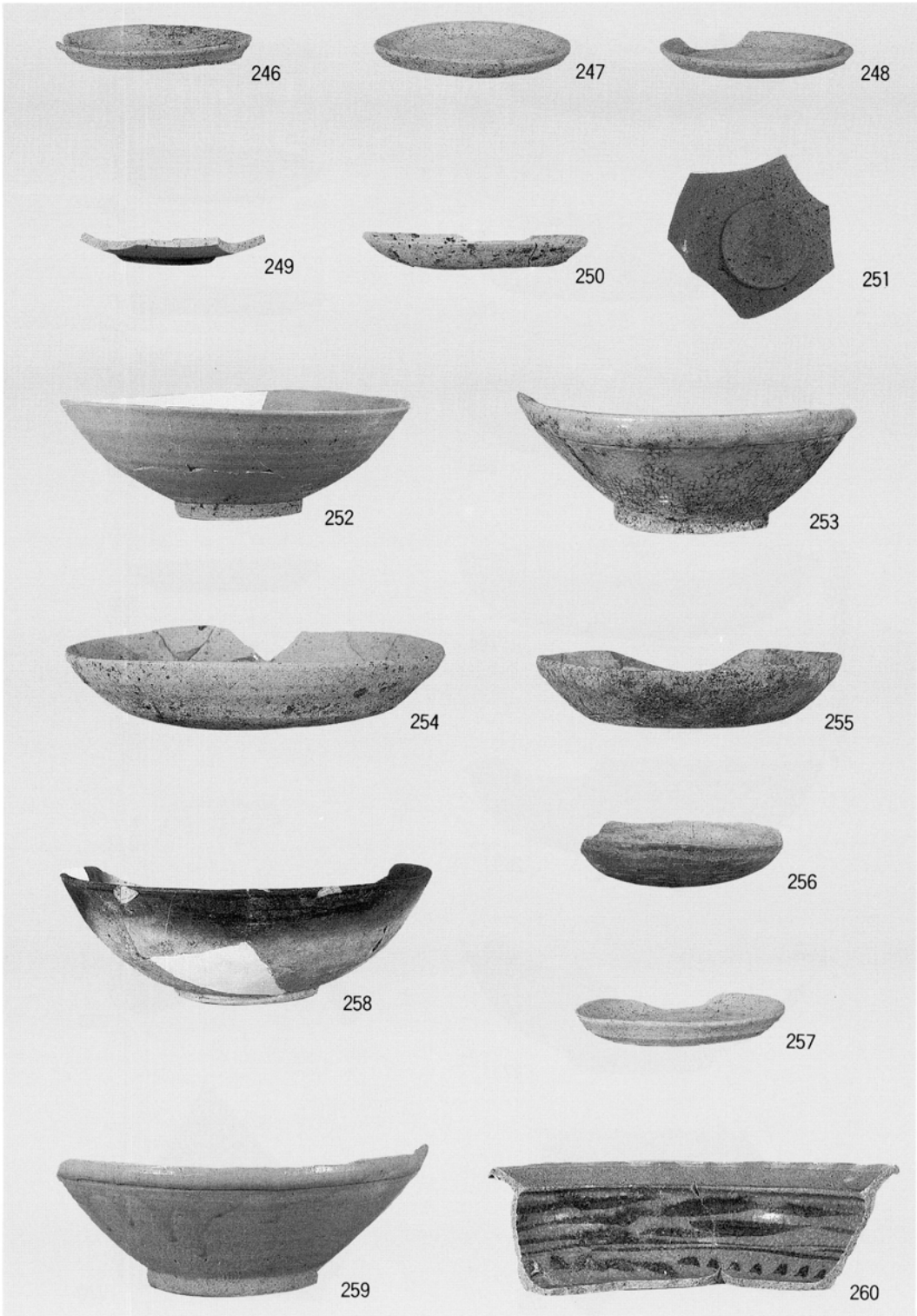
出土遺物(18)

222：青磁　223・224・227：白磁　225・226・228：陶器　229～234：土師器
222・224～226：ＳＫ234　223：ＳＫ244　227～234：ＳＫ145



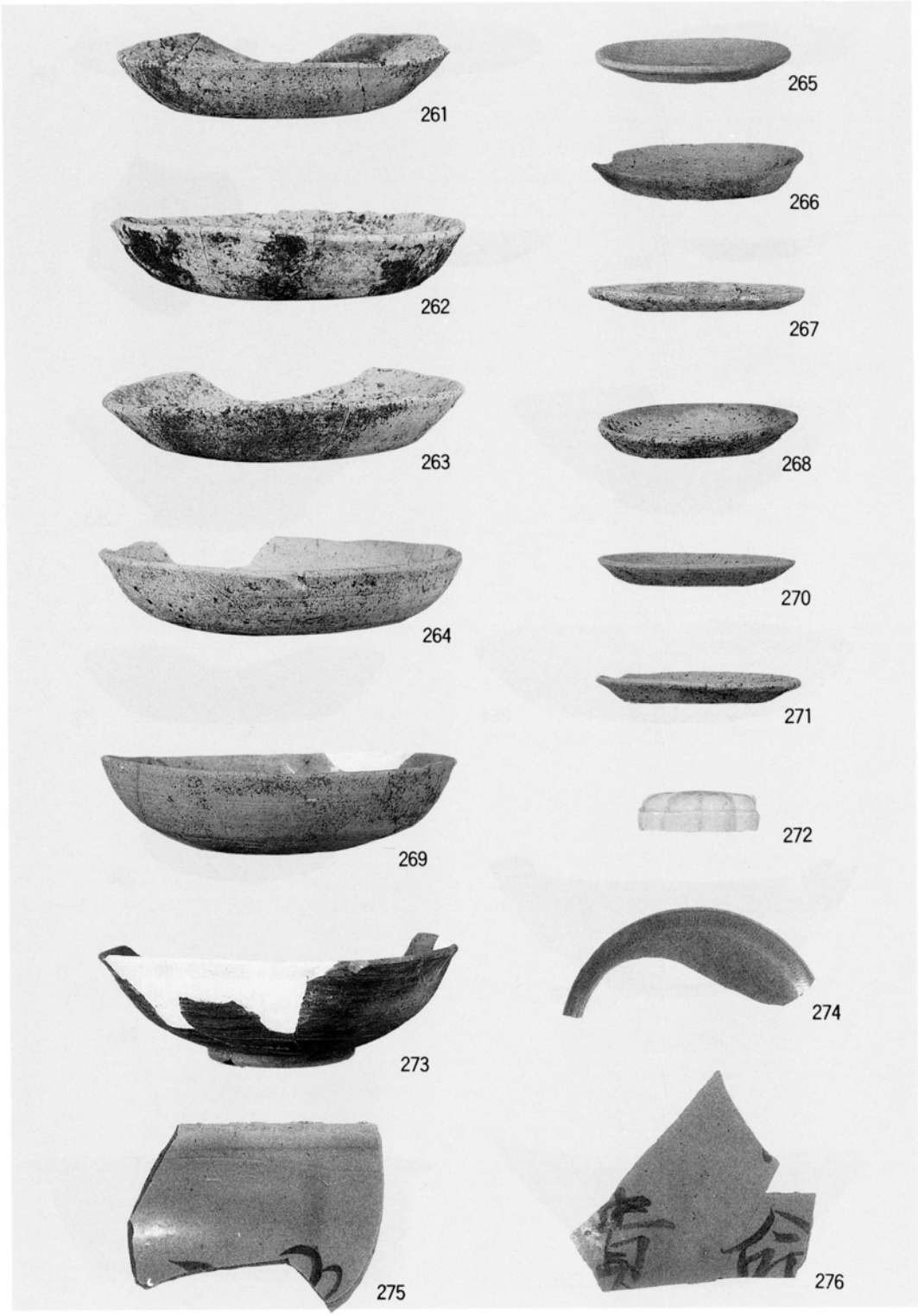
出土遺物 (19)

235～237：白磁　238～240：瓦器　241～245：土師器
235～245：ＳＫ303



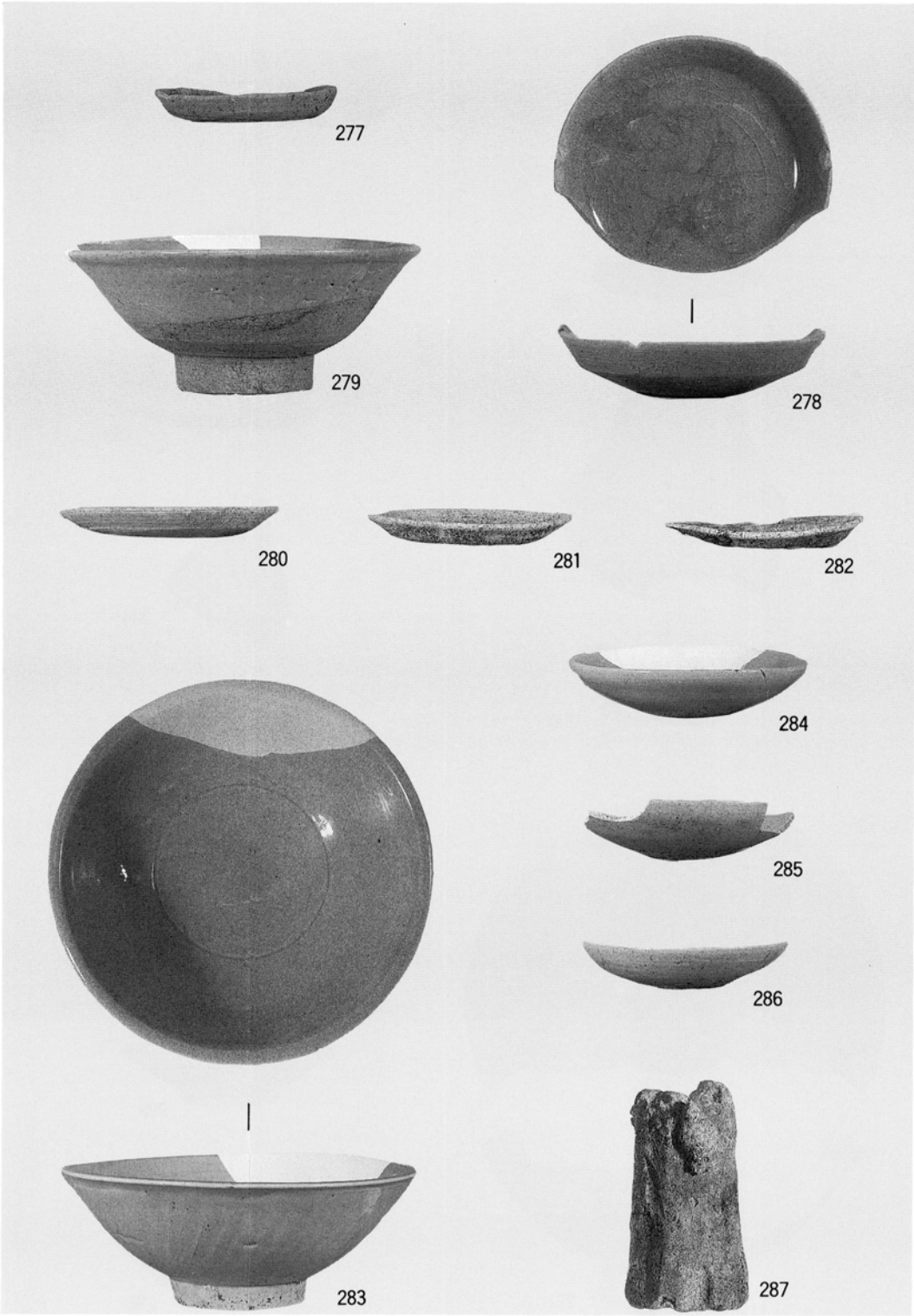
出土遺物(20)

246～250・254～257：土師器　251～253・259：白磁　258：瓦器　260：陶器
246～248：ＳＫ303　249～255：ＳＫ308　256～258：ＳＫ312　259・260：ＳＫ316



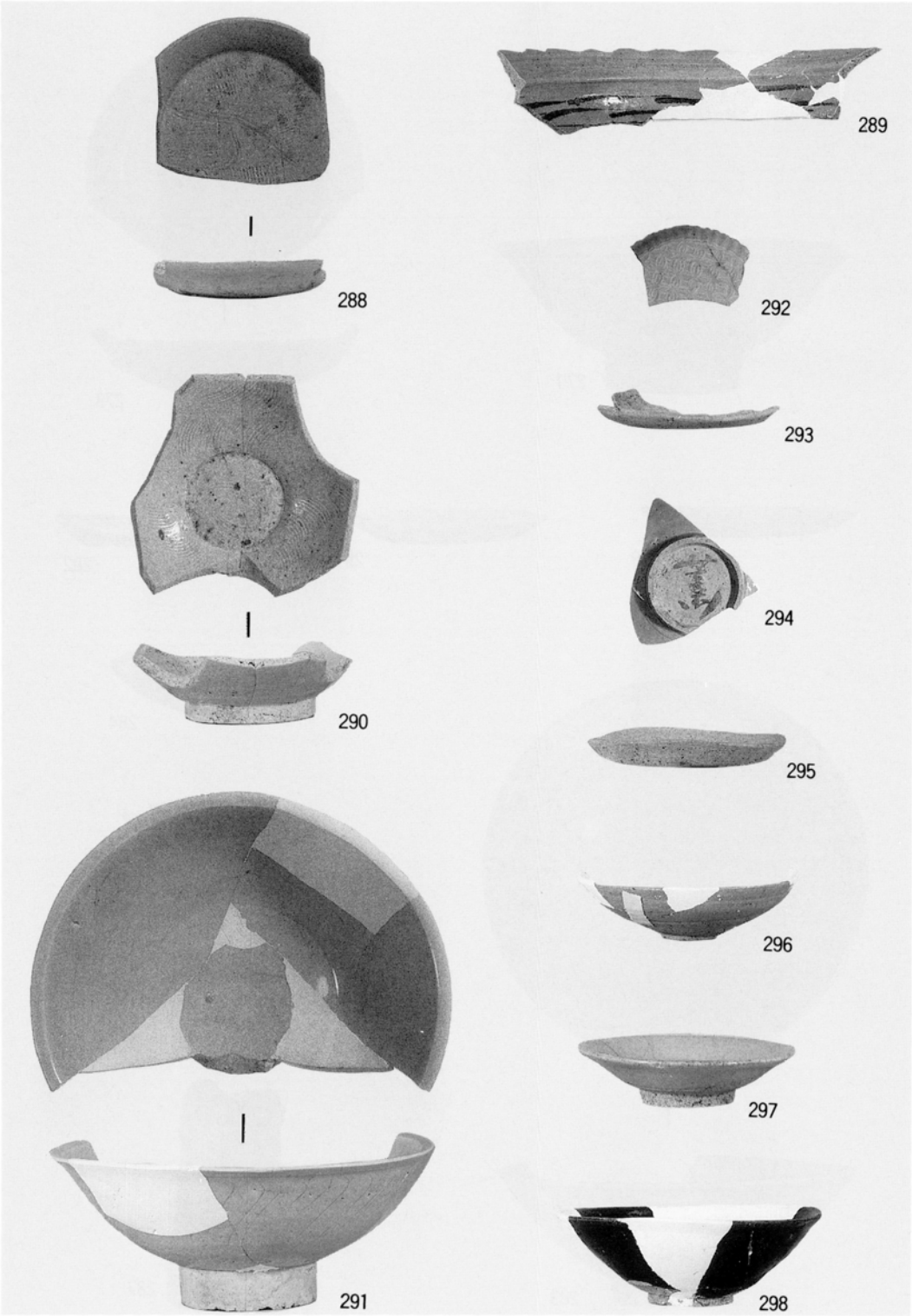
出土遺物(21)

261～268・270・271：土師器　269・273：瓦器　272：青白磁　274：青磁　275・276：陶器
261～263・265～268：ＳＫ316　264・269～274：ＳＫ318　275・276：ＳＫ319



出土遺物(22)

277・280～282：土師器　278・279・283～286：白磁　287：鞴羽口
277・278：ＳＫ319　279～281：ＳＫ332　282～286：ＳＫ341　287：ＳＫ403



出土遺物(23)

288・294：青磁　289・298：陶器　290・291・296・297：白磁　292：青白磁　293・295：土師器
288：ＳＥ110　289～292：ＳＥ309　293～298：ＳＥ327

博　多　18

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第246集

平成３（1991）年３月15日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目８－１
(092)711－4667

印　刷　同盟印刷株式会社
福岡市博多区博多駅南六丁目６－１
(092)431－4061